R.I 第268・267地区

第11回RYLAセミナー報告

人と出あい
神と交わり
愛の火の
もえるところ

PUT LIFE INTO ROTARY-
YOUR LIFE

1989年4月1日～4日

RYLA 運営委員会

開催地　西日本青少年野外活動センター
(神戸YMCA 余島センター)

もくじ

第11回ロータリー青少年指導者養成セミナー（RYLA）が終わって　神木　董……1

RYLA 挨拶　三宅俊三……3

ディーンより　江藤一明……6

セミナースケジュール　8

講演　9

人類を愛する　岩村　昇……11

人としての愛　渡辺和子……32

自然を愛する　福岡正信……67

参加者感想文　86

Aグループ……87

Bグループ……102

Cグループ……113

参加者名簿……125

あとがき　平地保治……129

第11回ロータリー青少年指導者養成セミナー（RYLA）が終わって

国際ロータリー第268地区ガバナー

神　木　　董

R. I. 第267地区（四国）第268地区（兵庫）の合同 RYLA も終りが近づいて参りました。今年は昨年より暖かく余島はウグイスの声と満開の桜で春がいっぱいでしたね。余島での RYLA セミナーはいかがでしたか。

今回は「愛」をメインテーマに R. I. 国際理解平和賞受賞　岩村　昇氏が「命の尊重」岡山ノートルダム清心女子大学学長　渡辺和子氏が「心の目でものを見ましょう。心の耳でものを聞きましょう」自然農法提唱・実践者　福岡正信氏「自然農法と世界」など、いずれも心に残る素晴らしい基調講演でした。同セミナーは「友との出会い」の貴重な場所でもありますが、心の友は得られましたか。楽しみながら修練を積み、多くの友人に恵まれて、きたんのない語り合いの時間を持ち、得るものが多かったと思います。

ある参加者は

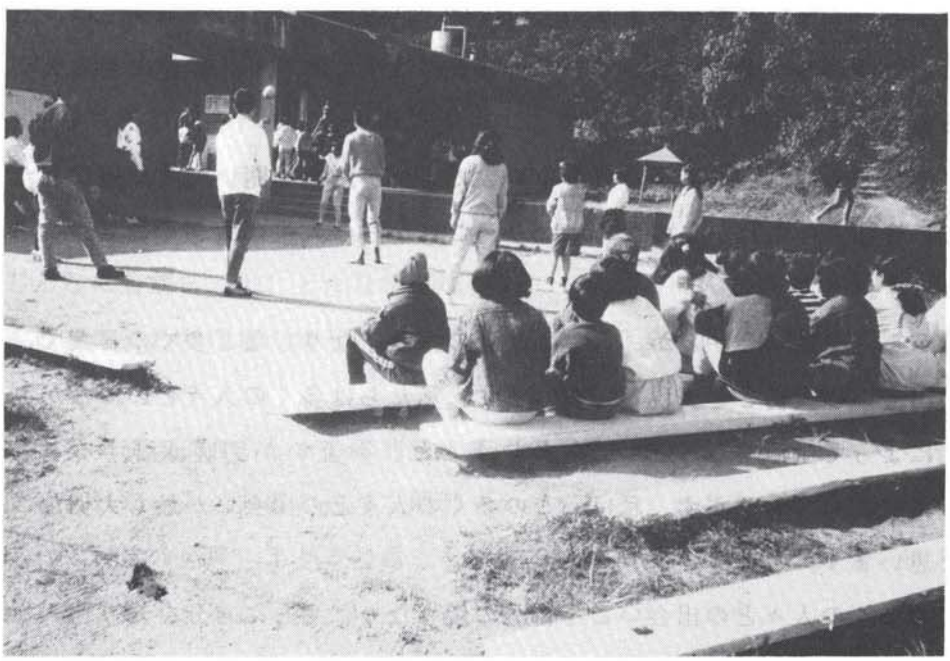
- RYLA のおかげで僕はこれまでの仲間と違った人たちと広く知り合うことが出来た。
- RYLA は実に魅力的な考え方や、アイデアがいっぱいで、何かをしたいという気持ちにかられます。
- RYLA は自信とリーダーシップと心構えを与えてくれた。

と言っています。ロータリーは奉仕の機会を広めるために先ず、多くの友達をつくることから始まります。ロータリーが成功したのは、職業をもつ人達の

親睦をはかる組織だからなのですが、RYLAの参加者もいろんなロータリークラブから選ばれ、それぞれのグループで奉仕活動中の人たちです。

ロータリーの奉仕の心とは、あなたの身になり、あなたの立場に立った、人の心の痛みの分かる思いやりの心です。ロータリー精神もキリストの言う「何事でも人々からして欲しいと望むことをしてあげなさい」また論語の説く「己の欲せざるところ、人に施すなかれ」とは同一で、人を思いやり、他人のために尽くす「愛」がすべての基本だと思います。ロータリーは思うだけでなく、積極的に行動することを希望しています。

皆様にはRYLAで学んだ「人を愛する尊さ」「友と幸せを分かちあう心」を大切に、素晴らしい人生を歩んでいただきたく思います。



RYLA 挨　拶

国際ロータリー第267地区ガバナー

三　宅　俊　三

第11回 RYLA セミナー開催に当たり、多くの方々にご参加いただきましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。開催地余島では、この時期、例年より桜花咲き乱れ、皆様方を島全体で歓迎いたしておりました。

今年のテーマは「愛」であり、岩村先生・渡辺先生そして福岡先生は、それぞれの立場から「愛」についての考え方をご講演くださり、私達に愛の大切さをお教えくださいました。

すばらしい講話と共に、わずかな日数でしたが胸襟を開いて共に過ごしたことは、皆様方のこれからのためになり、これからの人生に大きく役立つことと思います。

昔から「一期一会」とか「人生は時計の振り子なり」など多くの言葉で、人との出会いの大切さを表現しております。私たちは多くの人々とのつながり、支えによって生活することができます。 また、お互いが切磋琢磨することによって成長しております。私は、この多くの人々との出会いが最も大切なことだと思います。

この多くの人々との出会いこそ自分の鏡となり、さらに自分を知り他人を知ることができるのであります。人を非難し人を責める前に、自分を見つめ自分を責めることが必要であります。

とかく他人のことについては、良いこと悪いことに関わりなく、目につきま

すが、自分については、同じことをしても、気づかず分からないことが往々にしてあります。私自信今までそのような経験をして、自分で不愉快になったり自分を惨めに感じたことがありました。そのような時には、自分の心の狭さや自分の足りなさを嫌というほど思い知らされております。口でどんなに素晴らしいことや理論を述べても、実行が伴わなければ意味がないことであります。

このような意味合いから、私が常に心掛けておりますことは Involvement のある生活ということであります。その時、そのときを価値ある時間として過ごすように努力することであります。私は、このために自分で自分に枷（かせ）を作りました。

それは、自分に対してのモットーを持つことと、毎朝冷水をかぶることでありました。

私は、ロータリーは人間形成の場であり、また、RYLA も形こそ違え、同様だと考えております。

かつて、私の学生時代の寮生活は、今日の RYLA とよく似た生活でありました。「医師になる前に人間たれ」ということで、多くの友人やその他のあらゆる人々と交流し、さらに同じ釜の飯を食べて心を開き、裸になって付き合いをすることこそ、最も大切なことであると信じておりました。現在はなお同じ気持ちで日々を過ごしております。

どんなに着飾っても、どんな地位についても、しょせん皆同じ一人の人間であることに替わりはありません。世界中の人類は、全て同じ人間ではありませんか。

科学の発展により、私たちは非常に多くの恩恵を受ておりますが、この恩恵を受けられない人が、国の内外を問わず、非常に多くおります。

また、科学の発展によりその恩恵を受ける反面、自然環境破壊あるいは人と人との絆を傷めつけた行為といったことも起こっております。

RYLA にご参加の皆様、私たちは世界平和、飢餓対策、環境保全をはじめ多くのことをしなければなりません。

しかし、いかなる活動をするにしても、また、私たちの日常生活においても、

底流にあるものはお互いの心と心の交流だと思います。

これからの日本を担う皆様方が、今回の RYLA 参加を一つの出発点として、それぞれの立場で、それぞれの分野で、このような気持ちをもって活躍されますことを期待いたしております。

ご多忙の中お越しいただきました講師の先生方をはじめ、ホスト役をしていただきました第267地区、第268地区の担当役員の皆様、地元小豆島ロータリー・クラブの皆様の暖かい友情とご協力のもとに、第11回 RYLA を大成功の裡に挙行できましたことにつきまして、心から厚く御礼を申し上げます。

ご参加の皆様の今後のご活躍とご健勝を心からお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

デイーンより
第11回ライラセミナー

ディーン

江　藤　一　明

第11回ライラセミナーが平穏無事然も成功裡に終了出来ましたことは参加者全員の皆様のお陰でありと存じ心から感謝申し上げます。

1）桜　花

センターの周囲の桜は9分咲きで殆ど満開で4月1日私達を迎えてくれました。3泊4日散ることなく満開のまゝで見送ってくれました。毎年この桜はライラ受講生を或る時は蕾の姿で、或る年は5分咲でというように姿を替えては迎えてくれました。お別れの時は時に舞い乍らもの寂しく散る姿で、時には満開のまゝの姿で来年も亦合いましょうと私達を見送ってくれた桜でした。

去年は遂に咲かずじまいでした。桜花よ有難う。又来年会うネ

2）天　候

ライラセミナーも、回を重ねること11回となりました。

この11年間快晴の連続は今年が始めてでした。全ての行事が無事終了出来たのも天候の良さでした。神に感謝せずにはおられません。

3）講師先生

今年のメーンテーマは第267地区三宅ガバナーの提唱された「愛」でありました。4月2日はR.I.国際理解平和賞受賞者の岩村昇先生から人類を愛する「生命尊重」続いて岡山ノートルダム清心女子大学学長渡辺和子先生より

は人としての愛「心の目でものを見ましょう」「心の耳でものを聞きましょう」

第３日目は　自然を愛する「自然農法と世界」と題して自然農法提唱実践者である福岡正信先生から承りました。三者の先生方の熱心な講義は受講性の心を魅了し、心を打たれ、心を浄められ、心を発奮させられリーダーの心構えについて夫々自覚させられました。

４）病　気

毎年10名位は救急箱のお世話になっていたのに今年は只一人丈の外傷者、こんなに全員が元気だったのも始めてでした。

５）明るく朗か

カウンセラーの先生方にお集まり願って各班の皆さんの様子をお聞き致しますと、各班とも明るく朗かですとの返事でした。

素晴らしい受講者の皆様であったことを知り心から皆様に感謝申し上げます。

ディーンとして十分なお世話が出来なかったことをお詫び申し上げます。にもかゝわらず天気に恵まれ桜は満開、病人はなく明るく朗かで全コースが終了出来ましたのは、平地保治第267地区ライラー委員長の計画実施運営等全般に亘る御奉仕には頭の下る思いが致します。有難うございました。梶浦、萩原P.G.深川ガバナノミニーに直接御指導賜り又第268地区篠原、三木、安戸先生第267の谷口、吉本、吉原、元広先生本当に御苦労様でした。謹んで御礼申し上げます。

〈セミナースケジュール〉

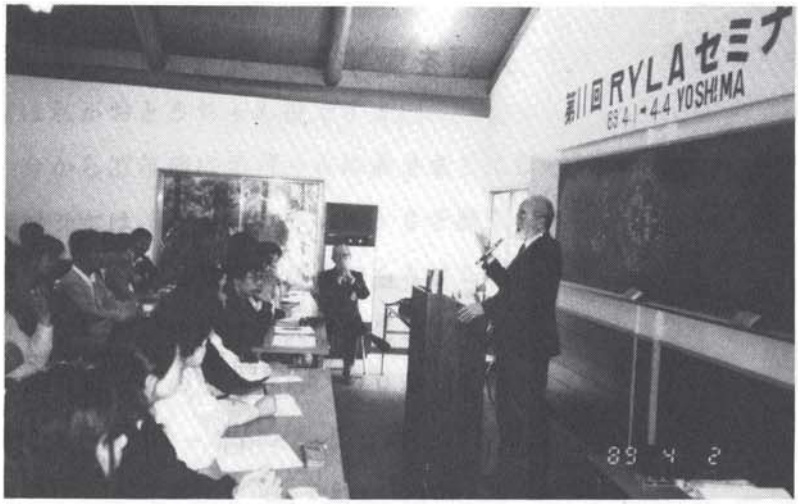
	4月1日	4月2日	4月3日	4月4日
8		朝　食	朝　食	朝　食
9		講　演 人類を愛する 岩村　昇氏	講　演 自然を愛する 福岡　正信氏	フォーラム
10				
11				
12		昼　食	昼　食	昼　食
1		思索の時間	思索の時間	記念植樹 離　島
2		講　演 人としての愛 渡辺　和子氏	レクリエーション ヨット・テニス ソフトボール他	
3	開　校　式 オリエンテーション			
4				
5				
6	夕　食 (オープニングパーティ)	夕　食 自由時間	夕　食 自由時間	
7	キャビンタイム	キャンプファイヤー 親睦の夕	バズセッション	
8				
9				
10				

講　演

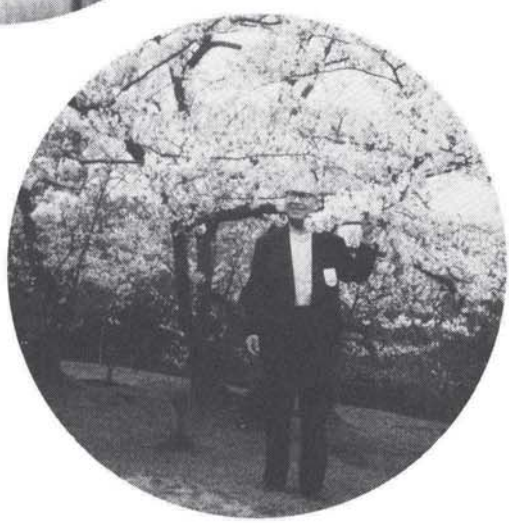
人類を愛する

人としての愛

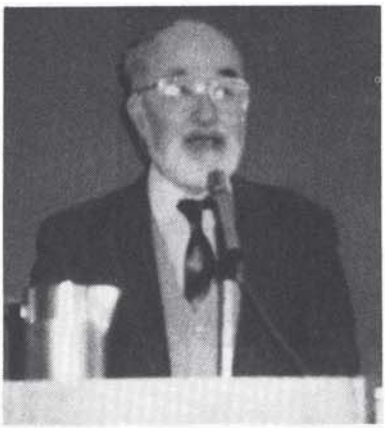
自然を愛する


第11回 RYLA セミナ
89.4.1→4.4 YOSHIMA
89 4 2

RYLA セ
89'4.1→4.4 YOSHIM



人類を愛する



R.I.国際理解平和賞受賞者

岩　村　　昇

ネパールでは、朝会いましたおはようございますも、午後会いましたこんにちわも、お別れの時のさようならも、おやすみの時のあいさつも、みな同じ両手を合わせて“ナマステ”と申します。それから、フィリピンへ行きますと、マニラ周辺のタガオグ族の人達は、右手を上げて“マボハイ”、これがgood morningでもあり、good afternoonでもあり、good byでもあり、good nightでもある。それから、タイにまいりますと、“サワディクラフ”、いつでも、どこでも、誰にでも通用するたった一通りの一言のあさいつ。その意味は、実は、神様の御加護がありますように、神様の祝福がありますようにと。

私ども夫婦、通称おとうちゃん岩村昇と私の家内、通称おかあちゃん岩村文子がネパールで18年、フィリピンて5年、タイで2年、合計25年に学びました事を、今から1時間半ばかりの間に、皆さまにおすそわけしとうございます。

実はこのあいだ、3月21日におとうちゃんとおかあちゃんは、結婚記念日第35回を祝いました。その時におとうちゃんは、前から思っていたんですが、思いきって言ってみました。「おかあちゃん、35年間どうもありがとう。すばらしい人生だったね。もし、もう一回人生を繰り返してもよかったら、またわての嫁になってくれへんか。」ところが、おかあちゃんからはうんともすんとも返事がありません。もう一度勇気をふるって言ってみました。「もう一度二人で旅をするとすれば、またネパールへ帰ろうね。」即座に「はいそういたしましょ

う。」ただし、いつもおかあちゃんのひと言は、ぐさっと刺さります。「ただし、今度は私がおとうちゃん役ですよ。」

さて、今から27年前にネパールに着きましてびっくりいたしました。まず、ご存じヒマラヤは、最高峰エベレスト８千数百メートルから、７千、６千、４千、に至るまで、雪と氷の固まりでありまして、人間は住んでおりません。人間が住み着き始めますのは、大体標高1,800メートルぐらいから、3,800メートルぐらいの富士山の頂上ぐらい辺りからしだいに山並みが下がっていまります。2,000、1,300メートルという盆地、ここに首都のカトマンズがあります。それから更に1,000メートル、それから100メートル、いうふうに下って行きまして、インドの国境地帯にはバナナが生ります。緯度は沖縄と同じで亜熱帯地帯、しかも大陸の内陸国です。しかも９ケ月雨が降りませんので、標高100メートルのインド国境から、大体標高1,000メートル位までは、常夏の国であります。山が砂漠の様に焼けてまいります。９ケ月雨が降りません。そして大体住みやすいのが、標高1,300メートルのカトマンズ盆地から始まって2,000メートル位は暑からず寒からず。こういう山また山の波でございまして決して高原地帯ではありません。こういう地理的厳しさがまずあります。

交通が不便です。医者の数は、人口1,000万に対してわずかに80人、歩いて３日以上いかないと医者の顔が見れないという所に住んでいるのが、全人口の90パーセントと、まあ国中が無医地帯のような状態が、1962年でございました。今から27年前。

それで、私ども夫婦は、赴任先が決まりました。まず、首都のカトマンズから、プロペラの飛行機に乗りまして約２時間半で、ヒマラヤの観光地ポカラというところへ届きます。そこへまいりましたら、行く先のタンセンから迎えの人が来ておりました。「ここからどうやって行くんですか。」と言ったら、「バックナンバー11番の車で」と申します。どういう意味かといいますと「２本の足１１番歩いて」と、「何時間ぐらい」と言ったら、「いいえ、たったの３日です。」こういう訳です。３日かかって３つの山を越しまして、タンセンという、当時人口約200万の西部ネパール山岳地帯にたった１つの病院、それも、

ベット数わずか25というのが建築中でありました。欧米から来たお医者さんも、日本から来た我々も、村の人達といっしょにその辺りのどろを水でこねまして、わらを刻んで入れて足で踏んで、というエジプト時代のやり方とまったく同じ泥日干しレンガを作りまして病院を建てました。雨が降りますと、そのレンガが溶けて雨漏りがいたします。そうすると、村の人達は早速駆け付けて来て修理をしてくれたものであります。だんだん患者さんの数が増えてまいりました。泥レンガの素人造りの病院では足りなくなって、ノルウェーから来た技師さんが、鉄筋コンクリートの新しい病院を造ってくれました。ところが、何が起きたか。雨が降って雨漏りがしても、村人は誰も修繕に来てくれなくなりました。「泥レンガ手作り、我々の汗の結晶である病院は我々の病院であった。でも、外国の人が来て我々の手ではできない鉄筋コンクリートの病院、あれは我々の病院ではない。」

さて、ある朝私の小さな診療室に、小さな赤ん坊が助けられて来ました。赤ん坊の頭に血がこびり付いておりますので「どうしたんですか」とネパールの看護婦さんに尋ねますと、驚いたことに、この赤ん坊を胸に抱いて、一人の母親がこの山道を、三日、四日、五日、六日もかけて、越えて歩いてまいりました。そして七日目の朝、病院に着いた途端に喀血。と申しますのは、胃からではなしに、胸から血を吐いてしまったんですね。レントゲン写真を撮って見ますと、両肺に7つもの大きな結核菌に食い破られた空洞が空いておりました。その空洞に、中ぶらりんになった血管が敗れて喀血をした訳であります。えらいもんですね。私も戦争中に、肺病肋膜炎をやりました。結核になりますと、体の芯から体力が抜けていく様で、いくら頑張ろうと思っても頑張れません。寝汗が出ます。食欲が無い。やせてくる。体力が全然無くなってくる。にもかかわらず母親は、自分の結核の身を救う為にではなしに、生後いつまでたっても太ってこない、骨と皮ばかりにやせていく我が子の命を救いたくて、病院にたどり着いたわけであります。が、必要な知識が無いというのは辛いことで、なぜ赤ん坊が骨と皮だけになって行くのか、それは、母親の結核菌が子供に感染しているからであります。お母さんと赤ちゃんを隔離しました。赤ん坊は私

の家内、おかあちゃんが預かりました。赤ん坊の生みの親のお母さんに3ヶ月間入院してもらって、一生懸命ネパールの看護婦さんが看病してくれたんですが、3ヶ月目に又他の血管が破れて、大喀血を起こして母親は亡くなりました。赤ん坊だけが残りました。

こうやって病院で待っておりますと、手遅れの患者さんばかりであります。それで我々は、巡回診療班というのを組みまして、病院を外にして、山を越し、谷を渡り、村々を訪れて、1日でも早く結核を発見してあげれば今はいい薬がありますから、結核で死ななくてもいいということを1人でも多くの人に知ってもらいたかった。

よく、「おまえはどうしてネパールに行ったんだ。」と聞かれますが、正直なことを申しますと、山登りが趣味でございますので、趣味と実益を兼ねて、というのも一つの理由でございました。ところが、趣味で遊びで登る山は楽しいんでございますが、仕事で、となりますと真に能率が悪い。今このタンセン病院が、標高2千メートルの山頂にあります。向こうの山の上の村に住民検診に行く為には、一度山を降ります。5、6時間かかりまして、標高2百メートルぐらいの所を流れている渓流、そこでテントを張って一泊します。あくる朝、丸木船を雇って川を渡る。そしてたっぷり1日かけて、2日目の晩に標高3千メートルの向こうの山の上に届く。疲れます。夜腹が減って食べる物を探しますが、ネパールで山の中で手に入る物は、稗か、そばか、とうもろこしか、雑穀のかんであります。パサパサして味がありません。さすがに食いしん坊の私も、とうとう夢をみてしまいました。夢の中に現れました。生まれ故郷、愛媛県宇和島の名産蒲鉾が泳いでいる。これはもうホームシックの明らかな症状でございまして、行って2年半で、もう止めて帰ろうと思うようになりました。その時、1人の人生の大先輩、Mr.リンデルというノルウェー系アメリカ人が私を訪ねて来てくれました。世の中にはこういう気の長い人がいるんですね。Mr.リンデルのおじいさんが、ノルウェーからアメリカへキリスト教の宣教師として渡り、Mr.リンデルのお父さんは、アメリカから中国の奥地へキリスト教の宣教師として行っていて、Mr.リンデルは中国の奥地生まれ、奥地育ち。だ

が、革命に追われてアメリカで教育学を学んで、そうしてネパールへやって来て、やがて中国との国境が開いたら、生まれ故郷の中国へ帰りたい、というので準備をしながら、もうネパールで9年たったと。そうMr.リンデルが私にこう言いました。「Dr岩村、君はこの2年半に4千人もの村人の住民検診をしたそうだが、その中で1人の友を得たか。友とは、君が今ホームシックになった。帰りたい、というその悩みを、ネパールのその友の所へ行ってぶちまけて、慰めてもらえるような、そういう親友を1人でも得たか。」と。私は今の今まで、ネパールの人から、日本はもう世界で1、2を争う金持ちの国だ。アジアの先進国だ。そこからやってきたお医者様だと祭り上げられまして、私も又、この貧しい病めるネパールの患者さん達を救ってあげるんだという偉そうな上から下への姿勢ではありましたけれども、自分がホームシックになったという自分の弱みを、まさかネパールの人に相談する。見せ付けるというようなことは、日本人の恥であると思っておりました。しかし、ネパールで、私の悩みを慰めてくれる1人の友を得る為に私はネパールに来ているんだと。それがわかって以来、上から下への姿勢ではなしに、ネパールの人から学という姿勢を取り直してみますと、なんとネパールは、すばらしい学校でございました。一生留年していたくなった。

ある時、一つの村で、一人のお婆さんが倒れておりました。様子を聞いてみますと、やはり結核らしい。病院まで連れて帰りたい。しかし、山の中で救急車の走る道路がありません。電話を掛けて、病院の人を呼ぼうにも、電話の電気がありません。困り果てました。

日本ですと、自分の考え通りに努力さえすれば、人生がその通り成るという、これは事実ではない迷信に捕らわれておりました。何かあれば、電話1本、出前迅速でラーメンもやって来るわけです。ところが、山、という大きな自然にぶつかって、人間の努力が通用しないという壁にぶつかって、私は帰る所へ帰って行きました。実は、私はものぐさではありますが、キリスト教徒のはしくれでございます。母親を通して、又は教会で、祈るということを教えられおりましたが、ネパールへ来て初めて、本物のお祈りができました。「神様どう

か、もう岩村には何もできませんから、お願いします。このお婆さんを救う為に何をすれば良いのでしょうか。」

アジアから日本を見ていますと、日本は非常に恐ろしい。自分の考え通りに頑張りさえすれば、明るい未来があるという、事実ではない迷信が、一人一人の常識になってしまっている。アジアには厳しい自然があります。人間の努力ではどうにもならない。自然と戦うのではなしに、自然の生態の中で、自然の命のサイクルの一部として生かされてあるのだという。人間が、人間以上のものによって生かされてあるのだという、まず大前提があります。資源の無い日本が世界中で、今一番資源を明らかに浪費している国になってしまいました。皆さんにお勧めします。資源を節約して、こんなにまで簡素にsimple living簡素な生活ができるんだという、アジアの草の根の人達の生活の中で、経験してもらいたい。

さて、私はお祈りを致しました。祈りは必ず聞かれます。ただし、人間などの、ちっぽけな考えでは到底思いもつかないような、大きな御心によって。私の祈りは聞かれました。次のように。翌日、一人のネパールの青年が通り掛かりました。ネパールでは、9ケ月雨が降りません。農業ができませんと、皆出稼ぎに行きますが、ネパールヒンズー教のカースト社会の中で、一番低い草の根の人達は、人様の荷物を背負って、いくらかの人夫賃を戴くという、人夫稼業しかできません。その草の根の人夫の青年が、困っている私達を見かけて、自分の荷物を降ろして、そしてお婆さんを背負って、私と一緒に3つの山を越して、3日間かかって、お婆さんを病院まで担ぎ届けてくれたのです。その時に、私は嬉しくなりまして、ボーナスをはずんで人夫賃をと、お金を出し始めますと、その青年が「いらない。」と言って、お金を受け取ってくれません。「なぜか」と問うた私に答えてくれた彼の言葉を、私は一生忘れてはいけないと、胸に刻み付けました。「ともに生きるために。」「自分は若い、体力が余っている。お婆さんは、その若さと体力を無くしている。自分に余っている若さと体力を、ほんの3日間必要としているお婆さんに、おすそわけしただけだ。」と。そう言ってその青年は、裸足で、ぼろをまとった、誠に簡素な姿のまま、

山を越して去って行きました。

私は小学校の頃、教会の日曜学校で、良きサマリア人という話を聞きました。昔、キリストは、こういう話をなさった。ある所に、一人の旅人が旅をしていて、強盗に襲われて怪我をして倒れている。その傍を、「隣人愛を実践しろ。」と言って、いつも説教しているお坊さん達は、知らん顔をして通り過ぎて行ったが、「ああ、あれはサマリアの人間か。」と言っていつも差別されている部落出身の行商人が、その旅人を助けてやったと。

「君達の中から1人でもいい。例えば医者になって、この良きサマリア人のように、困っている人を救う人が出て来て欲しい。」と教会学校の先生、その時、私は、愛媛県立宇和島中学校の5年生。と申しますと、今の高校2年生か3年生でしょうか。でも、ちびっこからみれば、人生の大先輩が、そう話してくれた。それが、少年岩村登の心の中に種まかれたのが芽生えたのでしょうか。

あなた達は、昨日も、昨晩もお話がありましたが、今回、いろんな出会いをされます。出会いのすばらしさは、お互いの中にメッセージが届けられることです。私は、幼き日に良きサマリア人、困っている人を助けるということがすばらしいんだというメッセージを頂いたわけであります。ところが、ところがですよ、考えて下さい。ネパールの山で良きサマリア人は、実は私ではなかったのです。そのヒンズー教の最低のカーストのぼろをまとい裸足で、簡素なsimple livingをしている人夫青年が、3日間お婆さんを担いで一文も取らないという隣人愛を実践してくれた、良きサマリア人だったのです。みなさん、何とか時間とお金を工夫して、アジアを体験して下さい。いわゆる、団体旅行、ツアーで名所旧跡を見る観光旅行ではなしに、ひと汗流す、アジアのお百姓さん達と、ひと汗流すワークキャンプを体験して下さい。先程、梶浦先生が紹介して下さった愛媛県の青年達は、毎年5、6人ずつ、ネパールで木を植えたり、バナナトイレットを造ったりしています。その報告を聞く度に、その報告書を読まして頂く度に、皆が皆一言同じことを言っているのは、ネパールの草の根の人達を通して、こういうことを学びましたと。私個人の25年間の学びは、実は、私個人が何か変わっているから得た恵みではなしに、若い感性を持ってお

れば、新しいことに感激をする、その若さを持っておれば、誰もが体験できるはずです。そして、自分の人生の出発点と、自分の人生の執着目標を摑んで下さい。一番不幸なことは、今の日本がこのままでは滅びるかも知れないことは、一人一人がいったい何の為に生きているのか。自分の人生の出発点と終着目標を見失っていることであります。それを再発見する一番の近道は、僕はアジアで草の根の人達と一緒に汗を流すことだと信じております。

もう少し例を上げてみましょう。私はネパールで、政府から依頼されまして、ネパールの若いお医者さん、あるいは、男の保健夫さん達に、無医村で結核診療をする実習を指導するということを頼まれました。ある年、その研修旅行で無医村診療をやりまして、終りの日が近づいた頃、薬箱は空っぽになってしまいました。その頃、私の腹がしくしく痛み始めました。30分ごとに御不浄に通いますと、下痢、便の中に血が混じっております。腹がきりきりと絞るように痛い。熱もある。この3拍子揃いますと、ネパールの若いお医者さんや、男の保健夫さん達は、何の検査をしなくても、診断を付けます。「教官殿大丈夫ですか」「細菌性赤痢じゃないですか」「その通り。おまえさん、診断当った。卒業試験合格させてやるわ。」と言いたくてももう3日3晩、30分ごとの下痢が続きまして声も出ません。見捨てておいて、教官殿に死なれては大変ということで、生徒諸君はかわいそうに、往復走っても、3日もかかる最寄りの診療所に、抗生物質をもらいに四方へ走り去って行きました。その留守中に、私は村長さんの家の軒下で、藁にくるまって寝ておりました。村長さんは、元英連邦軍のグルカ連隊、ネパールの兵隊さんで、英語がペラペラでありますが、普段はネパール語で話しているのに、こういう時に限って英語で話をするわけです。「Dr,you are very useless.おまえさんは何と役立たずだ」と。「人に医学を教え、自分の病気の診断はできても、何故自分の病気をよう治さへんのや。」と。「だって、medicine薬が無ければ治らん。」と私が言いますと、「このくらいの病気なら、medicineなしで治すじいさんが、この村にはおる。」と、村長さんが申します。このくらいと申しますのは、ネパールでは、雨期になりますと伝染病がはやりまして、その中の細菌性赤痢は、日本の鼻風邪ぐらいたくさんありま

す。が、お年寄りや子供、栄養失調の人は、その鼻風邪ぐらいたくさんある細菌性赤痢でちょうど、鼻風邪から肺炎を起こすように死んでしまうのです。皆がぶつかる問題、しかも大変な問題に対しては、皆が持ち寄ってその問題を解決するという文化が、ネパールにははあります。ここで、文化というのを次のように定義してみましょう。その国の厳しい地勢、自然の中で、世紀を重ねて、その地勢、自然の中でしか営めない農業を営んできた人達が持っている。衣食住の生きる智恵、これを文化と言うなれば、どこの文化が優れている。どこの文化が後れているということはありません。そこに在るべくして在るのが文化であります。同じように、今度は、人一人一人の個性を考えます時に、その人がお母さんのお腹の中に命を宿されてから後、いわゆるお腹の中で受ける胎教を経て、そして生まれ出て、大体3才までに気質、体質の基礎作りができます。その後、置かれた環境教育によって、一人一人の個性が千差万別にできてくるわけです。それを文化というふうに考えてみましょう。私達は、そのような文化の中に生まれ、文化の中で育ち、又自分で新しい文化を作って、次の世代にそれを受け渡して、お役目が済めば去って行くわけです。ところが、残念ながら、いわゆる西欧医学と言われる私共の医学の中では、生物学の応用科学の1つとして、あるいは、死体解剖から始まる医学しか無くして、今の文化の流れの中に、命が生かされてあるという医学を、残念ながら私共は学んでおりません。今から人生を選ぶ、今から人生を作るあなた達は、どうかこのことを忘れないで欲しい。一人一人の中にその人にしかない、文化によって培われた秘められた可能性が備えられているはずです。あなたにしかできない役割があるはずです。21世紀に向かう、この宇宙船地球号の乗組員として。そのことを、どうかこの3日間で、はっきりと掴んで欲しい。あなたにしかできない役割は何でしょうか。あの人から学ことは何でしょうか。この人と分かちあうことは何でしょうか。

さて、ネパールで、私は、その文化ということを学びました。今私は、細菌性赤痢で倒れております。村長さんが、私を担いでくれました。「村長さん、やめて下さい。」というのは、ネパールというのは、先程も言いましたように、

カースト制度の厳しい国でございまして、村長さんという村のトップの人が、いかな大事な客人でも、自分の肩にその人間を担ぐというようなことをしては、次の選挙に落ちます。人夫を雇って担がすのが、村長さんの役割なのです。「やめて下さい、私を担ぐのは。」と申しましたら、村長さんは次のように答えました。「あんたは、ネパールに13年も暮らしながら、まだわしらの心がわかっとらん。あんたは確かに、アジアーの先進国からやって来たお医者様だ。あんたに抗生物質を貰って、たくさんの人が助けてもらった。今迄は、お客様やった。」と。「しかし今は、その薬ものうなって、自分の病気も自分でよう治さん、我々と同じ人、仲間になった。あんたは、今から我々のアプノマンチュだ。」と。アプノマンチュというのは、自分の男、人、つまり身内だ、というわけです。今の今まで、お医者様と担ぎ上げられて、一向にお仲間には入れられてなかったわけです。日本は、このままでは、アジアの人から、兄弟扱いしてもらえません。アジアの人達との間を隔てる、物とお金がかさばり過ぎました。でも、その物とお金を、時間を使って、じっくりと、気長に、おすそわけすることが出来れば、アジアとお仲間になることが出来るのです。どのような、おすそわけの仕方がいいのでしょうか。さて、村長さんは、私を、ある家の前庭に担ぎ降ろしてくれました。一人のおじいさんが出て来ました。そして、大きな太鼓をガンガン叩いて、おまじない。そして、臭い、汚いごみの浮いた汁を私に飲ませました。薬草の汁であります。ぐっすりと寝ました。あくる朝、目が覚めてみましたら、もう下痢は止まっておりました。腹の痛みもありません。熱も下がっておりました。しめた。抗生物質無しで、村にできる薬草で、病気が治る。細菌性赤痢が治る。これをひとつ調べてみよう。せっかく、研修性諸君が、3日3晩走って持って来てくれました抗生物質は飲まずに、よたよた歩きながら、首都のカトマンズまで出まして、カトマンズにしかない、日本の政府が作った国立衛生研究所で、私の便を調べてみましたところが、もう病原菌は、一つも残っておりませんでした。それで私はネパール政府に話しましてせっかくこれだけあるネパールの宝を、薬草の研究所を、その薬草を使いこなせる人を作る研修所を造りましょうと。ほうっておきますと、アジアの発展途

上国の人達は、日本に追い付け追い越せで、日本人が使っている薬をやっぱり飲みたいのです。確かに抗生物質の方が、効きめが早い。薬草は食養生しながら、1週間、2週間休んでいて、体力が回復していく。しかし、基本的には、薬草は、病原菌を殺すよりも、むしろ、病原菌を殺す力を体の中に作っていくように、体を強める働きを致します。長い目で見ますと、健康造りの為には、その気候風土の中で育ってきた薬草の方がいいわけです。

appropiate technology、適性技術と申しまして、これが今、アジアの草の根の人達が自分の足で立ち上がる、自分の為に必要なわけです。人類愛とは何ですか。私は、自分が体験したことが、ただ小さい範囲だけであって、他の人に通用するかしないか。今、いろんな文献を調べたり、いろんな人に会いながらそれを確かめ直しております。scienceというのは、一人だけが出来るものではありません。その原理をわきまえれば、いつでも、どこでも、誰にでも、応用問題が解決できるのがscieceであります。私は自身を持って、私が25年間のアジア経験で学んだことが、scienceである。それを、今一冊の本にまとめつつあります。

さて、舞台をネパールからフィリピンに移してみます。フィリピン大学の医学部を1年に100人卒業しますと、その内の50人はアメリカへ行ってしまいます。同じ医者ならばアメリカの方がいい暮らしができる。残る50人の内25人は、最近サウジアラビア等石油大国へ出稼ぎであります。残る25人の内24人は、10年もすれば、開業して自家用車を乗り回していますが、たった1人、Drギャスメンという男は、100人中たった1人、卒業以来無医村に入りまして、人口5万を対象にたった1人の医者として、頑張っております。

彼の所へ、私は訪ねて行きました。結核の調査をしてみました。人口5万のちょうど1％、500人の結核患者がいることがわかりました。その500人の結核患者を治療する予算を組んでみました。Drギャスメンは国家公務員として、フィリピン政府に申請して見ました。まだ、マルコス大統領時代であります。ところが50人分の薬しか来ませんでした。あと450人分、Drギャスメンは、安月給を節約して、「俺は、この仕事と結婚したんだ。」と言って、45才まで独身を

守り続けて、自分の生活は、誠にsimple livingで、しかし、実に高い思い、high thinking、高い理想を抱き続けて実践しております。そのDrギャスメンの所に、神戸大学におりました時、毎年12人の学制を選んで、そして、もう1つどうしたかと申しますと、自分は、何の為に医者になろうと思っているのかわからない。何故医学部に来たかというと、高校の先生がただ割り振りしてくれたから来たんだと。そういう学生を12人選んで、毎夏休みDrギャスメンの所へ1ケ月間預けました。そうすると、驚いた事が起こりました。出て行く前にも、医学部長にあいさつする。帰って来てからも、医学部長にあいさつします。医学部長がおっしゃった。「君達は、出る前には、腐ったいわしのような目をしていたが、今はたいのような目になったじゃないか。」すると1人が言いました。「いや、いわしはいわしで、別にたいに変わった訳ではありません。しかし、医学部長考えて下さい。何故、神戸大学医学部では、我々いわしの目が腐ってしまうか。たった1ケ月間、フィリピンのDrギャスメンの所で暮らして、いわしの目が輝き始めたのは何故ですか。」

Drギャスメンは、次のような決定をする人です。足りない結核の薬代を、日本のロータリーの皆さんからもお預り致しまして、そして結核の薬を買ってお届け致しました。しかしながら、残念なことに、足りない450人全員には行き渡りません。100人分くらいしかありませんでした。そういう時に、450人中のどの100人にその薬を使うかということは、普通医者が決めます。しかし、Drギャスメンはそうしなかった。民主主義で、そして、450人の結核患者さん達の代表、結核患者会の会長さんに相談しました。その相談の席に、私も出席させてもらいました。実は、その結核患者会の会長さんは、元小学校の先生でした。しかし、自分が結核になって、咳をする度に、教え子達に結核菌が幹線するということを知って、教師を辞めて、村の人達に小さな小屋を作ってもらって、そこで療養生活をしておりました。村の人達から、3度の食事を差し入れてもらいます。その結核患者会の会長さんが、こういうお話をされました。「Dr岩村、あなたの国の人達は幸せです。ちょうど私と同じように。」どういう意味でしょう。わかりますか。次のような事でした。私はいつも、世間さまの

お世話になっている。村の人達から、３度の食事を差し入れてもらっている。自分は絶対安静で、ただ、自分の病気が治る事だけを目的として生きている。何だか寂しかった。しかし、つい先日から、私は新しい人生を見つけました。村のおじいさんと、おばあさんがやって来た。「先生、頼みます。手紙を書いて下さい。うちの息子は、嫁と一緒にサウジアラビアに出掛けて行って、もう２年半経つのに１通の手紙も来ません。仕送りも来ないし、どうしているのか手紙を書こうにも、我々は字が書けません。手紙の代筆をして下さい。」。その結核患者会の会長さんは、目が覚めました。絶対安静にしていても、代筆はできる。自分のような者にも、人様のお役に立つことができるんだと。そういうことがわかって、私は、新しい生きる目標を見い出しました。生き返りました。

あなた達は、今日から新しい目標を見つけて下さい。どんな職場にいてもいいんです。どんな学校にいてもいいんです。しかし、あなたにしか出来ない役割、ちょうどネパールの人夫青年が、３日間おばあさんを担ぎ通して、一文も取らずに、何故かと聞かれた時言い残して行ったように。ともに生きるために。

人類愛とは、決して抽象的な美しい理想ではありません。今日から、あなたでなければ実践できない、その第１歩から始まる訳です。

さて、フィリピンで、ご存じの無血革命が行われました。その時ちょうど私は、フィリピンに行っておりました。フィリピンは国立大学でも、カトリックの国ですから、大学のキャンパスの中にカトリックの礼拝堂があります。また、少数のプロテスタント用の小さな教会もあります。私はプロテスタントですから、その日曜日、フィリピン大学のキャンパスの中の小さな教会へ行きました。驚きました。教会の玄関先に、コンクリートやレンガをいっぱい積み上げております。「どうしたんですか。」と聞きますと、「実は、今朝方フィリピン大学の本部から通知が届いた。マルコス大統領を囲む軍人達が、反マルコス勢力の拠点であるフィリピン大学を潰せというので、今日タンクで押し寄せてくる。その戦車に向って我々は、コンクリートやレンガをぶっつけて戦わねばならない。」ところが、その日曜日の礼拝のお説教、「剣を持つ者は、剣にて滅びる」「平和を作るものは幸いである。」フィリピン大学の教授、ケン牧師さまは、そ

のようなお説教をされました。「諸君、コンクリートやレンガは捨てたまえ。そして女子学生、女子職員が戦車の前に立ちなさい。

男子諸君は、後ろにひざまずいて祈りなさい。フィリピンの軍人の間に、心の変化が起きるように。」、戦車がやってまいりました。一番先頭の戦車のふたが開いて、1人のまだ少年のような戦車兵が降りてまいりました。そして、一番前に白い僧服を着て立っておられた、フィリピン大学教授ケン、フィリピンのカトリックのシスター、その少年兵から見れば、自分のお婆さんのようなそのシスターの前に少年兵はひれ伏して、「I surrender」「私は降伏した」そう言ったのです。そうしたら、後ろで祈っておりましたケン牧師さんが、その少年戦車兵を抱き寄せて、「君は神様に降参したんだよね。」と言われたのです。あの時、町中に手書きであふれておりましたポスターには、people's power with God.神とともに在る人民の力、people's peace by prayer祈りによる人々の平和。

みなさん、気をつけて下さい。これ程情報が反乱しておりますのに、当時日本に報道されましたマスコミの中では、people's powerだけが皆さんの目に、耳に届き、with God.とか、by prayer祈りによってということは、欠落しておりました。

私の申しますことは、実は、アジアに特有の文化ではなしに、宇宙船地球号の乗組員であれば、誰でもが共通に持っている物のはずであります。今、1冊の本にまとめようと思って、東西の文献を調べ、東西の人達に会って話をして行くうちに、私はその点に到達しました。真理は1つであります。その真理に忠実に生きることが、即ち人類愛であります。真理とは何でありましょうか。

タイで2年間暮らしました。そこで、Drソモアーズという若い新進気鋭の大学の助教授に会いました。彼は中国系の人でありまして、ひいじいさんの時代に、中国からタイに移民して来ました。お父さんは、地方都市で農業機具の販売をしているビジネスマンでした。彼は、その県で1番の成績で選ばれまして、日本の文部省が行う留学生試験に合格して、日本国政府に留学資金を支給されて、日本へ来て、私など、7度生まれ変わっても到底通る心配もない、東京大学医学部に留学致しました。その秀才のDrソモアーズは、卒業後、尚7年間か

けまして、日本でまず、公衆衛生の博士号を取り、そして、アメリカのハーバード大学で外科医としての研修を積みました。そこまでやった、洋行返りのお医者さんならば、もう開業してお金儲けをするのが、本人だけではなく、親、親戚、兄弟の望みでありますが、Drソモアーズはそうしなかった。primary healch careタイのアジアのprimary、一番草の根の人達が、自分の生活の現場で、自分の人生を作って行く。そういう基本的人権が、宇宙船地球号の乗組員ならば、誰にでもあるはずだと。自分の人生を自分で作って行く。しかし、それが、不慮の人間の力ではどうにもならない飢餓だとか、あるいは小さな戦争とかによって、農業が成り立たなくなって、落ち込んでしまった人。そういう人達を引き上げて、自分の足で立てるようにしてあげる。そういう中で健康を作って行く。基本的人権思想がある。primary healch careをタイで作って行く。そういう中心的働きをしておりました。それを、日本国政府が援助した訳であります。このDrソモアーズが、新しく始めました、graduate healthボランティア、医学部以外の、教育学部を卒業した先生の卵とか、あるいは、もうすでに、銀行へ努めている社会人だとか、タイの若い青年達を選りすぐりまして、そして1年間、タイの草の根の中に住み込んでもらう。そして、読み書きのできない大人達に、複式簿記が出来るまで、農業簿記ができるまで、成人教育を致します。そして協同組合造りを奨励致しまして、その協同組合の基金の中から、健康保険を作って行くというprimary health careの実践を始めた訳です。そのDrソモアーズは、日本が大好きであります。彼は東大医学部時代に、非常に恵まれた文化に触れました。YMCA、ご夫人のクリスチャンの集まりの中で、日本人のおかあさん役を買って出てくれた人が、毎週土日、自分の家へ呼んで、自分の子供の中の1人のように世話をしてくれたのです。その日本のおかあさんの郷里が、奄美大島であった。そこで東京から自転車に乗って、日本列島を縦断して西へ下り、南の奄美大島へ船で渡って、奄美大島の人達と会って、「あれ、タイの草の根の人達と同じじゃないか。」本当にsemple livingで、しかも、思いやりがある。気配りが出来る。high thinkingな人達と出会いました。ところが、その後日本を訪れる度に、段々に日本のアジアに共通した、いや、宇宙船地球号、人類

に共通したこのsimple living,high thinhingが、日本で一番急速になくなりつつあることに気付いたのです。「Dr岩村、これでは日本は滅びますよ。」彼は言いました。

Drソモアーズの努力で、今から、アジアの発展途上国で働こうとする、日本の若いお医者さんや看護婦さんや保健婦さんが、タイのDrソモアーズの大学に来て、先ほどの、タイの若い人達が住みついているモデル村に一緒に住み込む。それで、言うなれば、本番でアジア発展途上国へ働きに出る前の準備を、インターンをしてもらうことになりました。そういう研修コースで私は、頼まれて、次の話を自慢話で話しておりました。

私の自慢話は、ネパールの養子養女の話であります。私ども夫婦の間には、自分の子供は1人もいない代わりに、ネパールで、結核やコレラや事故で両親を失いました、親のない子供達が、日本の子供のないお父ちゃんやお母ちゃんの所へ次々と届けられてまいりまして、ついにある時気がつきましたら、女の子が6人、男の子が6人、合わせて12人という数に達しておりました。放っておくと、うちのお母ちゃんは何人でも引き取ってしまいます。

さて、その12人の養子養女の中で、上から2番目のウマという養女は、日本の主にお母ちゃんのお友達の浄財をお預り致しまして、初めは、ネパールの農村婦人生活学校というのを作りました。チトワンというネパールの、インド国境に近い、まるで砂漠のようになってしまった開拓村に住み着きまして、婦人生活学校を作る工事小屋に、その晩泊まっておりました。冬の寒い朝、夜明けにゴンゴンゴンゴン戸をたたく音がしますので時計を見ましたら、まだ4時半でございます。「どうしたの」と言ってこじ開けて見ましたら、小さな、5・6才の少年が、ドンゴロスを頭からかぶって、がたがた震えております。その少年が「ヨ、ディディコラキ」「これ、お姉ちゃんのためだよ。」と言って、胸に抱いた物を差し出してくれました。とうもろこしの束でした。ネパールでは、“自分の足で立て”というのが家庭教育の第一歩でありまして、男の子は5・6才になりますと、農業の中で一番簡単な、とうもろこしの栽培方法をお父さん達から学びます。生まれて初めて、自分の手で収穫できたそのとうもろこし

を焼いてお父さんとお母さんに食べてもらいました。喜んでもらいましたが、一束残りました。この一束を誰にあげようかと思って胸に抱きながら、その少年は、寝付いてしまいました。あくる朝、寒さで早く目が覚めまして、ぱっとひらめいたのが、ディディ、即ち私の養女の一人、ウマのことをディデイ、お姉さんと呼びます。ネパールだけかと思いましたら、フィリピンでもタイでも、自分の血はつながってなくても、尊敬できる人生の先輩のことを、お兄さん、お姉さんと呼ぶ習慣があります。あなた達が、フィリピンの妹を持つことが出来たら、どんなに素晴らしいでしょう。君達が、タイの弟を持つことが出来たら、どんなに素晴らしいでしょう。お願いです。どうか皆さんが、アジアの人達から、ディディ、お姉さん、ダッシュ、お兄さんと呼ばれるようになってほしい。

さて、その少年が、自分が初めて栽培して手にすることが出来た一束のとうもろこしを尊敬するディディ、私の養女ウマに届けてまいりました。何故でしょう。

ウマが、毎月報告書を送って来ます。その手紙のインクの文字が、涙でにじんでおりました。その中に、次のような文面がありました。私は、せっかくフィリピンに留学して、フィリピンから、農村婦人生活学校の作り方を研修して、そして、今それをこの貧しい村の人達のために作ってあげようと努力してるのに、村の大人達は、何を言っているか。「フィリピンにまで留学したお嬢さんが、こんな汚い、貧しい村にやって来てるのは、きっと何か訳があるに違いない」都におればいい縁談が降る雨のごとくあるはずなのに、わしらのような者の中に混じっているのは、もうろくな者の所へ嫁に行けん、傷者になった。あれは、世の中から捨てられた娘に違いない。」そういう噂が、ウマの耳に入ります。「くやしい。なぜわかってもらえないのか。」人間は、いい事をして、必ずしも世の人達に褒めそやされるとは限りません。むしろ反対の方が多い。辛い。もう辞めて、カトマンズへ帰ろうか。友達がいる。毎週土曜日には映画が見られるカトマンズへ。ただお母ちゃんのお友達の大切な浄財をお預かりしているからという責任感だけでは、私はとても頑張れなかった。でも安心して下

さい。今日１人の少年が、私をディディと呼んで、とうもろこしを届けてくれました。もう大丈夫です。自信が出来ました。必要な、智恵と力が与えられるように、おかあちゃんどうかお祈りをして下さい。

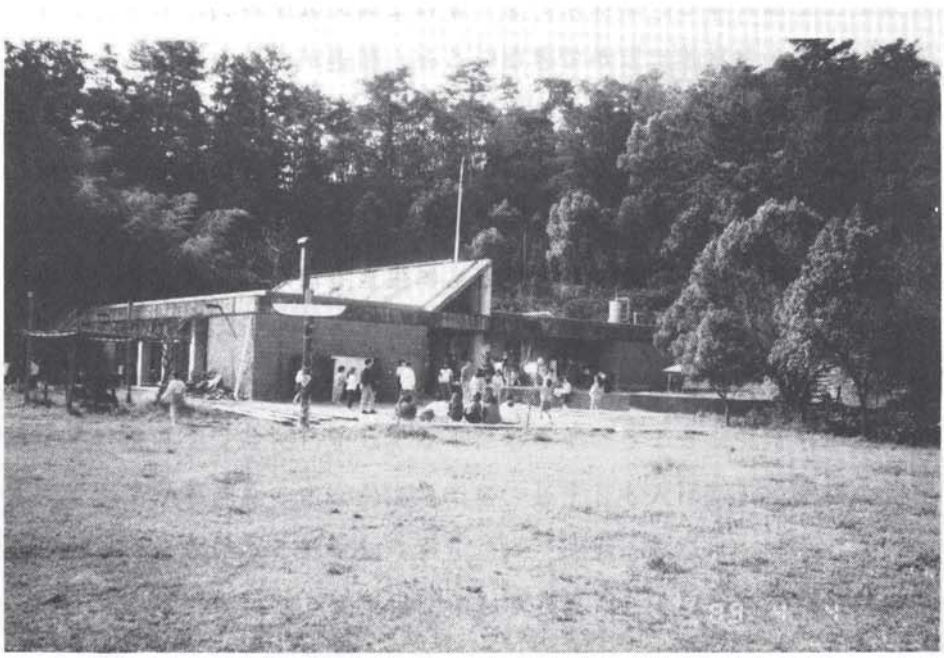
やがてウマは同じ地域に、農業改良普及の指導に来ておりました、インド人ボランティアのエムシー君と結婚することになりました。同じ理想を描き、それを、力を合わせて実践出来る者同士が、結ばれるということは、こんな幸せなことはありません。ただし、自分がどのような理想を描いているかということを高く掲げなければ、一角、一隅でもいい、そこに光を掲げる一人に、あなたがならなければ、あちらの隅でも、光を掲げようかどうしようかと、胸にじっと抱え込んでいる人がわかりません。どうか勇気を持って、いいと思う事を実践して下さい。１人が２人になります。２人が４人になります。そうして、一隅の光を持ち寄れば、闇の力がどんなに強く見えるようでも、光は闇に必ず勝って行くものです。それが真理です。光は闇に勝っております。ただマスコミを見、ただ世の噂だけを気にしておりますと、わからない事が、このセミナーの素晴らしさは、思索の時間というのがあります。一人静かに、この自然の中で、神との交わりを持って下さい。私は真理であるとおっしゃった、この天地宇宙を創造し、かたどって、あなたや私を作って下さったその神様が、我々を、あなたと私を道具として、新しい歴史の１ページを書き起こそうとしていらっしゃる、その中に用いられる事こそ素晴らしい事はありません。

自慢話のもう１つは、その後、即ちウマがエムシーと結婚した後、エムシー曰く「農村婦人生活学校だけでは、男女平等の原則に反する。男子も参加できるコミュニティー、ディベロップメントセンター、CDCに作り直そう」と。こういう訳で、例えば、学校へ行けない男女の子供達を集めて、エムシーとウマが、読み書きを教えてやります。ある年、訪ねて行きましたら、「さあ、日本からおじいちゃんが来たよ。明日はみんな、お弁当を持って来なさい。日本のおじいちゃんと一緒に、お昼のご飯を食べましょう。」とエムシーが呼びかけました。あくる日、子供達が、お弁当を持って来たはずですのに、弁当箱は一つも見えません。「お弁当はどこにあるの。」ポケットがふくれておりました。ポ

ケットの中にとうもろこしや、大豆を炒ったものが入っていて、それが、家での昼ご飯で、それを持って来ております。地べたの上にむしろをひきます。そのむしろの上に座ります。その前に、バナナの葉がお皿のような置かれます。そこへ自分のポケットの中から、とうもろこしや大豆の炒ったものを出してお弁当です。ところが、1人の女の子のお皿の上には何も出ていません。ポケットは空っぽです。どうなるのかなと見ておりましたら、隣に座っていた男の子が、黙ってエムシーの顔を見上げます。エムシーが、にっこり笑うと、何も言わないのに、何も聞かないのに、その男の子はニコッとうなづいて、早速行動に取り掛かりました。自分のとうもろこしの山の中からまず1粒を空っぽのお友達のお皿の上に、次の1粒を自分の皿の上に、2粒、2粒、3粒、3粒と等分に分けて生きましたが、さあ困りました。最後に、22粒になりました。ところがあと1粒しか残りませんでした。二等分出来ません。また、その男の子は、エムシーの顔を見上げます。そしたらエムシーが、先程と同じように、ニコッと笑うと、もうすぐわかるんですね。その男の子はニコニコ笑いながら、最後に残った1粒を、自分の皿の上ではなしに、自分の家よりも貧しい、家へ帰っても昼ご飯を食べることの出来ない、その友達の上に置きました。

生きることは分かち合うこと。ともに生きるために。だれと分かち合うのですか。付き合って、得になるような先進工業諸国の人達とですか。いいえ、飛行機でほんの7時間も行けば、昨夜、私達が食べたあの食事を見れば腰を抜かしてしまうような人達がいます。我々は、3食食べております。しかし、我々が取っている栄養の3分の1しか取れない、即ち、1日に1食しかたべられないレベルの生活の人達がアジアにまだ75パーセント残っております。放っておきますと、これは必ず社会不安になります。社会不安に大国がつけ込みます。そして戦争になります。私は広島で原爆を体験いたしました。私は最後にこの事を決して忘れずに皆さんに申し上げなくてはいけないと決意致しました。たくさんの友人が死にました。私だけが生き残りました。死んで行った友人の命の代わりに、私の命を何に使うか。それは真理に忠実に、ともに生きるために。生きることは分かちあうこと。弱き者をと。それを自らへのメッセージとして、

生き続けようと。今日皆さんが、こんなに熱心に聞いて下さったので、私はその決意をまた新たにすることが出来ました。どうもご清聴ありがとうございました。



この講演を聞いて

私達はおとうちゃんから、人との出会いのすばらしさ、生命の尊さ、そして人類愛を学びました。しかし、学んだからといって「人類愛」についてはっきり答えられる人は何人いるでしょうか。人類愛とは、私達がこれからの人生で体験するさまざまなことの中から得られるものであり、学んでいくものであって、おとうちゃんは、私達にそのきっかけを与えてくれたにすぎないのです。「これからはあなたたちの時代ですから。」と。

おとうちゃんは、私達に問いかけます。人は人と出会い、人に学び、生きる目的を確認します。「あの人から学ぶことは何ですか。」「この人と分かちあうことは何ですか。」「あなたはあの人にどんなメッセージを届けましたか。」「あなたにしかできないこと、あなたがすべきことは何ですか。」

私達は、今日から私達にしかできないこと、私達がやらねばならないことを見つけようと思います。どんなに小さなことでもいいのです。人を愛するために。そしておとうちゃんのような笑顔ができるようになったなら、幸せだと思います。

「生きることは、分かちあうこと。ともに生きるために」

人としての愛

岡山ノートルダム清心女子大学学長

渡　辺　和　子

ご紹介をいただいた渡辺でございます。

テーマとして、人としての愛というのをちょうだいしているんですけれども、必ずしも人としての愛というのにあてはまるかわかりませんが、私なりに愛というテーマを追っていきたいと思います。

私は、今日、修道者の姿をしておりますが、根っからのクリスチャンではありません。浄土真宗の家に生まれて、18才の時にキリスト教の、それもカトリックの学校に通っていたので、洗礼を受けました。

生まれつき、非常に勝気で、高慢ちきで、そして冷たい。そんな自分に嫌気がさして、洗礼を受けたら新しくなるだろうというような気持ちがあって受けたんです。しかし洗礼の水をかぶっても、必ずしも人は新しく魔法のようになるわけではないということを知りました。

それから29才の年になるまで世間におりました。その当時の修道院と呼ばれるところは30才が年令制限だったんです。29才７ヶ月まで、非常に未練がましく世間におりまして、ぎりぎりの所で修道院に入りました。

入ってからすぐ、アメリカに派遣されて５年、そこで修練と、それから学位を取るように言われて過ごしまして、その後思いがけず岡山という、自分が生まれてから行ったことのない土地に派遣されて、今日まで27年岡山におります。たし算をすると、だいたい私の年がおわかりになると思うんですけれども。

現在、学長の仕事を26年しております。長期政権は腐敗のもとだと私は思ってるんですけれども……。まだやめさせていただけないで、今年もがんばろうと思っています。学長をしておりますけれども、学長職というものは私にあまりあわないような気がして、週に4時間約370名くらい、大きなクラスですけれども教えています。前期は「道徳教育の研究」という教職課程に必修のもの、後期は「人格論」という授業を持っています。

ゲーテという人が「天に花ありて星といい、地に花ありて愛という。」というきれいな言葉を残しています。たぶんこのセミナーで、強調されることは、「人を愛する」ということだろうと思うんです。今朝のお話を私は伺ってませんけれども、人類に対しての愛。そして明日でしょうか。自然に対しての愛。愛するということが中心だと思いますが、私自身は、「愛される」ということもとても大事だと思っています。愛されて初めて人は愛することができるようになると思うんです。

実は、今まで15年ほど園長をかねて附属幼稚園の子供達を見ているとよくわかるんです。どんなにお金持ちのうちから来ていても、たぶんうちに行ったらおもちゃが山ほどある。おもちゃの中に埋もれて暮らしているような子供達でいながら、愛されていない子はおもちゃを他の子に分けることができない。ブランコでもいつまでも自分が乗っています。乗せてと言ってもイヤ。その子供の家にはブランコがあるかもしれないのに、人にものを分けることを知らない。そして私達教師が行くと、もう一人占めにしようとするんですね。他の子供の手を払って、先生の手を握るんです。そういう子供達に限って、家庭的には非常に恵まれていても、本当の愛情を受けていないということが多いです。愛されていないと「愛情飢餓」というものにかかりまして、とにかく愛されたい。愛されることしか考えていない人になることが多いです。そして、他人を愛する心のゆとりがなくなります。

愛されるということは、自分の価値に気づくことだと言っていいかと思います。皆さん方は、愛したり愛されたりした経験をお持ちかもしれないけれども、愛されているということは、少なくとも自分を愛してくれている人の目に価値

あるものと写っているということです。

今から数年前、今は卒業していますけれども、その当時1年生だった学生が手紙を書いてくれました。その手紙はのっけから、「私は先生に手紙を書くような価値のない人間です。」そう言いながら3枚もびっしり書いてありましたが。それほど重症患者ではなかったんですけれども、その3枚のレターペーパーの中になんと9つの自分を否定する言葉があったんです。「私は魅力のない女です。ダメな学生です。気が小さいです。人にものをよう言いません。」とか、忘れましたけれども、とにかくその言葉に初まって、そして極めつけは最後の言葉です。「だから私は生きててもしょうがないと思う。」その1年生の、顔も知らない人に返事を書きました。それから時折手紙が来て返事を書いて、2年生の後期頃だったと思いますけれども、その人が非常に輝き出しました。〝ああ、やれやれ。私の手紙の効果が現れた。〟と思っておりましたら、あに図らんや、ボーイフレンドが出来ておりました。がっかりしますよね。こっちとしましては。結局ボーイフレンドが、その学生に対して、「君は魅力がある。君はダメじゃない。僕にとって大事な人だ。」ということを表したわけです。そして、それまでどうでもよかった自分が、どうでもよくない自分になった。これはすばらしい事だと思います。今までどうでもよかった。どこの誰とも知らない。生きていようが、生きていまいが、他の人にとってかかわりないと思っていた自分がそうじゃない。私が生きているということを、少なくとも一人の人が喜んでいる。少なくとも一人の人にとって、自分はかけがえのない大切な人間だった。それが、その人に輝きを与え、その人を幸せにして、いきいきとさせたのだと思います。

「君の笑顔が素敵だ。」と言われて、それまで忘れていた笑顔をとり戻す学生がいます。「君は色が白くてきれいだね。」と言われたために、夏に海岸に行かない学生がいます。かわいそうですよね。たぶんスキーにも行かないと思いますけれども。だから、男の方達、特にものに気をつけて言って下さいね。そのために不自由になる学生ができるわけなんですれれども。

だだそれは何を言おうとしているかと言うと、自分の何が愛されているか。

何を失ったら愛されなくなるかということに、人は心を用いているわけです。だから若さというものを愛されている。若さに価値感を見い出されていると思う人は、年をとっても若作りをしようとします。かわいそうに。自分のお金が目当てで愛されていると思えば、お金を相手に貢ごうとします。オンラインを利用したり。つまり金ずるである限り、自分の価値がある。その価値を失うまいとして涙ぐましいほどの努力をする人達がいる。いい子でいる間は愛されていると思えば、いい子でいようとします。いい成績をとってくる限り大切にされているとすれば、カンニングをしてまでもいい点を取ろうとします。自分が役に立つ間大切にされると思うから、一生懸命に自分の商品価値、利用価値を高めようとする。これが、現在の日本の社会の大きな特長だろうと思います。

ある年の前期の授業で、私は学生達に、〝人生には、穴がぽっかりとあくことがある。〟という話をしたんです。今まで平たんで、穴の一つもあかないステージの上で生きていた。その自分の人生に穴がぽっかりあく。小さな穴があくこともあれば、大きな穴があくこともある。そして穴があいたために、人はとり乱して、できるだけその穴を早く埋めよとしたり、その穴を見まい、穴がないものだと自分に言い聞かせたり、または穴をさけて歩いて不自由な生活をしょうとするけれども、人生にどうしてもあいてしまう穴、あいたならば、あくまで見えなかったものを、あいたがゆえに何か見てやりなさい。何か見えるものがあるに違いないんだから。人生に穴があいたらあくまで見えなかったものを見るような、そういう生き方があるんじゃないかしらという話をしました。

夏休みが来て、後期が始まって授業をすませた時に、一人の学生が教壇の前に来てくれました。私に、「先生、私は先生から前期に、人生に穴があくことがあると聞きましたけれども、夏休みに私の人生に穴があきました。」「そうですか。」と聞いていましたら、「実は自分は、婦人科の手術を受けなければならないことがわかって、この夏休みに受けたんです。その手術の結果、もしかすると、赤ちゃんが生めなくなる身体になったかもしれない。」「そうですか。」「私には、結婚を前提にしてつきあっている一人の男の人がいます。そしてその人は、無類の子供好きなんです。だから、私は手術を受ける前、本当に世の中が

真っ暗闇になりました。そして、お医者さまから、もしかしたら赤ちゃんが生めなくなるかもしれないと聞いた時、悩みました。打ちあけようか。打ちあけまいかと。でも、かくしていてもしかたないから打ちあけたんです。そしたら、相手の人が、『僕は、赤ちゃんが生める君と結婚するんじゃない。僕は君と結婚するんだよ。』と言ってくれました。人生に穴があかなかったら見えなかったもの。婦人科の手術を受けなかったら聞かなかった言葉を私はおかげで聞くことができました。」と言って、涙を流していました。

実は、この人は、卒業してから子供ができなくてとても悩んでいたんですけれども、私に手紙を書いては、「シスター、今日も病院に行ってきました。そして、やはりまだ赤ちゃんができいない。でも、もし病院に行って、先生からおめでたですよと言われた日には、実は駅から病院までの間に本屋さんと花屋さんとお菓子屋さんがあるんです。お花を買って、育児書を買って、そしてケーキを買って帰ろうと思います。」そんな手紙を書いて、それから数ヶ月たって赤ちゃんができました。今、二人目の赤ちゃんを身ごもっています。人生の穴、そのおかげで、自分の穴があくまで見えなかったもの、穴があかなければ見ないですんだものを見ることができたと話してくれました。

本当に人を愛するというのは、相手が無傷だから愛するのではなく、または将来傷つく可能性がないから愛するのでなくて、現在、傷を持っていながら、傷のままで、または将来傷を受けることも承知の上で、その人をそのまま受け入れること。それが本当の愛だと思います。

私どもは、自分自身を知りたいと思いながら、知りたくない部分があるんです。今も写真をお撮り下さった方がありますけれども、後で送って下さって、あら、私こんな顔していないのにと思ったら、私はその写真はどこかに入れてしまうだろうと思うんです。自分が見たい姿で写っている写真はいいんですけれども、自分の弱みが写っているような、そういう写真は自分で見つめたくない。人間というものは、自分を知りたいと思いながら知りたくない部分を生きています。

そして、自分に傷がついた時に、その傷をつまり人生にあいてしまった穴を

見たくない。見ようとしないで生きようとする時期があるんですけれども、その時に一緒になって見てくれる人がいる人は幸せです。

「傷を見せてごらん。深手の傷だね。膿が出ている。いやな臭いもしている。今度からこんな傷をしないように。」と言って洗浄して、オキシフルをつけて、包帯をまいてくれる人。傷をいやがらずに、その傷を手当てしてくれる。包帯をまいてくれる人を持っている人は幸せです。そして、そういう人を持って初めて、私達は自分の傷を、今まで自分で見つめることのできなかった汚い傷を見つめることができるようになります。自分で、膿、血、そういうものを洗うことができるようになり、自分の傷を手当てすることができる。

ということは、言葉を変えて言えば、傷をすることを恐れない人になるわけです。傷をしても愛してくれる人がいるからです。そして、自らも傷をしても自分自身を愛することを学んだからです。

そういう人で初めて、傷に目をそむけないで、他人の傷に目をそむけないで、他人の傷の膿を取ってやり血をぬぐってあげ、そしてやさしく包帯をまいてあげる。つまり、愛された人が初めて人を愛することができる。自分の傷に包帯をまいてもらった人が初めて、他人の傷に包帯をまくことができるのではないかと思います。

今、条件つきで愛することが多い世の中ですね。みなさん方も、偏差値というようなものの中で育っていらした方達だと思いますけれども、○○ならば大事にしてあげる。○○ならば愛してあげる。こうである限りお友達になってあげるという条件をつけて愛することが多いです。ところが、人が本当に救われるのは、条件ぬきで汚い傷でもそれを受け入れてくれる時にあるのではないでしょうか。

浄土真宗の信徒だということを先ほど申しあげましたけれども、親鸞上人が「悪人正機説」というのを唱えていらっしゃるのをご存知でしょうか。

「善人なおもって往来す。ましていわんや悪人をや。」

私達の常識の真反対です。私達ならば、悪人でも大往生がとげられる。ならば、当然のこと善人は大往生するというのが常識ですね。

ところが、仏様の慈悲というのは、善人でさえ大往生できるんだから、ましていわんや、悪人は必ず仏様に救われるということです。

キリストが聖書の中で、「医者を必要とするのは健康な人でなく病人である。私は正しい人ではなく、罪人を招くために来た。」と書いています。私にとって、とても救いになる言葉です。いろいろな病気を持っている自分。そして、罪人である自分。その人のためにこそ自分は来たのだという言葉。そして、仏教の慈悲。

今からちょうど440年前、1549年に日本キリスト教が来ています。今朝、日曜日ですので、小豆島のカトリック教会にミサに連れていっていただきました。その後、今から400年ほど前に建てられている15メートルほどの大きな十字架を見せていただいて、この小豆島という所が、キリスト教とゆかりのあることを教えていただいたんですけれども、440年前にキリスト教が日本に来た時に、当然のことながら日本語学校、または日本語のテキストがなかったわけです。だから、キリシタンの宣教師達はずいぶん苦労しただろうと思います。乏しい日本語の語意の中でこれだけはどうしても伝えなければいけないと思ったのが、神の愛という言葉だったようです。

愛という言葉は、宣教師は使わなかったんです。今、私の手もとにあるポルトガルの人達が使った辞書、その中に愛に当たる言葉に「ごたいせつ」というローマ字がふってあります。

「ごたいせつ」それは、その当時、男女の性差別が今よりもっと激しかった時代、または職業の規制、家柄、身分、学歴、そういうものが非常に差別の対象となっていた時に、キリスト教の宣教師達が伝えたかったのは、あなた方一人一人はごたいせつですよと。そういうものと関わりなく、女の人も男の人も若い人も年寄りも、侍であろうと農業に従事している人であろうとなかろうとすべて「ごたいせつ」。神の「ごたいせつ」な人なんですよ。

だから、自分を粗末にしてはいけない。自分をぞんざいに扱ってはいけません。これが、その当時のキリスト教の宣教師達が伝えたかった愛だと思います。

そして、1989年、今日この日本の国が取り戻さないといけない愛という言葉

の感覚は、まさにこの「ごたいせつ」ということだと思うんです。しかも、その人のすべてが受け入れられる「ごたいせつ」だと思います。その人の姿、形じゃないんです。お金でもない。技能でも能力でも身分でも職業でも。とにかく、子供達の一人一人が、学校の先生によって「ごたいせつ」にされないといけないんです。偏差値の高い子だけが「ごたいせつ」にされています。また、自分にとって役に立つ人だけが「ごたいせつ」にされています。

確かに、福祉とか、そういうきれいな言葉のもとに、障害者の方とかお年を召した方とか、そういう人達に福祉の手がのべられているかのようですけれどもどうでしょうか。

なぜシルバーシートがあんなに増えるんでしょうね。シルバーシートがあるということは、恥ずかしいことだと思います。シルバーシートがなくても、お年を召した方がいらしたら立つ心がなければいけない。シルバーシートを作るということは、結局心をお金で売っているようなものです。あそこにシルバーシートがあるから、いいじゃないか。年をとった人はそこにすわればいいじゃないか。でこぼこのついた歩道、それも目の悪い方のためには、とてもためになることだと思うけれども、何かあの歩道が増えれば増えるだけ、私達日本人の心の中から、目の不自由な人を助ける心が失われているんじゃないかと思います。

つまり、お金でもって心を売り渡している。そういうことが最近、あまりにも増えていて、私達一人一人が本当にやさしい心を育てているかどうか。一人一人を「ごたいせつ」に思う愛を、心の中に育てているかどうかということが問われています。

愛するという言葉は、甘い響きを持っています。夢中になること。みさかいなくのめりこむこと。心が燃えたつこと。ふつう愛するという言葉には、そういうニュアンスがあります。

私は昨日、入学宣誓式を行いまして、そして12時45分に出て、こちらに伺ったんですけれども、520名の新入生を受け入れました。そして、明日4月5日から9日まで蒜山という鳥取県との県境で4泊5日のオリエンテーションを学

生と一緒にいたします。この新入生達のために準備した オリエンテーションのプログラムの冊子があるわけです。その中には必ずといっていいほど、歌謡曲が入っています。みんなで歌う流行歌のようなもの。私はそれを合間合間に見ておりましてね。そして一年間の勉強をするわけです。私はふだんあまりテレビを見ない生活をしていますから、光GENGIというのは、源氏物語に出てくる人とばかり思っておりまして、教えてもらうわけなんです。その流行歌の詞を読んでおりますと、なんとも甘いお砂糖のような言葉が並んでいます。（抱きしめて）とか、（せつない片思い）とか、両思いだったらいいなあとか思いながら、それから（スイートハート）とか、また（あなたしか見えない）とか。交通事故に必ず合うような言葉がそこにあるわけなんですよね。そういう愛というのは、学生達が大好きな愛です。皆さん方も好きなんでしょうけれども。愛するということを、そういうはかない、または甘い、美しいものに考えることもいいことだと思います。けれども、本当にそうなのか。

エーリッヒ・フロムという人が、「愛することは、単なる強い感情ではない。それは一つの決意であり、判断であり、約束である。」と言っています。厳しいものです。それは一つの決意であり—あなたを愛するという決意である。判断であり—あなたは価値がある。あなたはかけがえのない価値があるという、判断に基いているものである。そして約束である—。私はあなたを愛し抜く。愛し続けるという約束です。単なる線香花火みたいな、ぱっぱっぱっと輝いて、ぽとっと落ちる。そんなものじゃないんだと。

卒業生の中には、障害児を生んだ卒業生も今までたくさんいます。普通、障害児は100人に４人の割で生まれるんですね。ただ最近は胎内で診断ができますから、残念なことに闇から闇に、障害のある子供達が葬られていますけれども。普通100人いれば、今ここに皆さん方が100人いらっしゃるとしたら、そのうちの４人が障害児の父親や母親になる可能性があるわけです。

障害児を生んだ卒業生が手紙を書いてくれて、「シスター、私はこの子と一緒に死のうかと思った。けれども思い直して、神様が私だから育てられると思ってくださったんだ。そう思って、この子を宝と思って育てます。」それは一

つの決意です。判断です。そして約束です。

だから愛するということは、好きということと同じではありません。確かに好きな人は愛しやすいです。反対に嫌いな人は愛しにくいです。けれども好きというのは、どちらかというと生理的な、感情的なものでそれには責任が伴いません。「あの人、好き。」と言っているだけでいいんです。ところが、I Love you. 私はあなたを愛すると言った時に、そこに責任が生じてきます。

ちょうど星の王子様が、自分が住んでいた小さな星に、一輪のバラを持っていました。バラのために水をやり虫を取り、風のひどい日には風よけを作ってやった。ところが、そのバラの花を星に置き去りにして地球に来ます。ちょうど一年たった時に、星の王子様は地球で仲よしになったキツネに言われるんですね。「君は、面倒を見た相手に責任を持ってるんだよ。つまり、水をかけ、虫を取り、風よけを作ってやった。つまり、愛したバラに責任を持ってるんだよ。」

ちょうど一年たって、自分の星がサハラの砂漠の真上に来た時に、星の王子様は毒蛇にかまれて、自分のバラの所へ戻って行きます。

愛するということには責任がついてまわります。だから、この愛する力というものを、私達は一生涯の間、自分の中に養い育てていかないといけないわけです。

愛するということは、単なる甘い、そしてはかない、なんとなくあこがれているものではなくて、私達が生まれてから死ぬまで自分の中に育てていかないといけないんです。

みなさん方のようなお若い方の場合には、今その愛というものが非常に大きな関心事になっているかもしれないけれども、私は特にお年を召した方にとって、これから大きな問題になると思います。「高令化社会」「福祉」ということが考えられて、さまざまな手が打たれるでしょうけれども、人間の心を満たすものは人間の心でしかないんです。どんなりっぱな施設に入れてもらえても、決して人を幸せにするものではないと思います。

5月になると母の日がまいります。これは、熊本のある小学生が母の日に書

いた作文ですけれども、「僕はお母さんが大好きだ。だから、お母さんが言うようによく勉強していい学校に入って、卒業したら大きな会社に入ってお金をいっぱい儲けて、やがてお母さんをとびきり上等の養老院に入れてあげようと思っている。」

入れてもらえないより入れてもらう方がいいかもしれません。しかしながら、大好きなお母さん、自分のためにいろいろしてくれたお母さんを養老院にはいと言って、おば捨て山のように入れることが母親にとって幸せなことなのか。そのあたりに私達の心の問題というものがある。そのお母さんは、子供を塾に通わせ、りっぱな学校に入れて学問の力をつけたかもしれない。この世を上手に渡る力はつけてやったかもしれないけれども、本当に愛する力、ごたいせつにお母さんを思う力をつけることを忘れていたのかもしれないんです。

なぜ、私達は大事な愛する力を、それほど真剣になって養なっていないか。

たぶん、みなさん方もいろんな力をご自分の中に養なっていらっしゃると思うけれども、必ずしも、愛する力を意識して養なってはいらっしゃらないだろうと思います。なぜかというと、素敵な対象が現れればいいと私達は思っているからです。心ときめかすような相手が現れたら、自分の心は自ずから燃え上がって愛が生まれてくると思いがちです。

だから、力を育てようといないで対象が現れるのを待ってます。女子大生を見ていると、それがよくわかります。白いマントを翻して、白馬にまたがった王子様がむこうからやって来て、プロポーズするのを待っているようなところがあります。

それは、結局、数学を解く力を育てようとしないで、難なく解ける数学の問題を待ってるようなことです。一生涯待ってても出てこないかもしれない。

ピアノを毎日練習しょうとしないで、素敵なグランドピアノが現れたら、私は素敵な曲を弾いてさしあげますというような人によく似ています。

絵を描く練習をしないで、素敵なモデルが現れたら、日展に入選するような絵を描けると思っている人によく似ています。

みなさん方、とんでもない話だとお思いになるでしょう。素敵な絵を描くた

めには練習が必要。ピアノを弾きこなすためには、毎日の練習が必要。数学を解くためには、もちろんある程度の頭脳も必要ですけれども、いろいろな応用問題を解く。その練習が必要です。同じように、ピアノがそれほど上等でなくても、りっぱなピアニストならば、そのおんぼろピアノからでもある程度の曲をみんなに聞かせるように、愛する力を持っている人はどんなものでも愛することができるのではないか。

三浦綾子さんが、いろんな本を書いていらっしゃいます。「信ずること　愛すること」という本の中だったと思いますが、「真の愛と呼ばれるものは、誰もが愛せるものを愛することではなく、誰からも顧りみられない価値なきかに見えるものに注がれる愛である。」と書いていらっしゃいます。

私は学生に言うわけです。「マドンナとかマイケル・ジャクソンが、ここにいるとする。そして、ここに今、あなたの手を必要としている、汚らしいおじいさんおばあさんもいる。あなた方、どっちへ行く？」

学生は困った顔をして、しばらくたってから、「おじいさんとおばあさんの方へ行きます。」とうそばっかり言ってたんですけれど。

私達というのは、とかく自然的に魅力のあるものに引かれていくものです。それが、あたりまえなんです。そうでない人は、ちょっとおかしいです。

ところが、私達の中に愛する力を育てている。育てているというのは、自分にとって魅力のない誰もが顧りみない。価値なきものに見えるものに、だんだんとごたいせつなものだと見ることができる。そういうまなざしを育てていくことができるということだろうと思うんです。

今、みなさん方は、ある意味で不幸な時代に育っていらっしゃると思うんです。

ものがあり余っています。みなさん方は、あまりお腹がすいた思いをなさったことがないでしょう。時にはなさるでしょうけれども、いわゆる、ひもじい。飢えた。そして、のどがからからにかわいた。そんな思いをなさったことは、あまりないだろうと思います。もし、なさったことがあるとしたらありがたいことですね。

サハラの砂漠のまん中で、のどがからからにかわいた時に、水を一杯差し出されたら、私達は必ず心が躍るだろうと思う。

何も食べるものがない時は、はいどうぞと言ってパンを一つもらったら、そのパンがすごくおいしく、ありがたく思えると思うんです。暖衣飽食の時代に育っていらっしゃるみなさん方は、あるのがあたりまえと思っていらっしゃいます。

今、消費税がかかるので、消費税がかかる前にスーパーがにぎわったということを聞きましたけれども、それとこれとは別の話なんですね。

あることがあたりまえじゃなくて、あることが難しいという言葉が、実は「有り難い」という言葉なんです。みなさん、よくありがとうとおっしゃるでしょう。何げなく。私も言います。ありがとうという言葉は、それなりにとってもいい言葉なんですけれどよく考えてみて下さい。有り難いんですよ。めったにない。そういう意味の感謝が、そこになければならない。

一人の卒業生が、卒業して間もなく病気になりました。在学中はそんなに見えなかった人なんですけれども、確か膠原病という病気になったと思います。

寝ていなければならなくて、私がお見舞に行った時に、それはすごい顔をして世の中を呪っていました。というのは、卒業して就職も決まっていて、さあこれからという矢先に入院になったわけで、就職もあきらめて結婚もできなくなるかもしれない。私をこんな身体に生んだ親が憎らしいとか、友達がうらやましいとか、とにかく世を呪い、人を呪っていたわけです。

その人が、3～3年たって私に手紙を書いてくれました。

「先生。私はようやく外出許可がいただけるまでになりました。昨日、初めて地面を踏んだ時に心が躍りました。今の私には、あたりまえがすべて輝いて見えます。」と書いてくれたんです。

私は、その人が外出許可がいただけるほどに身体が良くなったこともとてもうれしかったけれども、それ以上にうれしかったし、私が教えてもらったのは、あたりまえがすべて輝いて見えるということ。私の中で、あたりまえが輝いて見えているだろうか。私は、どんなにあたりまえをあたりまえととっているだ

ろうか。そのことを考えさせられたんです。

たぶん、みなさん方も、病気をなさった時に健康がどんなにありがたいかということに気づいたり、または、何かを見失った時に、そして、それを見い出した時に、それがどんなにありがたいものだったかにお気づきになったりすることがあるだろうと思います。

心の中に愛する力を養うということは、私達が今日のような、少し日常性を脱した非日常性の中で、ふだん見えていないものを見ること。ふだんあたりまえだと思ったものが、あたりまえでないことに気づくこと。そして、あたりまえを輝いて見るまなざしを育てることにあるのではないかと思います。

みなさん方が、もしご家族をあたりまえだと思ってらしたら、少し新しいまなざしで、ありがたいものとして見てあげて下さい。

そうすることによって、愛するものが、つまりごたいせつなものが増えてまいります。幸せというのは、自分のまわりにあるかどうかなんですね。

くだらないものにとり囲まれている人は不幸せです。仕事もくだらない。同僚もくだらない。上司もくだらない。それから、自分の家族もくだらない。そう思っていらっしゃる方と、仕事がありがたい。同僚がありがたい。上司が、むずかしいこともあるけれどもありがたい。家族がありがたい。ありがたいと、つまり、宝までいかなくてもいいもんだと思えている方と、くだらないものだとしか思えていない人と、どっちが幸せそうな顔をしているか。どちらが満ちたりた心で生きているかと言えば、当然すべてのものがありがたいと、自分にはもったいないと思える人だろうと思います。

あたりまえのものが、ありがたいと思える。それ以上に、マイナスの価値しか持たないものもありがたいと思える。

そうなったならば、私達の生活の中にこわいものがなくなります。苦しみとか不幸とか敵とか。そういうものがありがたいと思えるようになる。

聖書の中に「汝の敵を愛せよ」という言葉があります。これはむずかしいことです。

ちょうど今、昭和の時代が終わって平成の時代になって、昭和史をふり返る

番組がたくさんあったから若いみなさんも、テレビで「二・二六事件」というのをご覧になったかもしれません。

私の父は、その二・二六で殺された側の一人です。しかも、私の目の前で43発の銃剣に切りさいなまれて死にました。父の死んだ姿、包帯でぐるぐる巻きにされて、人様にお見せできないほどの痛ましい姿で、私の目の前で、1メートルとないところで死にました。

その父が亡くなって40数年たって、その間、私はよくみなさんから、「あなたは、お父様を殺した人を憎んでいますか。」と聞かれたことがあるんです。その度に、「いいえ、もう憎んでいませんし、恨んでもいません。」そう言ってたんですね。

ところが、今から8年前になるでしょうか。あるテレビ番組で、2月26日頃、私に出演を要請なさいました。修道者ですから、お断りしたんですけれども、その当時、人々が唱えた右翼の勢力がもち上ってきている時に、「やはり、被害者の唯一の生き残りであるあなたにどうしても今出てもらわないといけない。みんなのために出て下さい。」と言われて、大阪にあるテレビ局に行きました。行きましたら、思いがけないことに、そこに父を殺した側の人が一人来ていたんです。私はびっくりしました。そういう方がいらっしゃると思わなかったんです。

テレビの録画を撮る間、時間があったのですが、私達二人の間に、何も話すことがない気まずい雰囲気があったものですから、テレビ局の方が気をきかせて下の喫茶店につれて行って下さって、コーヒーを出してくださいました。私は、今はあまり飲みませんが、その当時日に5杯くらい喜んでコーヒーを飲む人間でしたから、10時頃出していただいたコーヒーを、これ幸いとカップに手をかけたわけです。そして、口もとまで持っていきましたが、どうしてもそのコーヒーを飲むことができなかったんです。

よく昔から、心を許した人と一緒にご飯を食べるとか、一つ釜の飯を食った仲だとか、ご飯を一緒に食べるということは仲なおりのしるし、または仲間のしるしだと言いますけれども、私はやはり自分の中で血が騒ぎました。自分の

父親を殺した側の人とともにコーヒーを飲むことができなかった。そして、録画撮りをようようの思いですまして、お昼のご飯を断ってお食事をいただかないで戻ったんです。

敵を許す。その敵を愛するということは、本当にむずかしいことだと思います。

今、その方は千葉県に住んでいらっしゃいます。もう70いくつでしょう。私が、その方に今できる事は、その方もやはりごたいせつな方、この世の中に生まれて、そして自分しか使えない命を使って、その間に二・二六という事件を起こした人です。けれども、やはり幸せな老後を送ってほしいと祈ることはできると思います。それが、私にとってぎりぎりの愛することなんです。

私どもの大学の正面玄関に、一つの小さな詩がかけられています。額の中に入って。

天の父さま　どんな不幸を吸っても
はく息は感謝でありますように
すべては恵みの呼吸ですから

学生達が、4年間大学の授業を受けている間は、できるだけ不幸の息を吹わせないようにしています。

でも、社会に出たら、不幸というばい菌がいっぱいただよっていますね。意地悪というばい菌もあれば、さまざまな悩みの種がただよっています。吹わなければ死んでしまう。だから吹う。その吹ったものをどうするか。

そこに不幸のままで人に吐きかけるか。もっと大きな不幸に増幅して吐き出すか。それとも、感謝に変えて吐き出すことができるかどうか。ありがたいものに、マイナスの価値しか持たないものを変えて、吐くことができるかどうか。

すべては恵みの呼吸なのです。それを感ずることができれば、見ることができれば、その人はどこへ行っても自分の幸せが作れる人だろうと思います。

私達が、そのような愛する力を育てていくために必要なことの一つは、自分自身を愛しているかどうかということなんです。

「愛は近きより」という言葉があります。自分より自分の隣り人、隣りにす

わっている人、それも近い人ですけれどもそれよりももっと近い人。他ならない自分です。

みなさんは、自分自身を愛していらっしゃるでしょうか。これは、利己主義とは違います。むしろ、利己主義の反対にあるものです。

利己主義というのは、自分がほれぼれとした姿でなければ愛せない人。自分が光り輝やいている限りにおいて愛している人のとる態度です。だから、自分が光り輝やいていないといけないから、いつも人を押しのけ、押しわけていい場所に着こうとする。自分が、ほれぼれとした自分でないといけないから、それこそがりがり亡者のようになる。ほれぼれとする自分でいようとする。縁の下の力持ちなどみじめでしょうがない。人にそういう仕事をさせて、自分はステージでフットライトのあたるところ、脚光の浴びる場所、そこにしか自分はいない。これが、利己主義者のとる態度です。なぜなら、そういう自分でなければ愛せないからです。

ところが、本当に自分が愛せる人というのは、どんな自分でも、それこそ尾羽うち枯らした自分でも、縁の下の力持ちのような仕事をくる日もくる日もしている自分でもごたいせつに思える人です。自分をいとおしむことができる人と言っていいかと思います。自分が宝だと思える人。その人は、好きな人と一緒にいるわけですから、機嫌がいいと思うんですよ。

みなさんの中で、仏頂面をすることが多い方がいるとすれば、その方は、嫌な人といつも一緒にいるからだろうと思います。嫌な人と一緒にいるのは嫌ですね。職場でも、早く拘束時間が終わって、はいさようならとしたい人がいるかもしれない。この人と、課とか部署が別れてせいせいしたと思う人がいるかもしれません。

確かに、他人とは拘束時間が過ぎれば別れて自分一人になることができますけれども、別れた後も着いてくるのは私自身なんです。

だから、自分自身に愛想が尽きている人、自分に嫌気がさしている人、自分が劣等感のかたまりである人は、そういう自分と一緒に住んでいるみじめさ、悲しさを味わっていないといけません。そこに笑顔が生れるはずがないと思う

んです。

私達は好きな人と一緒にいたいものです。浜辺におりていらっしゃる時も、できるだけ好きな人と一緒にいたい。お弁当を食べる時も、できるだけ気のあった人達と一緒に食べたい。きらいな人とわざわざ旅行に行こうとは思いません。保険菌でもかけてマニラに連れ出すのなら別ですけれども。そうでもなければ、意図的に何かを考えていなければ、私達はいつも好きな人と一緒にいたいです。

だから、自分が好きである人。その人は幸せな人です。反対に自分が嫌いな人は、この世の中でいつも不幸な人と言わなければならないと思います。

今ほど、自分を他人と比べることによって価値付けしている時代はありません。偏差値教育というものが、それを助長したのかもしれません。

みなさん方、そして私も一人の管理者として、その競争社会の中で生きていますけれども、その社会の中で私達はいつも人を気にして生きています。あの会社よりもうちの会社は。あいつよりも俺は。あの大学よりもうちの大学は。何から何まで競争して勝ち抜こう。追いつけ、追いこせという時代に、私もそのただ中で生きています。それは、確かに励みにはなりますけれども、ずいぶんつらいことがあるんですね。

社会の歯車の中で仕方がないことかもしれないけれども、その歯車の部分品に私達がなってしまって、私達個人の生活までも他人との比較において喜んだり悲しんだりしていないだろうか。

最近おやめになりましたけれども、NHKのディレクターの中に和田勉という人がいらっしゃいました。この和田さんが、「放送文化」という雑誌の中に、ある日こんなことを書いていらっしゃたんです。

今どきの若いタレントさん達に、劇の中で「幸せそうな表情をそこでつけてごらん。」というと10人中、8～9人までが得意気な顔しかできないんです。得意気な顔と、幸せそうな表情と、どこか違わないといけないんでしょうね。

今、日本の国は得意ということにスポットライトを当てています。幸せな人を作らないといけないと思うんです。

確かにタレントさんというのは、それこそ何百人、もしかしたら何千人の中から選ばれてタレントになる。しかも、うたかたのつゆみたいに、浮いては消えてしまうような現在のタンレント。だから、タレントでいる間は、この時ぞとばかり得意になるんでしょうが、劇をしていれば、その中でくやしそうな顔、うれしそうな顔、くやしそうな表情、そして、幸せそうな表情をつけなければいけないんですけれども、幸せそうな表情を知らない若い人達が育っている。

つまり、幸せと言ったら、人を蹴落として自分が得意になった時なんだ。何かの物事の頂点に立った時、人よりも物を多く持った時、人よりもいい点数をとった時、人よりもほめられた時、そんな時しか知らない人達が育っている。比較の世の中なんだということを、NHKのチーフディレクターとして書いていらっしゃいました。

私達は、他人と比べることのできない自分の価値というものに目覚めて、初めて自分自身が宝であるということに気づき、そして、自分は自分でいいのだ。他人と違っていい自分。他人と違うのがあたりまえの自分。他人と比べられない価値のある自分に気づくことができると思うんです。

高見順という人が、「我は草なり」という詩を書いています。

このあたりにはえている草ですね。みなさん方、後で外に出て見つめてやって下さい。

我は草なり　伸びんとす
伸びられる時　伸びんとす
伸びられぬ日は伸びず
伸びられる日は伸びるなり
我は草なり　緑なり
全身すべて緑なり
毎年変わらず緑なり
緑の己に飽きぬなり
我は草なり　緑なり
緑の深きを願うなり

ああ　生きる日の美しき

ああ　生きる日の楽しさよ

我は草なり　生きんとす

草の命を　生きんとす

今、大輪の花になりたがっている人、お店で高く値がついて、パーティーの会場に華やかに飾られる大輪の花になりたがっている人がたくさんいます。それはそれでいいんです。

しかし、我は草なり　生きんとす。草の命を生きんとすというたくましさ。

我は草なり　緑なり。全身すべて緑なり。毎年変わらず緑なり。緑の己に飽きぬなり。緑の深きを願うなり。

つまり、自分が自分であることを恥じていない草の姿。他のものになろうとしない。そして、自分が自分の緑を深めていこう。自分になりきること。それだけを考えて生きている。その草のたくましさ。孤独な草の姿です。

しかしながら、非常に気高い草の姿だと。踏まれても、踏みにじられても毎年変わらず緑なり。全身すべて緑。生きている、この草の命を生きること。これは、自分を愛していることだと思います。緑の己に飽きぬなり。飽きない。自分自身を愛して、その自分自身にプライドを持って生きている。みなさん方、どうぞこの草のように、たくましく自分の姿になりきるものになっていただきたい。

戦争がすんでまもなく、まだ外国に人が派遣されることが少なかった時に、一人の男性がオーストリアに留学を許されました。その方は、一高、東京帝国大学（現東京大学）をお出になった方で、いわゆるエリートでございましたが、オーストリアに送られてみると、戦時中のことで、英語または外国語はあまりできていない。しかも、勉強の内容は、戦争中に学士として入隊なさった方でしたから、できていない。劣等感のかたまりになりました。恥をしのんで日本に帰ろうか。そう思った時に、朝早く学園の庭を歩いていた時、小さな花が一生懸命咲いていたそうです。その時、その方は、「小さきは　小さく咲かん　小さくも　小さき限り　神をたたえて」という境地を味わったと私に話してくれ

ました。

今朝早く、この庭を歩きましたけれども、小さな花が本当に一生懸命に咲いていました。

「小さきは　小さく咲かん　小さくも　小さき限り　神をたたえて」

バラの花は咲いていなかった。百合の花も、カーネーションも。けれども、名前も知らないような小さな花が一生懸命に咲いていました。それは、美しい姿でした。置かれた所で咲くというのは、自分自身を愛している証拠です。

私は何の縁か、27年前岡山という所に置かれました。時に、岡山でなかったらと思う時があります。学長という場に置かれました。時に、学長でなかったら私はもっと伸びているかもしれないと思う時があります。

しかしながら、そう思ったからと言って、私が岡山に置かれている。学長の仕事をさせていただいていることに変わりはない。そして、時間はその間にたっていくとすれば、大切なことは置かれた所で咲くということだと思います。

咲くということは、あきらめるということではありません。咲くということは、笑顔でいるということです。そこに自分がいるということはいいことだと自分自身信じ、他の人も、その私達の幸せがわかるような生き方をすることだと思います。

暗い顔をしていても24時間たちます。明るい顔をしていても24時間たちます。時間の使い方は、命の使い方なんです。それ以外、命の使い方はありません。感謝して使う24時間と、不平たらたらと使う24時間。時間の使い方は命の使い方です。

そして、人生の質は時間の質にかかってきます。だから、私達は時間を大切に使わないといけない。いいかげんな時間を使ってはいけないと思います。言葉を変えて言えば、時間に愛をこめて使うことが大事だと思うんです。

今日最初に申し上げたように、私は29才まで東京で働いておりました。その当時としては大変おもしろい、アメリカ人の女の人の所で働いておりました。あまり男女差のない、むしろ男の人の上に立つ仕事を8年間いたしました。そういう意味で、その仕事を去って修道院に入るということは、自分なりに覚悟

がいることだったんですけれども、自分で、私は一生修道生活を送ろうと決めたので、修道院に入りました。

入ってみると、案の状ある意味でつまらない仕事が待っているわけです。

アメリカに送られまして、百数十人の人達と一緒に、道場のような所で修練をいたしました。見習いの期間です。

百数十人がご飯をいただくと、同じお皿が百数十枚汚れるわけです。同じコップ、フォーク、ナイフ、スプーンが百数十汚れるわけです。それを集めて大きな台所へ持って行って、洗ってふいて、またそれを重ねて食堂へ持ってきて、今度は夕食のために一つ一つ置きます。

私は東海岸のボストンという街に5年間いたんです。ニューイングランドで、わりに日本に似ています。夏は非常に暑い。今から30年ほど前、私達の修道服というのは、今よりもっとぴったりと顔を隠し、身体を隠していたものですから、8月の昼下がりに、汗をたらたら流しながらお皿を並べていました。

私は、仕事はわりに早い方で、一つ一つ並べていたんです。そうすると、後ろから背中をたたかれて、“Sister, What are you thinking?”とおっしゃったんです。「あなたは、何を考えていますか。」私は、たぶん早くしようとか、つまらないとか、お食事中に話したことで気にかかっていたようなことを考えていただろうと思います。別にそれを話してもしょうがない。どうせ英語で言わなければならないから、“Nothing”と言ったんですね。

そしたら、その年上のアメリカの修道女が本当に厳しい顔をなさって、“You are losing time”「あなたは、時間を無駄にしている。」とおっしゃったんです。私は、一瞬耳をうたがいました。ある程度英語はわかっているつもりだったけど、どうして私はこういうことを言われないといけないんだろう。おしゃべりをしているわけでもないのに、あなたは時間を無駄にしている。けげんな顔をしている私に、その年上の修道女は、「同じお皿を置くのなら、やがて夕食におすわりになる人のために、お幸せにと祈りながら一枚づつ置きなさい。」とおっしゃったんです。

私は、8年間相当厳しい職場で仕事をしました。仕事を早く正確に能率よく

することは習いましたけれども、愛をこめてする仕事は習ってなかったと思います。その日、新しい仕事の仕方を習いました。

時間に愛をこめること。お皿は同じ早さで、同じ姿で並びます。しかしながら、目に見えない大切なものがこめられるか、こめられないかによって世の中は大きく違うということ。それは、一つには私がお幸せに、お幸せにと置いたお皿で召し上がった方は、必ずお幸せになるという信仰です。

ただ、それよりももっと私にとって大きなことは、私が救われたということです。つまり、私にとってつまらない仕事はなくなったということです。

お皿並べというつまらない仕事、お手洗の掃除というつまらない仕事。昔、8年間していた仕事と比べて非常につまらない。雑用だと思ってしていた仕事が実はそうでない。この世の中に雑用はないんだ。私達が用を雑にした時に、雑用が生まれるのだということを私は教えていただきました。

だから、救われたのは私です。確かにお幸せにとお皿を置くことによって、そこに夕方おすわりになった方がお幸せになっただろうと思います。しかしながら、それ以上に私が救われたと思うんです。

愛の反対、みなさん何だとお思いになるでしょうか。私は、かつて学生達に聞いたことがあります。「愛の反対は何ですか。」学生達が、「憎しみです。」と答えました。その後で何人かの学生達が、「憎しみもそうだけれども、無関心というものが愛の欠如としてあるのでないでしょうか。」と言ってくれて、私はすごくうれしかったです。

とかく、私達は愛の反対は憎しみだと思っています。愛憎という言葉もあります。しかしながら、憎んでいないということは、けして愛していることではありません。

ここにいらっしゃるみなさんの一人として、今、アルメニアの地震で苦しんでいる人を憎んでらっしゃる方はいない。バングラディッシュの洪水、または、今朝の岩村先生のお話に出てきたネパールの人達、アフガニスタンの難民達。この中に、一人として憎らしいと思ってらっしゃる方はいないと思います。

じゃあ、愛していらっしゃいますか。愛してもいらっしゃらない。かもしれ

ない。別に私とかかわりない。それは、無関心です。私は充分に食べている。充分に着ている。私にはちゃんとした仕事がある。私には家族がある。家がある。車がある。街頭募金があった時には100円を入れるかもしれない。署名を求められた時は、お書きになるかもしれない。みなさん方が署名をなさる時に、もし1万円出さなければ署名ができない時になさいますか。言葉を変えて言えば、痛まない愛だけ書けてないですか。

痛む愛というものが、今欠けています。自分が痛まない限りにおいて、私達は人を愛していないか。それさえも愛していない。自分さえよければいい。そうでなくて、自分が痛む愛というものが、今求められているのではないかと思うのです。

私が、アメリカで勉強していた時に、宿題が出ました。毎日、何百ページというものを読まなければいけない。

ある日のこと、ヴィクトル・フランクルという人の著作集を読むという宿題が課せられました。「夜と霧」「死と愛」という本を読みました。今、日本語になって、みすず書房から出ています。

フランクルという人は、オーストリアの精神科のお医者さまです。ユダヤ系だったので、第二次世界大戦の時に捕えられて、アウシュビッツやダハウの収容所を遍歴しました。私はその本を読むと、夜はこわくて読めないような状況が書かれています。本当に虫けらのように殺される。ガス部屋に送られる情景が書かれています。最後まで運よく生きのびて、終戦を迎えて本をお書きになりました。

自分達収容所に送られた者達の中で、死んだ者と生きた者がいる。ガス部屋に送られるまでもなく、死ぬ者もいる。収容所において生死を分けたのは、必ずしも身体が丈夫だったか、そうでなかったかということではない。収容所で生き残った人々は、希望を持って生きた人達だった。自分の生活に意味を見い出した人達のみが生き残ることができて、生活に絶望した人達は、身体はみかけ頑丈であってもガス部屋に送られるまでもなく死んだのだということを書いていらっしゃいます。

フランクル自身、何とかして生きのびようと思っていた。収容所の中の本当につらい、それこそ明日ガス部屋に送られるかもしれない、死刑囚と同じ生活ですね。いつ死刑の宣告を下されるかわからない、気が狂いそうな毎日。そのような生活を送りながら、どのようにして気が違わないですむようにしたかということを書いているんです。

私は、天と契約を結んだ。もし、私が死なねばならない運命にあるとしたら、私の生命の分だけ、私の最も愛する母親に命を贈るように天と契約を結んだ。

死の宣告が下るかもしれない。私は喜んで死にます。神様、その変わりに短くなった分だけ、どこにいるかしらないけれど私の母親に命を与えて下さい。それだけ生き永らえさせて下さい。そう思うことによって、私は気が違わないですんだ。今日という日を、めいっぱい生きることができたんだ。

そして、もし私が死ぬまで苦しまなければいけないとしたら、その苦しみの分だけ私の母親の苦しみを軽くしてやって下さい。どうせ母親も苦しんでいるに違いない。私は喜んで苦しみますから、その分だけ母親の苦しみを軽くしてやって下さい。そう思うことによって、私は正常を保つことができて、そして終戦を迎えて世間に戻ることができたと書いてありました。

私はそれを読みました時に、本当に胸を打たれたんです。神との契約。ああ、これは私にもできることだと思いました。

私は、母親が44才の時の子供です。もうできないと思った時に母が生んでくれた。ですから、ちょうどその勉強をしていた頃は34～35才、母は78～79才だったと思います。もう、80になろうとしている母を置いて修道院に入ることはとてもつらいことでした。さらに、アメリカに渡ることはつらいことでしたけれども、命令で渡りました。母とあまり馬のあわない兄嫁に母をたくして修道院に入り、アメリカへ渡った。私の毎日の生活の中には、母が寂しい思いをしていないか。兄嫁から、つらい言葉を聞いていないか。自分の口にあわない食事を食べさせられていないか。そんなことがたえずあったわけです。

つまり、修道者になったからといって迷いはなくならないんですね。さっきも言ったように、洗礼の水を受けていたから行い澄したクリスチャンになるな

んてとんでもない。修道院に入ったから、すべての欲望から解放されたなんてとんでもないことだと思う。やっぱり、毎日毎日の努力が必要なんです。

そういうある意味で妄念みたいなもの、迷いをいっぱい持って修道院に入り、アメリカへ行きました。天との契約を読んだ時に、ああそうだ。私も天と契約を結ぼうと。私がアメリカで寂しい思いを喜んでするから、その分だけ、私の母も日本で寂しい思いをしないようにしてやって下さい。私は、はんこをつきます。神様、どうかあなたもはんこをついて下さい。

私は、アメリカの修道院の中でも、他の人から、つらい言葉を聞かなければならないことが何度かありました。そのつらい言葉を笑顔で聞きますから、どうぞ今日一日だけ、私の母が、兄嫁からつらい言葉を聞かないようにして下さい。私、はんこつきますから。そして、守りますから。

食堂に行って、目の前にアメリカ人の好きそうな食事が並んでいます。日本のご飯が食べたいなあと思っても出てこない。その自分のあまり食べたくない食事を喜んで食べます。だから、今日母の前に口にあわない食事が出ないようにお願いします。私、はんこつきますから。

この天との契約を結ぶようになって、また私が救われたと言えます。母が救われたかどうか知りません。

母は、確かに元気で帰りを待っていてくれました。たぶん、少しは契約がきいたんだろうと思います。でも、そんな話をしないまま、母は死にました。一度も尋ねませんでしたし、尋ねても仕方のないことでしたけれども、でも確かに、この目の見えない契約が果たされたと私は信じております。

そして、今も私の生活の中で、天との契約をいかして生きています。

私は、週に一度、お料理当番をいたします。大学では学長をしていますけれども、修道院に戻りますと平の修道者に戻りますので、清掃からくつみがき、玄関番、洗濯と何もかも人並にいたします。ちょうど明日が私の料理当番で、6人分の食事を作りますけれども、あのサヤインゲンのすじを取る。それはつまらない仕事です。じゃが芋の皮をむく。悪いけれど、私がしなくてもむけるんですね。けれども、私がむきます。また、スナップを前で一つ一つ合わせる。

あの、三度自殺を試みた学生が、どうぞ四度めの自殺をしませんようにと祈りながら、天との契約を結びながらスナップをかけます。学生達一人一人の幸せを願いながら、サヤインゲンのすじを取る。

これが、遠いけれども、遠い所に離れている人にできる私達の愛の業であり、私達の愛する力というのは、そういう小さなものを通してしか養われていないのだと思うんです。

今、国際性ということが声高に言われています。何かにつけて、国際ホテルだとか、国際大学だとか、国際〇〇、ゴルフ場にしても国際カントリークラブ。何が国際なのかわからないような国際がたくさんありますけれども。

私達一人一人が国際人であるかどうかということは、何度海外旅行をしたかということに、けっしてかかっていない。外国語をいくつ流ちょうに話すかということにも、けっしてかかっていない。

私は、今アメリカ人と一緒に住んでおりますので、私達の国際性というものを尋ねてみましたら、“internationally minded people”というものを育てる教育なんだそうです。

私は、どういう言い方で、この国際性というものを表するのかと思いましたならば、“internationally minded people”国際的な心を持った人を育てるんだ。外国語のできる人を育てるのでもなければ、外国に何度も行く人を育てるのでもなくて、国際的な心を持った人を育てる。

それはどういうことかと言えば、ここからは私の解釈ですけれども、文化の違いを受け入れることができる人だと思います。

アメリカ人、イタリア人、フランス人を文化の違いとして受け入れることは、案外やさしいんです。目が青いですから、髪がブロンドですから受け入れやすい。

ところが、同じ日本人で文化の違いを持っている人を、私達は非常に受け入れにくいようですね。みなさん方の会社の中で、学校の中で、施設の中で、同じ目の色と髪の色をした人達。その人達の中で、私達と違った意見、違った言葉を話している人がいる。同じ日本語を話しながら、同じ日本語で自由と言い

ながら、権利と言いながら、責任と言いながら、ずいぶん解釈が違いますよね。みなさん方、そういう人達を受け入れていらっしゃいますか。

自分と異質のものを、どれだけ受け入れる度量を持っているか。その意味で、国際性を持つということは、一つには文化の違いを受け入れる心を持っている。同じ日本人同志でありながら、文化の違い、考え方の違い、習慣の違い、それを受け入れる。その度量を育てているかどうか。そして、育てなければいけないと思っています。

そして、もう一つは目を世界に広く向けて、アフリカとかバングラディッシュとか日本以外の所で起きているさまざまなことに無関心でない。私さえ良ければいい。私の家族さえ良ければいい。そうでなくて、心を広く人々に開いて、そして痛む愛を惜しまない人ということだと思います。だれもが愛せるものを愛しているのでなくて、だれからも顧りみられない、価値なきかに見えるものに注ぐためには、痛む愛でないと注ぎません。自分に痛みを感じる愛を注いでいるかどうかということが、今問われているように思います。

私達の生きている日本の国は、今世界の経済国になっております。そして、見るべきものがたくさんございます。

インドのカルカッタで、マザーテレサという方が仕事をしています。今年で79才になる、カトリックの修道女です。ユーゴスラビア生まれで、1979年のノーベル平和賞を受けていらっしゃいます。

この方は、みなしごを育てたり、また日本ではほとんどいなくなったハンセン病（らい病）の患者をコロニーで世話したり、そして一番ユニークなのは、道で行き倒れの死にかけた人達を“死を待つ人の家”と呼ばれる所につれて帰って、死なせていらっしゃいます。

この方の所に、日本からボランティアの人達が行ってらっしゃいます。一人の日本人のお医者さまが、そこにおいでになって戻ってきて、NHKのテレビで話をしていらっしゃいました。私は、たまたまそのテレビを拝見したんですけれども、そのお医者さまがこんなことをおっしゃったんです。

「私は、マザーテレサの所にボランティアに行ってきました。マザーの所に

は見るべき医療はなかったけれども、真の看護がありました。」

マザーの所には、日本の診療所ならばどこにでもあるような、点滴の機械も注射の道具も医療品も充分になかった。しかしながら、日本の国が失ってしまった真の看護がありました。そこには、ただ水をしませただけの脱脂綿で、今から死のうとしている人の唇をやさしくしめらせて、まぶたを閉じさせてやっている真の看護がありました。

看護の看という字は、手と目という二つの字が合わさった字です。日本の医療が失ったものです。日本の医療に機械が入ったことはいいことだと思います。しかし、そのかげで、あの暖かい手とやさしいまなざしが失われている。シルバーシートのかげでお年寄りをいたわる心が失われていると同じように、見るべきもののかげで真の何かが失われている。

私どもの大学は、見るべき建物をとてもたくさん持っています。十幾つ持っています。しかし、その校則を聞いた時、私がすぐ思ったのは、うちの大学には見るべき建物はあっても、真の教育はあるだろうかと反省させられました。そして、私は今だに、この見るべきものと目に見えない大切なものにこだわっています。

マザーテレサは、今までに3回日本においでになりました。最後に来られた時には岡山にお立ち寄りになって、私が通訳をさせていただいたんです。夕方の5時頃岡山駅にお着きになり、それからお食事をさしあげて、教会で話をされ、私どもの大学においでになって寮生達に話をしてくださり、修道院に一晩お泊めしました。

その時に、一人の方がマザーテレサにこういう質問をなさったんです。

「マザーテレサ、私はあなたを非常にに尊敬しています。あなたのしていらっしゃることはすばらしいと思う。みなしごを育てている。人が嫌がる、それこそだれからも顧りみられない価値なきものに見えるものを世話していらっしゃる。しかし、道端で死にかけている人々を“死を待つ人の家”につれ帰って死なせている。そこが僕はよくわからない。つれて帰るのならば、なけなしの医療を与えるのならば、なぜその医療を与えたなら生き返る人に、命をふき

返す人に与えないのですか。」

みなさんも、そうお思いになりませんか。つまり、それは無駄じゃないですかということです。するとマザーが、

「いいえ、私は無駄だと思いません。なぜならば、人間は生きることも大事だけれども、死ぬことはもっと大事です。しかも、よく死ぬことは一番大事なことです。私は、なけなしの医療を、もう後数時間で死ぬ人、後数分で死ぬ人に与えています。

その人達が道端からつれて来られて、そして、まずうじがわいているような身体を清めてやって、しらみがたかっている髪をとかしてやって、生まれて初めて、飲んだことのない薬を飲ませてもらって、名前を尋ねられ、暖かく手をにぎってもらい、脱脂綿で口をしめらせてもらって、とにかくその人にとって生まれて初めてやさしくしてもらって死んでいく。

その人達が、例外なく“Thank-you”ありがとうと言って死んでいく。生まれる時からいらなかった子供、unwanted、望まれなかった子供として生まれ生きてきた数十年間、人々から邪魔にされ、『あっちへ行け、汚い、臭い。』そう言われて、自分の生きがい、存在価値、そういうものを一度も感じたことのない人達が、これから死ぬというその前、数分間、数十分間、数時間、生まれて初めて人間らしく扱われて、“Thank-you”と言って死ぬ。そのために使われた医療というものは、医療としてこれ以上ない尊い使い方ではありませんか。」とおっしゃったんです。私は、本当にそうだと思いました。

薬というものは、確かに病を直すため、人を丈夫にするため、生き返らせるためにあるものです。

しかしながら、薬の使い道に、人として感謝して死なせる使い方があるということ。それほど尊い薬の使命はないということ。人は生きることも大事だけれども、よく死ぬことも大事です。そうでなければ、人を呪い、世を呪い、神・仏を恨んで死んでかまわない人々が、“Thank-you”と言って、感謝してこの世を去ることができるとしたら、それよりも尊い薬の使い方はないのではないか。

私達は、こういう価値感を失ってはいけないと思う。マザーテレサの愛は、必ずしも人を生かすだけの愛じゃなくて、人をよく死なせる。人の一生の終わりを美しくさせる。その愛でもあるということです。

その時、マザーが、ユーゴスラビアの人ですからなまりのある英語で、“It is so beautiful”とおっしゃいました。

自分達の手の中で死んでいく行き倒れの人達。それこそ骨と皮。うじがわき、しらみがわき、異臭を放ち、中には老いさらばえたようなそういう人達の姿を、“It is so beautiful”本当に美しいとおっしゃった。“It is pretty”じゃないんですよ。prettyというのはきれいという言葉。きれいじゃないけれどもbeautiful美しい。

今、日本の国にはきれいなものが多すぎます。そして、美しいものが少なすぎます。

私達は美しさを取り戻さないといけない。女の人達、きれいに着飾っています。きれいなハンドバック、きれいなお化粧。でも、美しさは少ない。

きれいさというものは、はげるものです。きれいさというものは、お金で買えると同時に失うものです。

けれども、美しさというものはお金で買えないんです。中から輝くものです。そして、痛まなければ、自分が努力しなければ輝いてこないものです。

日本の病院、会社、銀行。全部prettyです。全部きれいです。真白な壁。真白なシーツ。そして、そこには消毒された医療器具。全部きれいです。でも冷たいですね。ガラス、ゴム、メタル、金属。そこに欠けているものは、暖かい手とぬくもりのある目だと思います。

真の看護。見るべき医療はなかったけれども真の看護がありました。その暖かさというもの、心のぬくもり、目に見えない大切なもの。私達は、愛と呼ばれるものを取り戻さないといけない。流行歌が歌う愛でもない、もっと厳しい力としての愛。それを、私達は取り戻さないといけないと思います。

付属幼稚園で子供達を教えておりました時に、子供達に神様のお話をしました。今の子供達は、テレビをお腹の中から見て育っておりますから、あるもの

は必ずテレビに写るものだ。テレビに写らないものはないと思っております。

私が神様のお話をすると、子供達が「神様がいらっしゃるのならば、どうして聖心幼稚園に遊びに来てくれないの。こんなにいい子にしているのに、神様は一緒に遊んでくれないの。神様が天地万物をお創りになった偉い人なのに、どうして今まで一度もNHKのテレビに出ないの。」という質問をして困らせてくれるわけです。

ある時、私はある物理学者であり、そしてカトリックの神父さんをしている方に伺ったことがあります。

「神父様、私は子供達に、神様がいれば目に見えるはずだ。神様見えないからいないよと言われて困っているんです。」

神父様は、有名なアメリカのプリンストンで博士の学位をお取りになった物理学者で、同時にキリスト教の信仰を持っていらして、「この世の中で見えないのにあるものがあるんですか。」と聞きましたら、その神父様がいとも軽く、「ええ、ありますよ。愛ですよ。」とおっしゃったんですね。

確かに考えてみると、愛と呼ばれるものは目に見えません。今、私は学生に愛を持っているつもりなんですけれども、「じゃあシスター。ここにおぼんがあるから、出して見せて下さい。」とおっしゃられてもお見せすることができません。

たぶん、みなさん方も、一人一人だれかへの愛を抱いていらっしゃると思いますが、その愛はご自分の心の中にあっても、私に見せてくださることはできないだろうと思います。

見えないからないのかと言えばそうじゃない。必ずある。みなさんが今日生きてらっしゃることさえ、何かを愛しているから生きてらっしゃるわけで、何も愛していらっしゃらなかったら、今朝ベットから起きることがおできにならなかったと思います。植物人間と呼ばれる状態の人達は、ある意味で愛していることのできない人達と言うことができるかもしれません。

2月14日からもう一月半たちました。たぶんみなさん方はホワイトデーはお忙しかった方達ではあるまいかと思います。そうでない方はお気の毒さまです。

このホワイトデーにしてもバレンタインデーにしても、あのチョコレートとか、今年は下着とかいろいろ出ておりましたけれども、それらは商品なんですよね。ウィンドーにあった、値段のついただれが買ってもかまわない商品でした。

ところが、その商品に目に見えない愛をこめた時に、愛の贈り物になります。チョコレートそのものは、愛でないです。そのチョコレートを買う人の心に愛があるから、そのチョコレートに目の見えない愛がこもったから贈りものになるんです。同じことがクリスマスのプレゼント、または、誕生日のプレゼントに言えることだと思います。

手術をしていただいても、胸を開いていただいても愛は見えません。たとえ、その時胸をこがすような愛をしていたとしても、そのさ中で手術を受けたとしても愛は見えません。愛のさ中にいてレントゲンにかかったとしても、愛は写りません。激しい愛の一生を送った方が、死んだ後にその身体を解剖に渡したとしても、その愛はメスの先にかかりません。

だから、その身体が1,200度の高熱で焼場で焼かれても、愛は焼けないんです。その人が生きている間生かした愛は、生きている間に目に見えなかったがゆえにレントゲンに写らず、手術で見えず、解剖でメスにかからないがゆえに、その愛は死んでからも焼けないで残ります。「愛は死よりも強し」という言葉がございますように、私達の中で育てていかなければいけない愛というものは、けして無駄にならないものです。

仏様のみおしえに、「無財の七施」というのがあります。無財の無は無いという字。財は財産の財。だから、お金が無くても七つの施しができる。七施の施は、施すという字ですね。

「無財の七施」という言葉がある。

私達は、お金がなくても、まずにこやかな顔で人に接する顔の施しができる。

やさしい言葉で人に語りかける、言葉の施しができる。

おだやかなまなざしで人を見つめる、目の施しができる。

なんでもないことにありがとうと感謝する、心の施しができる。

小さな善行を行う身体の施しができる。

席のない人に座席を譲ってあげる施しができる。

そして、一宿一飯をお互い分ける。ふつう、房舎施（ぼうじゃせ）というんですけれども、そういう施しができる。

この七つの施しができるということを言っています。

特に、私はこの最初のほほえみ。やさしい顔、笑顔、そのほほえみがとても大事なことだと思います。言葉が出なくても、目が見えなくても、手で他の人のお手伝いができなくなっても、私達にたぶん最後まで残るものは顔の施し。時間もいらない。お金もいらない。そのほほえみというものを大切に生きていきたいと思います。

あるトラックの運転手さんが、こんな投書をしておりました。

夜を徹してトラックの長距離運転をしていて、もう少しで目的地に到達するという手前、明け方7時頃、横断歩道にさしかかった時に、小さな男の子が黄色い旗を持って渡り始めた。

そこで、私は非常にいまいましく思った。この横断歩道を通ってしまえば目的地に達するのに、ここで止まらなきゃいけない。そこで思いきりブレーキをかけて、タイヤをきしませて止まったそうです。すると、その小さな男の子が渡り終えて、高い荷台を見上げて、「おじさん、ありがとう。」と言ったんだそうです。私はそれを聞いた時に、穴があったら入りたかった。そして、これから決して無謀運転をするまい。むしろ、横断歩道で前を通る人達に、あの子供のようににっこり笑おうと思いましたと書いてありました。

ほほえみは、あふれていきます。愛もあふれていきます。「愛はあふれゆく」という言葉がございます。

愛というものは、私達が決まった分量いただいているもので、この人に50グラムあげたから、後50グラムしか残っていない。そんなものじゃないんです。

愛は泉のように、使えば使うほどわいてきます。力なんですから、育てていけば育てていくほど育ってきます。

ものの多さ、そのことに充実感を感じていた時代が去りました。ある人が、所有の時代が去って、存在の時代がきたとおっしゃっていましたが、ものを多

く所有することで充実感を覚えていた時代は去って、自分自身の存在。たとえ、それが一本の草であろうと、小さな花であろうと、小さきは　小さく咲かん緑の深きを願うなり。その存在の重みを願う時代に変わっていると思います。

私達一人一人が、自分を「ご大切に。」

自分にほほえみかけて、他人も「ご大切に。」

他人にほほえみかけ、その真の愛を育てて生きていく。ちょうどろうそくの一つの火から、もう一つの火が灯されるように。愛されて、火を灯されて、その灯された火を無駄にすることなく、次の人に灯して愛す。そして、この世の中を、今までよりも少し明るいものにしていきたいと思います。

今日は、大変長い間ご清聴いただきましてありがとうございました。

自然を愛する

自然農法提唱・実践者

福　岡　正　信

昨年、伊予市のロータリーでお話しましたらすぐその後で今日のセミナーの講演を約束してきた訳です。上から見てますと、私よりどなたも利口ではないかと言う顔をしています。そして私が話す材料は本当は何も無いと言える訳です。昨日、小豆島に来る途中の船の中とか汽車の中で何人かの人と話をしてみても、どなたも私の知識よりは深い知識を持っておられました。正直に言ってみても、みなさんは私ほど愚かでは無いといった人ばかりが揃っております。その中で何を話すかと言うことですが、はっきり言いますと、こんな事を聞きたいとか、何かテーマを注文して頂くと決められるんですが、昨日一口言われたのは実は「自然を愛する」と言われましたので、その事について話そうかと思っていますが、実を言いますと、私は人から愛された事も、人を愛した事も無い。一口で言いますと、愛する資格が無いと50年前に思っただけの男です。私は、愛について語れと言われても実をいうと、その資格が無いと言うことに「ピン」と頭にきます。自然を愛すると言われても、私は自然が何であるかを語れない感じがします。愛とは何かと言われましたら、人間の愛とは私は古事記に出てくる「大国主命」あたりが愛を知っていたような感じがします。あの人は全国をまたに歩き回って、至る所で女性に恋をして12人の嫁さんをもらってそして至る所で苦労しており、あの伝記を読んでみますと全く波乱万丈にとんだ人生だったと思われます。しかし、その12人の女性を嫁さんにしたと言い

ますが、その一つ一つの恋が真剣でありいろんな苦労をしている所を見ますと、あの人が本当に愛することを知っていたのではないかと感じます。しかしこれは人事では無く、私自身が50年前の25才の時に本当の恋と愛を知らないと気がついた時、私は、女性を愛するどか、草木を愛する事をする資格が無い事を知りました。だから、私は50年前に小さな山小屋に入り世の中の人に何を言われても自分は人生の返り道を送ろうと覚悟して山に入りました。山に入って、自然農法を始めましたが、その頃は自然農法と言う言葉も無く、自分ではガンジー農法だと訳も解らず使い、自分は自分の名前を使ったり自然農法と言う言葉は使いませんでしたが、終戦後、色々な人が来て初めて自然農法と言う言葉を使いだし、最近ではそれを提唱した人だと言われますが、それも本当かと疑問に思っています。インドの方では、日本の普通の百姓だと紹介してくれます。自分でもその通りだと思っています。

50年前、何に気付いて山の中に入ったかと言うと「一つの大きな忘れ物」をしている事に気付いたからです。私は、話をして皆さんに教えたり、知識を与える事は資格も無ければ考えてもおりません。ただ、私は一番大事な事、子供の時には全部知っていた事を、忘れてはいませんか、と今日その事に付いて話したいと思います。

皆さんは、20代30代の人が多いと思いますが、全世界の科学者の先端を行っている人でも、資源問題・環境問題から見ても、地球的規模から見ても、この地球が滅びかけている事を認めています。また、その科学者たちが私の年まで生きられる保障はだれもしていません。2年前ですが、二十一世紀の地球はどうなるかと作った本「地球大紀行」のスタッフが山小屋に訪れ、第六巻の最後のページを作るために来ましたと言いました。なぜ、来たかと言うと、結論が出てないんだと言われた。資源の学者、大気汚染の学者、地球物理学者など、どの学者も20年～30年は大丈夫ではないかと言われるが、「30年先は大丈夫だ。」と言った人は一人もいなかったと言います。そうすると、皆さんが30年後より先は、今のままでは生きて行ける可能性はほとんど無いと言っている訳です。

10年前に、ニューヨークに始めて行ったのですが、ニューヨークの向こうは、車で何時間走ってみても雑木林があります。それは、世界の雑木林の三割であり、その3分の1が枯れたら地球上の酸素不足が起こります。皆さんは、春がきたら、うきうきすると言います。これは、木の芽が吹いてくると同化作用が、さかんになり炭酸ガスを食物が吸い込んで酸素を出してくれるために人の心と体は、うきうきして来ます。しかしこれが、地球上の酸素の3％が無くなれば楽しいと思う気持ちは起こらなくなるんではないでしょうか。今私が心配するのは、もしもニューヨーク、インドネシア、マレーシア半島などの樹木が無くなるとそんな気持ちにはなれないはずです。そして、今の科学ではそれが簡単なことなんです。アマゾンの密林でも、今から10年前に日本の大手企業が農園にすると、簡単に砂漠に変わってしまいました。なぜ、砂漠に変わるのかは、フィリピンまに行って気付いた事があります。それはジャングルが、こんなに簡単に破壊にされ、育ちもするのかと思いました。皆さんは、地球物理学者の話などは充分に吸収しているが、実感として体で地球が滅びかけている事に関しては疑問があるように思うんです。私も、5年前までは世間の事は何も知らず、また50年間人の本を読んだ事もほとんどありませんでした。私は、5冊の本を書く時に、他の人の本を少し読んだ事があります。しかし、その5冊の本は、最初は1冊であり、謄写版に書いた物です。そして、表題が「無」としたので、作者の名前すら書いて無い物です。それが今では、5冊の本になりましたが、誰も読んでくれません。その本は、老人と青年の対談形式であり、現在出ている5冊の本の中にある第1巻、無の一、宗教編、神の革命と全く同じ物なんです。その内容は、今の人間の考え方が如何に、お釈迦さんではないが天道想であるかと書いた本です。それから10年程経て、出版者の方が、この本は抽象的すぎるので、理論的に書いてほしいと言われ書いたのが第2巻の無の哲学編、緑の哲学となっています。そして第3巻が「自然農法」の本となっています。4巻目を作ったのは、誰も読んでくれる人が無く、ある出版者の方が来られて、3冊の本が難しいからもっと易しく書いてほしいと言われ書いたのが「藁一本の革命」となっています。これは、私のアウトラインを書いてお

り、現在では、10ヶ国語に訳されています。この本が外国で読まれて初めて第5巻の「自然に返る」と同時に5冊が出版されました。しかし、外国の方々は本を読んでもらい自然農法を始めてくれた人もいたが、日本はこの50年間自然農法を実践してくれる人は一人もいなかった。約15年前にアメリカで本を翻訳する時に表題は自然農法で良いと言ったのですが、宗教的なので有機農法の方が良いと言われました。私は、この時有機農法を使うと土壌科学的な本になり、昔の農法に返るだけの事になるから使う気になれないと言ったんですが、それでも、総合的な意味での農業とすると言われたので使う事にしました。そして、有機農法と言う言葉は日本に定着したが、有機農法は昔の農法と少しもかわらず、畜産農業や有機物堆肥を使って行う。これでは、昔の百姓が苦しくなり、今の近代農法になったのですから、昔に返れと言ってもこれは出来ない。しかも、今は有機野菜や有機食品と言って、さかんになっているが、これは自然が無くなってきて自然食品や有機野菜の方が健康に良いと思って買っているが、この50年間日本人は、自然に返る方向へいっているようだが、何一つ自然に返っていく事が無い。自然から遠ざかる一方である。だから自然を愛すると言う資格すら無いのではないかと私は思う。する事、なす事、全てそうなんです。私が、25才の時、何に気付いたかと言うと、「子供の心」を、忘れた事に気付いたのです。皆さんは、子供の時に全て知っていた。もう一つ言えば一人一人が神様であったと、その神を忘れ、神から人間が離脱し、人間としてスタートして生きてきたと言う事なんです。神とは何か、神とは自然であり、山川草木が神であると言っている。ところが、いつから言ったかというと、実は昨年から言い出しました。最初の本から、5冊の本には同じ事しか書いておらず、50年間、いい加減な事を言ったり書いた事に気付いたのは、昨年なんです。それは、ニューヨークで自然農法の本を作っている時に翻訳者から何か間違いがないですかと電話があり、その時にたまたま私の本があったので読み返してみると今まで「山川草木に神が宿る」と言う言葉は正しい言葉と思って私は使ってきました。しかし、これは間違っていた事に気付きました。自分はいい加減な男だと思った。どの本も一月で書き、哲学編も一月で書いている。足を挫いて、一

月病院のベットの上で書いたのが無の哲学編なんです。哲学なんてのは全然した事もない男なんです。入院中の最初の15日間は歩けなかったが、後の15日間は歩けるようになり、隣の本屋に行き、そこで、ヘイゲルとカントの一番薄い哲学者の本を立ち読みし、そこでカントは、こう言っているのか。ヘイゲルは、こう考えているのかを見ました。それに対して、私はそうは思えないと書いたのが「無の哲学編」だから、西洋哲学のソクラテス以外は全部否定しています。「福岡さん、いつ哲学しましたか。」と聞かれますが、ほんとは書店で立ち読みした知識しかないんです。一月で書いた本ですから、ほんとに見直してもいなかった。ところが、今言ったように「自然に返る」の315ページの中頃の一行に、それが書いてあるのを見た時に、これはダメだと思い、そして訂正文を書くと50ページになった。この半分が、神とは何か、自然とは何か、人とは何か、と書いているんです。神が宿ると言いましたが、皆さん神が宿るとは説明になっていると思いますか。キリスト教では、神をこのように言う。仏教では神・仏はこの様な言葉で言う。言葉は、どこにでもあります。仏典にも、聖書にも出て来る。しかし、神そのものは本当に何かを具体的に書いている人は一人もいない。私も神が宿ると言ったが、宿っているのは何が宿っているのか。魂とか霊魂の言葉を想像されますが、何かと聞かれたら何も返事が出来ない。そこで留まっておいて、神や仏を書いているのが大きな間違いであることに気付きました。神とは何かと、書き始めたら50ページになるのでアメリカに送れずに「自然に返る」の原稿を絶版にし、書き変えなければ、いけないと思って、昨年の秋から「自然に返る」は絶版になっています。売れているから出版したいと言っても、私は、たとえ売れてもいやだと。だから絶版になっていて、今本屋に出ていたらおかしいんです。それは、神の説明を出来もしないのに、出来た様に書いてあります。そして新たに神の説明をした50ページは、一冊の本にしました。しかし、これは出版されていない。なぜかと言えば、どこまでいってみても、言葉では表現出来ないという事が証明されるだけであって、説明の仕様が無いという事だけが解ってくる。だけど、結局、絶望し投げてですね、自分の園、アフリカの砂漠で種をまいた時、アメリカの講演の時などの写

真を集めて保存用に一冊作ったんですが、ある意味では、この写真集が5冊の本の締めくくりにしたいと思ったが、これもダメだという事が解っただけです。結局、自分の本5冊は、徹頭徹尾、本は役に立たない。言葉は役に立たないと言っているだけなんです。お話していても自分はいつも空しくなるのは、修道院の入口に「最初に言葉有りき」と書いている。日本の古事の中にも、日本の仏教の中にも、神道にも、キリスト教の中でも「言葉有りき」と出て来る。私は、「言葉有りき」という言葉を、人間が神の言葉を伝える事を知ってこう言っているのかと感じていたんですが、考えてみると、ここの船着場に来た時に、ここでお話するのは空しいと思って、ひょっと考えたのは「言葉有りき」というのは、神様が、人間は言葉を言えるからダメだと言っているんではなかろうかと今、ひょっと思い始めていう言葉です。「言葉有りき」は人間をほめている言葉ではないんではないか。人間には「目が有りき」と言った方が良かったのではないか。鳥や小鳥や草木は言葉を知らない。知らないから自然を守る事も出来るし、自然そのものを生かす事も出来る。神を生かす事も出来る。人間だけが、自然を破壊しているんではないか。人間だけが神に背いているんではないか。自然が神であり、神が自然である。しかも、岩、石、小鳥などがそのまま神であった事を、皆さんは信じられないと思います。また、私は信じてほしいとも思いませんが、もしもそうだと仮定して下さい。あの物たちは、全部、どの生物たちでも言葉を知らない。知らないが故に、悪い事をしない。悪い事、良い事などは人間の判断である。これが、良い食物、悪い作物であるというのは人間だけの世界です。人間だけが、大きなミステークをしている。一番最初のミステークは、西洋哲学で言えば、人間の認識が不可能だと、あのカントの哲学の本には徹頭徹尾人間の認識は不可能だと書いているだけなんです。物を知るのではない。一口の仏教的な言葉で言えば「分けた」だ。緑と赤を知っているのではないんです。緑は赤でない。赤は緑でないという事を分けて、7つのカラーを科学的に、分析的に見て、これは赤色である。これは緑であると、お母さんが教えた時から、子供は、赤、緑と思っただけの事です。子供が、木を見て、絵を始めて書かしたら、赤色で書くか、青色で書くか、緑色で書くか

は解らない。解りもしないのが色だと。7つのカラーが有ると思ったのが、人間の科学的な知識の間違いのスタートだった。自然の緑はこんなものだと知ったのではなくて、分別しただけです。分けたら物が解ると思うのが、間違いである事に気付かない。仏教の本には、分別という言葉を盛んに書いてあるが、その分別は、ミステークであると誰も発見しない。言っているのはお釈迦さんだけであって、人間の思想は全て天道想と一口の言葉で言っている。私は、般若心経の本を半ページぐらい読んでもういいと思った。しかし、半ページを見てごらんなさい。徹頭徹尾、無い無いずくしです。あなたは、目、鼻、口がある。「色即是空」「空即是色」と言っている。生死も物も無いと言っているんです。皆さんは、心があると思っている。形があると思っている。しかし、お釈迦さんは無いと言っている。目、鼻、口、耳、は無いと言っている。なぜ無いかは、人間の目はすでに人間の目ではない。人間の耳は聞こえない耳ですよ。鼻は本当の香りを嗅ぐ鼻とは変わっていますよと、書いているのではないかと思う。無い事は無いが、無くなったのが最初の五感であり、それを、全部同時にキャッチしなければいけないのに、人間は、目は目だけで分離してしまった。頭が発達したために、目で見るのと、耳で聞くのが同時にならない。鳥の声を聞いても音楽的には聞こえない。他の事をしている時には鳥の声がうるさい。都会の人が山小屋に来ると、ニワトリの声がうるさいと言います。カワズ、セミの声がうるさいと言う人もいます。音楽の先生がですね、自然の声を聞いても、聞こえなくて、人間の声だけしか聞こえない頭に訓練されて来て、習えば習うほど、音楽的な世界から遠ざかって行く。私は、国立大学の佐々木先生（指揮者）を知っていますが、この先生がですね、自分はカワズやセミの声が音楽に聞こえないようだったらオーケストラはなくてもいいんだと言った。それに共鳴して、それから国立大学の先生でありながら落ちこぼれの音楽家だけを養成する個人教授になった。ドレミを教えたらダメになると痛切に言っており本では「耳を聞く」を書いています。音楽をきらいにするのが、国立の音楽学校であり、ドレミを忘れさして、耳を澄ます訓練だけをすれば後は、作曲、音楽全て復活して来るという事です。

話が飛びますが、実際何一つ人間は失っているのでは無いと言う事が、スタートになる。自然農法のスタートは、何も人間の知恵が役立たないと徹底的に知る事が出来たら、スタートしてしまう。人間のやる事、なす事が、一切が無駄である事を私は25才の時に知ったから、何もしないで山に入って返り道の人生です。私は、25才の時から時計は持っていません。皆さん、どうせ忘れるなら時計を捨てたらいい。時計さえ無ければ、年を取る事も知らないし、忘れてしまいます。皆さん、物に価値が無いと言ったら、不思議に思うでしょう。人間のやる事、なす事、一切が無駄であると、これも反発があるでしょう。しかし、それを5冊の本に書いて、尚、自分は50年間間違いであると思っていなかった。だが、日本人でそれが正しいと言ってくれた人は一人もいない。よく考えてみてください。この電気に価値があると思うのは、真昼間、外は明るいです。この部屋に入って、私の愚かな話を聞こうとすると価値が出て来る。この電灯の価値は、使用価値であり、電気の明るさに価値があるんではないのです。このマイクは、なんて価値があるんだ。私の声が聞こえにくいと思って置いてくれた。その時に始めて価値が生じている。これらの物は、物を言う物でも無いし、明かりがライトでも無い。ギリシャのソクラテスが、光、太陽、風、空気、水、火、土、などの五つの原則があれば、人間は満足出来ると、おそらく言ったと私は思う。秘薬の素粒子まで人間は研究する必要はなかった。その結果どれだけの人間が幸せになり、大きくなったか考えてみて下さい。知れば知る程、人間の知恵が深くなる程、とんでもない方向に行ってしまうことを証明しているだけです。物に価値があると思うのは、物を使用すると価値があるような条件を人間が作った時に価値が生じる。肥料や農薬は価値がある。この考え方も今の近代農法では根本的な事です。それは、土をトラクターで耕して土の粒子を破壊すれば、空気が無くなり、微生物が死んでいなくなる。雨が降ればドロドロになるが、乾けばカンカンになる。だから、毎年耕す様になり、それを繰り返せば、繰り返す程、土は死んでしまう。始めは、牛で土を鋤いたので良かったが、終戦後、大きなトラクターが必要になって来ている。私は、アフリカに行く前に何度かイセキの技術者と話をしました。そして、あなたた

ちは大変な間違いをしていると言った。大きな馬力のトラクターが必要になるという事は、それだけ土が死滅している事を示しているだけですよと。アメリカの土は、巨大なトラクターを使って掘らないといけない程、土が締まっているのか。それは砂漠化しているだけです。アメリカに10年前に行った時は、褐色の砂漠だったが、10年後に行って見て、飛行機の上から見ると、大地は白い塩の砂漠に変わりつつある。地下から水を酌み上げたスプリンクラーでポット農場を作って、これはパラダイスだ、自然農法だ、近代農法の典型だと自慢しているが、そんな事を、すればする程、アメリカの砂漠化の速度が早くなって行く。この10年間、私が見た範囲内でも、あっという間にアメリカの大陸には、もう10％の緑もありはしないと、私は断言しました。山林らしい物は、あのカナダ辺境の山林だけで、山林そのものが早、無くなっているではないですか。公園になっている所だけです。この破壊速度の早さはトラクターによる物です。あるカルフォルニアの米所の農業者が私の半日の話で、「自然農法は大変だ、革命だ」と言って飛び上がって喜んだ。その男は、自然農法に切り変えるには、最初にどうしたらいいかと聞いたので、私は、トラクターを廃止すればいいと言った。それから、２月程して帰って来てみたら、その男は６人のトラクター運転手の首を切っていました。それから８年程経て言って見たら、今は飛行機で種をまいて、トラクターで刈るだけになっていた。この男たちは、ランバーグで兄弟４人が、カンリトーウエーをそれぞれに持ち、４ヶ所が林立している。しかも、私がその時に行ったら200人の農民が集まっていました。今日は、なぜこんなに集まっているんだと聞いたら、今日は、みんなが自然農法で成功したから、あなたが来たチャンスに組合でも作ろうとしている。私は、どう成功したのか聞いたら、あなたが来た時から気が広く大きくなり、ヒゲが生えても平気になり、多少ヒゲが生えても稲の方が強いのが解った。そして、収量は多少落ちたように見えるが、今まで３年に一回しか作れなかった米が、３年連続で作れる様になった。しかも、冬は麦が作れる。あなたの言う事を聞いて、やって見ると、６回も作れてしまう。彼が、飛び上がって喜んだのは、収量が３倍に上がったことなんです。それと、ランバーグの米は、自然食の連

中は、皆、知っています。その米は、価格が一俵2万4千～5千で売っており、日本の米より高いんです。価格が倍になって、全米に知られて、大創業しています。日本人は、誰一人として私の米を作ってくれないが、そこは3年前から一生懸命やっています。アメリカのランバーグで作った米は、登録もしてあり、ハッピーヒル、1号、2号、3号と名付けています。

現在の日本人は、米が輸入されるとか、されないとか言っているが、世の中は、もっと早く進んでいる。

日本は、大変な忘れ物をしようとしている。外国人が来るのは、日本の昔の良さを見て来るのであって、今の近代文明や、経済豊かな日本人を相手にして来ているんではないのです。西洋人やアメリカ人は通って来た道がミステークだと、キリスト教の間違いにも気付いてきた。そんな所から、西洋哲学も間違いであり、クリスチャンもキリストも間違いないが、キリスト教は大きな間違いを起こした事に気付いた連中が日本に来ているんです。その人たちは、昔の日本の良い物を取り学ぼうとしている。ところが、日本人は経済大国に成り、豊かに成り、近代文明に成っているから、後進国、アメリカ、欧米の人たちが、よく来る様になったと得意になっている。しかし、彼らは、彼ら自身が歩いて来た近代文明の10年、20年後を日本は追いかけて来ているだけで、ミステークに気付かず、さらにそれを、乗り越えて向こうに行こうとしていると思っている。が、彼らは反対に逆の方向へ行こうと、擦れ違いに成りつつある。

今まで、多くの所で講演してみた結果、解った事は、スケジュールを組んで本当は話しをしなくてはいけない。アメリカの30日間の講演では、まず、第一に神とは何か、を話すと、まる一日かかります。人間の知恵とは何かと言う事を話すとまた一日かかる。人知は、どうして物が解ったと言えるのか。前に言った様に分けただけではないか。解った事とは、関係がないんではないか。本当に解れば、実行しなくては、いけないようになる。本当にこれが、体に悪い物だと解ったらきらいになってしまう。私は、コーヒーを飲む、解った時には止められた、解ってないから飲んでしまう。それは、好き嫌いで飲んでいる様に思うが、そうでは無い。人間の精神が、コーヒーは体に毒だと知らない時

は、おいしく感じ、気持ちを落ち着かすために精神安定剤のの様な感じがする。しかし、これが害だと解ったら、自然食の連中などは、甘い物が苦くなり、おいしくないので止めたとなり、解る、知る、という言葉は、大切である。科学とは何か。科学的心理とは、分離的心理であって、絶対心理には成りえない。この一言を話そうと思えば一日かかってしまいます。科学的な視野は、医学的な立場の心理は医学的心理であり、文学的な立場から言ったら、美、真、善、必ずしも心理にはならない。ある時期には心理であったとしても、1年か10年経てみると、またあれは間違いであったと必ず訂正されてしまう。科学的な部分的な視野から覗いて見た心理にすぎない。いわゆる、神や仏の立場に立って見た、絶対心理には成りえない事を、科学者は解ってないから、全ての人間の知恵が科学的に確明に出来ると、錯覚すら起こしてしまう。人間の知恵の暴走がいかに大きな悲劇を起こしているかという事を科学者は気付いていない。こんな事を、話していたら又一日かかる。政治や経済、物に価値が無いと言う立場での経済学、今の経済学は、物に価値があるという事で成り立っている。あのマルクスの資本論、今の近代経済学にしても、全部物に価値があるという立場に立っている。しかし、今言った様に、物に価値があるのではなくて、土壌を殺している時に耕すとトラクターの価値が出て来る。肥料は土を殺してしまって水分を吸収しないが、この赤土の中にも、肥料成分が多く含まれていて、粘土などに吸着されてしまい、植物が吸え無くなった時に、始めて速効性の化学肥料が役立つ様になる。人間の体が衰弱して、瀕死の重体になった時に医者が一番役立つ。これらが、物に価値が無いと言う経済学であり、今の経済学は、根本的に間違っているのではないか。私は百姓だが、あなたたちは、経済の先生だから、無の経済学を立ってくれと私は言っている。しいて言えば、京大の坂本先生がこんなことを言った。私は農学部の経済学者だから、他の教授連中とは対等に付き合いが出来なかったが、あなたに会って、経済と哲学を結び付けて講演で話し出すと、教室の生徒たちの目の色が、変わって来ました。非常に講演も行いやすくなり、生甲斐を感じる様になりました。そして、他の哲学の先生たちの会合に呼ばれる様になり、西陣織の先生たちとも付き合いが出来

る様になりました。飛騨の高山に行って、新しい教育学部、新しい産業活動までに手を拡げる様になったと言う。これは、経済の先生が、経済だけに止まっていたら経済は解りませんよと、物に価値が、有るのか無いのか、さえ考えなくて、その上に経済学を立てていては、21世紀には通用しないのが現状ではないかと思う。西ドイツから経済学者の女性が私の山小屋を訪れた。その女性は、金銭無用の経済学を行っており、それが本当だと私は思う。貨幣が如何に間違っているかという事に気付き始め、今マネーゲームと言っている事が、如何にナンセンスな経済学であるかをこの女性は気付いている。マネーゲームで経済が豊かになる。そして、それが政治を牛耳る様になり、政治と経済が一緒になって政商が出来てしまう。生産とか、物を作るとかは、人間が作っているのではない。自然だけが神を創造する事が出来るのであって、人間が作っているのではなくて、あらゆる物質の形、姿を変えて、しかも、解約しているだけの事なのです。真なる物、善なる物、美なる物は、自然以外の所には無いと私は言いたい。人間の頭で考え作り出した、それは模造と言いたい。皆さんが着ている服も、絵も、みんなこれら人間が作った物は、作った物ではないのです。時計は、時間を人間の知恵で姿、形を変えた物なのです。時間をあの中に閉じ込めようとしたが、閉じ込めているのではない。インドの人々は、日本の時計は知らなくても、田舎に行くと、まだガンジスタイムというのが心の底にあり、ヒマラヤの心、ガンジスのタイムに返れと私は言いたい。日本人のタイムは、機械の時計であり、この時計が如何に人間を過ってしまうか、時間、速度、物などを組み合わした今の経済学が日本を堕落さしている。

政教分離も、政治と神が分離した事を言うが、昭和天皇の葬儀の時、政治の中に宗教を持ち込むなと言っていたが、私は、邪道な神は持ち込んではいけないが、本当の神は持ち込むのが、政教分離の本当の姿だと思う。民主主義と社会主義、右翼と左翼、両方とも同次元の同じ事を言っているのではないか。アインシュタインは、人間は相対であり、時間と空間によって構成され、その概念の上に組み立てられたのがこの世だという考え方なのです。しかし、右手左手があるという事を本当にあったのかと言いたい。赤ん坊の時は右手と左手を

区別しなかった。お母さんが、教えた時から、子供は2つの手を分離してしまった。右と左が出来それがケンカする、それを一緒に合体し一つに成れと言っても、心が分離しておいて、形だけではなんの意味もない。それは、右左、上下を分けた時からスタートし、善悪、静寂、愛憎、全ての物を相対的に見た時から人間の悲劇は始まっている。難しい話になりましたが、政治や経済、文化や芸術、こんな事を話するだけで本当は一週間程になる。

そして、今の宗教界は、キリスト教、仏教、モハメット教と別れている。なぜ、別れたかと言うと、宗教界のミステーク、西洋哲学のミステーク、今の近代文明の現状を説明するのにも一週間程かかってしまう。西洋哲学が間違いだと誰も賛成してくれなかったが、3年前、アメリカのカルフォルニア大学の分校で講演をした最後の日に、講聴者の先生がこう言ってくれた。皆の方を向いて、「福岡は、西洋哲学を100%否定した。しかも、実証する事によって、この確実性を確認しているから、これは認めなければいけない。21世紀の哲学は福岡の思想になるんではないか。」と言ってくれました。初めて認めてくれました。

インドに行った時、ガンジーさんから最高栄誉賞を頂きましたが、その時に賞をわたす理由を言ってくれました。それは、インド人から見たらあなたの無の第1巻は、仏陀の思想とまったくそっくりであり、緑の哲学編は、インドにある6つの哲学の一つと同じである。そしてあなたは、科学を全面的に否定し、否定する科学を作ろうとしているのが、インド民族には理解ができる。あなたが、日本では成功していない事は知っているが、なぜ呼んだかというと、あなたは日本人ではなくインド農民の生まれ変わった化身である。今まで、この3ヶ年近代農法をガンジーさんは一生懸命に推進したが、インド民族の21世紀の食料をまかなう事は不可能だという事が解ってきた。2600年前、お釈迦さんが生まれた時の農法とあなたの農法をミックスして、それで21世紀のインド民族の食料をまかなおうとしている。農民は、これから2～3年後に全力を入れてその方法を使う。だから激励の意味で賞をわたします。あなたは、安心して死んでもいい。あなたが成功していなくても、未完成で死んだらいい。それは、

あなたの思想、哲学、科学が正しいから、自然農法という花は、立派な花が咲くはずだ。だがそれは、私たちが、行って見せる。と言ってくれた。そして、インドではその3つを総合した範囲内で認めてくれ、初めて私は生まれて50年間の中で人にほめられました。

インドもネパールも、ハゲ山になってしまって木が無い。アフリカは、約80年で自然が滅びている。80%が密林であったのが80年の間に3%の密林になっている。インドのカルカッタ大学の統計学研究所に呼ばれた時、所長に、インドを見ていると急速に自然が滅びた感じがするが、統計学的には何か出てませんかと聞くと、45年で滅んでいると言った。アメリカは200年で滅び、アフリカは80年、インドは45年、ネパールは17年で滅びている。ネパールに行った時、上から飛行機で見せてもらったが、私はヒマラヤの山の景色より、下の方ばかりを見ていた。それは、全部ハゲ山であり、階段畑で耕していた。ところが、そこには木が一つも無く、そのハゲ山の上を、牛やヤギが何千頭と草を捜して歩いていた。富士山と同じぐらいの高さ、標高3千メートルの所で働いて、17年間のうちに木が無くなっている。その根本的なミスは、牛やヤギの飼い方にある。インドでは、牛を批判してはいけないが、しなければインドの自然は復活しないと思ったから、お釈迦さんは、生かさず、殺さずと言っているのではないかと言った。牛は大事にして、トラやライオンは殺せとはお釈迦さんが言うはずがないし、仏さん目で見たら、みんな一緒に見えるはずなんです。一つを大事にするのは、農民の欲と財産を増やしたいだけの事ではないか。初めはインドに行ったら、動物の天国と言うけれど、今、見ていたら、木や草が無くなり、ヤギも牛も痩せこけているではないですか。人間も犠牲になり地獄になっているが、その根本は、自然を滅ぼしたからであって、滅ぼしたのは、農民や王様の肉やミルクを食べたいという欲で牛を飼った事でスタートしている。どこの国もそうなんだが、畜産王国は、皆ともに悪い事は宗教と物を生産する事である。動物は、殺す事が罪悪とともに、生かそうとする事も罪悪ですよと。これは、ほっとけという事だと私は言った。インドは、牛の飼い方が解らないなら木を植えてもダメです。ネパールで、フランス人を中心に植林を行ってい

るが、とても、それでは間に合いません。それは全地球の規模では、飛行機で種を蒔くしかないんだと、アフリカやアメリカで、私は50年間人間は何もするなと言い続けて来た。人間が手を引きさえすれば、自然は回復するんだと、自然を愛するというよりも、自然から人間は手を引けば、自然は復活すると言いたい。しかし、これ程近代文明が、自然を破壊する速度が早くては間に合わない。結局、アメリカで講演して回った時は、レーガンさんがスペースシャトルを作っているので、スペースシャトルから種を蒔けと言ってきました。今は、ミサイルを打ち込む時期ではなく、戦闘機や爆撃機からコーティングした種を蒔くしかないのです。この話はアメリカで受けるし、賛成もしてくれるが、やはり実行は出来ない。アメリカの一ヶ所で実行する計画があったが、中止になりました。もし、そこが成功すれば国連が取り上げてくれる予定だったのです。それが出来ないので、今後どうしようかと思ったら、インドに呼ばれた時に、インドの民族が今、デリーの南の方に1万ヘクタールぐらいを飛行機で種を蒔こうかという話になっているんです。インドの85才の人が、なんとか飛行機から種を蒔くのを実現したいと話をしているのです。1万ヘクタールの土地に蒔く種が約200tです。しかし、今日本では季節はずれの種は燃やしているんです。これは、日本で蒔くのだとくれないが、アフリカに持って行くのだとくれます。だから、その種を集めたら、ただでも集まらない事はないんです。それに、東京の人が食べている果物の種を集めても訳ないんです。日本で廃棄処分になっている、種や苗木を集められるのですが、送れないのは、旅費の問題があり、10kg送るのに1～2万のお金がかかってしまうのに困ってしまうんです。だから、200万円のお金があれば、インドで農民から採取しても、10kgが40円程だから、お金を渡す方が早いとも言える。そして、州政府の主催で行って、それをガンジー派の人がサポートする形で今、計画している訳です。しかし、これも最後のツメが出来ないのですが、国が技術援助はしてくれと言って来ています。それは、私が行くのが一番早いのだが、行けないとすると、即席でアフリカやインドの緑を変える技術者を、一人でも作りたかったのが今度の講演でした。

皆さんは、今、行う事はずいぶん有ります。多くの知識を持っていたら、あれも、これも、行いたいと思うだろうが、私はあらゆる事を絞って、緑を守る、緑をストップさせなければ、皆さんは後20～30年以上生きられないという事をですね、これ程はっきりしているのに、あれだ、これだ、と言って分散していたら何も出来ません。酸素不足だけで、たとえ生き長らえても、生きるだけでは、人間は悲惨なものになって来る。せめて酸素が呼吸出来る程度の仕組みにはしておかなければならない。そのためには、何をなすべきかは、フロンガスの事、資源の問題、などがある。しかし何が無くなっても一番最後残って来るのは、人間は息がある。他の動物も息がある。そのスタートは、緑という事なんです。それに的を絞らなければ、もう、手遅れになるんではないかと気がする。

哲学者は、神がどういったものかが解り、あらゆる物の基準を作る事が出来なければならない。神の奴隷になるのが哲学者の役目であり、勉学の父になれ。勉学を統率し、人間の知恵とは何か。人間の科学とは何か。人間の経済とは何か。これら全ての事を、本当の正しさとは何かを立証し指導するのが、哲学者の役目なんです。ところが、今はみんなが専門の哲学者になっていて、専門になるのが今までの文明だった。今までの文明は、宗教でもインドに行ってみると、イスラム教から仏教が入り回教徒に分裂した。小より大が良い、お金でも少ないより多いほうがいい。こうして分散してしまったのが、近代文明。宗教界においても、科学界においても、本当に専門バカであり、例として種子銀行の中原先生に尋ねてみた時、私の知識は、井の中のカワズの知識だけしか無いから、インドに行ったらどんな種を蒔いたらいいか、果物はどんな物があって、どんな物がいいかと聞こうとしたら、「福岡さん、ここには20万種の種が集まっているが、果物の種は一つも無いし、私は、余所へ種を集めに行くが、何がいいかは解らない。」と言った。いかに、大学とかが分散してしまっているか。集める事は考えているが、使う事は考えていない。世界中の種を集めているのに、蒔く人は一人もいないし、それを指示する人も一人もいない。どこの大学を見ても、学問を統括する人が一人もいない。結局、皆専門化しているか

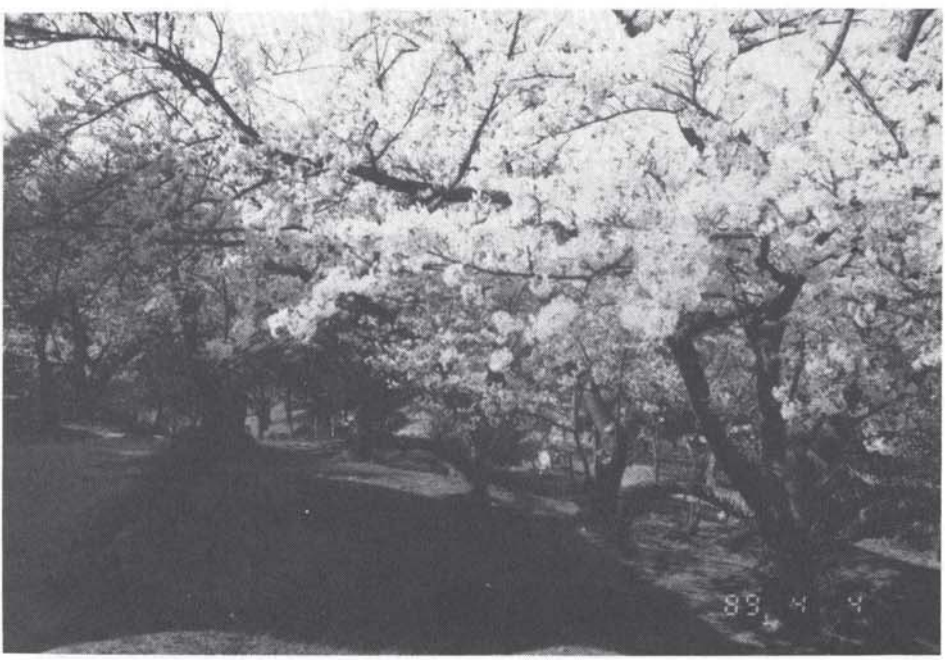
ら、一人の科学者のミステークをチェックする気が全然ない。私は、そういう所にほとんど顔を出してはないが、川北先生の創造学会に呼ばれて行った時、一番「ピン」と感じたのは、これではどうしようもないではないか。こんなに、分散していて誰が統括するのかと思った。何一つ質問したって、質問のしようがない。その席で、出席の岡本太郎とケンカになった。それは、あなたは自然を何かを知っているのか。世の中にはもう自然などないんだから、徹底的に壊したら新しい文化が創造出来るのだから壊すべきだと言う。私は、こう言った。あなたは、自然が壊れているから、尚壊せと言うが、私は自然を知っているとは言いませんが、今日本の農地で自然が一つも無い事ぐらいは私も知っていますけど、真、善、美とか、神がどこにいるのかというのは、あなたの壊す方にはありませんよ。自然という物をあなたはどう考えているのかと。あなたは子供より大人の東大の先生の方が利口だと思っているかも知れないが、私は、真、善、美を知っているのは、子供ですよ。あなたの昔の時代ですよ。あなたが利口になり有名になった岡本太郎にはどこにも、真、善、美、なんかありはしないんですよ。とケンカをしました。何が、私は一番怖いかと言うと、こんなに分散してきて、だれが本当の指導者になれるか。ヘーゲルの有物伝承的な発達は、右手と左手があって、使用して発達して行く。このヘーゲルの思想をどれだけ否定しているか。右と左、上と下、西と東の様に部分的に見て区別しているだけで、発達という言葉自体が人間の描いた観念の世界ですよと言って否定している。人間の一番大きなミステークは、相対感があって、相対の世の中で、男と女、上と下、右と左、西と東の様な事がスタートになって、発達するのではなく、膨張して、しかも分散し専門化して分裂してしまうのが今の人類の文化だ。学問も経済も全て発達ではなくて、経済大国に成ったというのは膨張して、その極限状態が近づいて来ているだけにかすぎない。やがて崩壊してしまう。これが20世紀の姿なのです。21世紀は逆に、大より小が良い、小より無が良かったという時代が来る。今は、逆に自然から離れ、人地も文明も、自然否定、自然離反、神離反、神から離れて行って、自然から離れて行く方向でしかない。大きな目で見て下さい。何一つ自然に振り返った事は一回も有りもしな

いのです。人類がスタートした、ここ1000～2000年の歴史を見ても、神離反の歴史でしかないのです。エデンの花園で、自然の木の実を取った時、食べた時から人類は神に離反し、自然に離している。その歴史から、今こそ返れるか、返れないか、180度転換して、この色々に分散した学問を宗教哲学を科学を、一つになければいけない。最後には、哲学的な無の世界である。今の利口になるという方法は近代文明であり、利口に成れば成る程、人間はバカだという事を知って来ると、今度は逆に、バカになれ、子供に返れ、自然に返れという方向しかないんです。そこに、返れるか、返れないかで地球の運命は決定してしまう事になる。神を知っているのは、仏陀であり、キリストである。しかし、人間は風船の中、缶詰の世界の中に閉じ込もっている。人間は、どこまで行っても観念の膨張しかしないから、やはり元に返るしかない。返ってみてもお釈迦さんの手の平からは飛び出せない。いくら飛行機が発達してみても、早くなった、遅くなったと言って見ても、時間を短縮した事は、時間を獲得したのではなく、時間を失うという事を、人間は知らないんではないか。人間の知恵は、動物の知恵であり、大地を耕しているのではなくて、人間が地を耕しているだけなんです。肥料をやったらいい、種を蒔いたらいい、育てるのは人間の知恵の中での育て方である。自然にほっといたら子供が生まれないのか、育たないのか。人間の手が、加われば加わる程ダメになって行く。人間の知恵は、人間が知恵の穴蔵に潜り込んで行くだけだ。農学部の先端技術でいろんな物を作って、新しい品種を作って、そして人間が幸せになるなんて、とんでもない錯覚であると言いたい。人間は、５つの原素が生きて生ける。人間は生きるのが先決ですが、人間は生活という事が頭に入って来る。ソマリアの子供の写真を見ても不幸な目の色ではなく、栄養失調をしている目の色でもない。あのアフリカの子供も、砂漠の中で、日本の古来、イタリアのマカロニ、アメリカのメリケンコだけで１年や２年砂漠の中で住んでいる。あのテレビやラジオで腹が膨れて、ハエがいるのは、あれは海岸線の難民救護者あたりがサポートしている所の姿なんです。私が、300～400㎞奥に入った所は、食べ物がないんです。腐る物が無いからハエがいないんです。そして、極めて快適な所なんです。

だけど、アフリカの人が言う様に、アメリカはパン民族にしようと思ってパンをくれる。イタリアは、3年間無償で配ってマカロニ民族になると期待している。日本の米は臭いというだけです。アフリカには、原点があり、5つの原素があると言って話しても空しいだけなんです。

時間が来た様なので、長時間、聞いて頂きありがとうございました。

参加者感想文



Aグループ

松　本　　栄

今回のセミナーに、参加できたおかげで、今まで考えられなかった事や知らなかった事を学べた。

その中で、人としての愛のテーマの中で、“時間を無駄にしたくないと思ってした事が、かえって時間の浪費だった”という話は、僕の今までの行動もそうだったのかもしれないと反省させられる。

それも１つ１つの行動に、愛が伴っていなかった事。ただの雑用だと思ってた事もこれからは、１つの行動に愛をもって接していける。

それと、今までいなかった新しいキャラクターの仲間たちが、長く続いて交流しあえる友が増えた事で、将来が楽しみです。

SEE YOU AGAIN YOSHIMA

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

中　井　　浩

このセミナーに参加しての最大の成果は、なんといっても、岡山ノートルダム清心女子大学学長である渡辺先生の話を聞けたことだと思う。参加することで、人間性が一朝一夕に向上するとか、そんなことは全く期待していなかったし、変わろうはずがない。しかし、渡辺先生の話が聞けたことは、それだけでためになったと思う。吸気は不幸でも、呼気は感謝で、呼吸は神の恵みなのだから、時間の使い方は、人生の使い方、などなど心に響く言葉を聞けた。心に残る言葉となると思うし、これからの人生にきっと役に立つと思う。それに、若き良き友に会えたこと、足を捻挫したこと思い出は一杯だ。足がイテーヨー

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

三　谷　章　生

小学校教員を１年しか経験していない私にとって、この４日間の研修は大変

参考になった。1日目の岩村博士と渡辺学長の「愛」をテーマとした講演には非常に感銘を受けた。「生きる」ためにはいたわり合いの心を持たなければならないこと、「愛する」とは、相手の価値に気づくこと。この2つのことが特に印象に残った。子ども達をできるだけ多く「愛して」やらねばならない、そのためには、子どもの価値に気づくためにもっと子ども達に接する必要があると感じた。

キャンプファイヤーで教えてもらったゲームは単純な中に魅力的なものがあった。これを応用して、林間学校や臨海学校に使いたいと思っている。

あっという間の4日間であったが、仲間もふえ充実した研修だった。今後の教育活動に役立てたい。最後にカウンセラーの先生をはじめ、多くの先生方に感謝の意を表します。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

長 原 健 一

このRYLAセミナーに参加して普通では体験できないことがありました。それは、2日目にあった岩村先生の講義とノートルダム清心の学長、渡辺先生の講義でした。岩村先生のお話では、ネパールでの体験談が特に印象に残りました。無医村のところに行き、となりの山まで2日かけて患者を診療に行く話は本当に大変だと思いました。あまりにもみんなが自分を頼りにして困ったということには同感しました。渡辺先生の講義では、「愛」についていろいろな話をお聞きしました。やはり、ぼく達の今の年代というのはこの言葉に敏感になりがちであります。先生の講義を聞いて人を愛することの大切さを学びました。でもこのセミナーを通して一番得たものは、同じ年以外の社会人の人達と接することができたことです。自分にないものをたくさん得られたことに感謝します。ありがとうございました。

蔀　　和　夫

私はこのセミナーに参加させていただいて非常に良かったです。

私生活で、いつも内気でリーダーとしての要素など持ってないと思っていたのですが、今回、A班のみんなと一緒に行動させていただいて、『一人一人がリーダーとしての要素を持っているのだなあ』と感じました。すばらしい先生方の講演も良かったですが、何よりも多くの友を得ることができて、その友と共に語り合った事が一番勉強になったような気がします。それと、バズセッションの全体発表の大役が、まさか自分にまわってくるとは思いませんでした。顔がまっ赤になって、緊張しましたが、良い経験をさせていただきました。

最後に一言。私はA班の人としか、全んどしゃべってないけれど、いい人と多く会えた4日間、過ごせた4日間。みなさん、ありがとう。……2日酔いで書いて、ごめんね！

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

増　田　幸　一

今回、RYLAセミナーに参加させて頂き誠にありがとうございました。久しぶりに充実した生活をし、とても得をしたような気分です。自分が得たものは、あまりにも大きく今後の目的意識もはっきりとし人生の再出発が始まるような気さえしてきました。

人と出会うことの喜び、愛ということの真理、神に対する考え等、再認識しこれからの生活に役立つことだと思っています。又、このセミナーを機にロータリークラブの方々のRYLAの本質的意義があまりに大きいことに感銘を受けた次第です。いつの時代でも、保守的な立場にある人がいれば、革新的立場にある人がいるわけで、今の日本が滅亡の機にあることに察知し、何らかの手だてを見つけ出し、いい方向に変えようとしているのだと思います。そのことに気づくのが早い遅いの違いで人間が今後どういった方向に進むかがわかるような気がします。

神　野　賢　二

RYLAセミナーに参加した4日間、私にとっては、すばらしい師と出会い心を洗われ、すばらしい友と出会い友情を深められた大へん有意義な4日間でした。

特に渡辺和子先生の「人としての愛」についての講演に、強い感銘を覚えました。人を愛するということは、大へんむづかしいことではありますが、先生のおっしゃられた「無財の七施」（やさしい笑顔、やさしい言葉、感謝する心、etc）を忘れずに、自分にできる範囲で精一杯のことをやっていきたいと思います。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださったロータリーの方々、いろいろとお世話くださったYMCAの方々、そして今回初めて出会い、すばらしい友となったみなさん、本当にありがとうございました。またどこかでお目にかかれる日を楽しみにしております。感謝

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

野　村　純　一

第11回RYLAセミナーに参加させて頂き感じた事は、講演された方々が私の心に感動を与えて頂き、特に渡辺和子先生の講演では、愛する事、愛される事が限り無く難しいものだと考えさせられ、その感動は、心が真白に澄んで行く様なとても言葉では表現出来ない程すばらしい講演だったと思いました。

また、集団生活では、美しい自然環境と施設の中で社会人となって忘れがちなふれあい、愛、感動、喜び、自然、若さなど多くのものを得る事が出来、また、同じ知識を持つ思いやりのある親友が多く出来るなど絶対に忘れることの無い大きな想い出を得る事が出来ました。

最後に、今回のセミナー開催にあたってはロータリークラブの方々を初め、私共のカウンセラーである菊澤先生、嘉納先生のご苦労、ご尽力は大変な事だったと思います。大変お世話になり心から感謝しております。そして今後も

RYLAセミナーが成功する様お祈りします。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

山 先 裕 之

この研修に参加して最も驚いた事は、各々の班の雰囲気（カラー）が（無策意に分けたにもかかわらず）初日のキャビンタイムですでに出来始めていたことであり、そしてキャンプファイヤーの時にその違いが顕著に表われていたことである。結局、皆の息が合っていたのだろう。そのせいか、大変楽しい時を過ごせた。心の底から笑い、真剣に討論し、考えた事は、これからの自分の人生に於て重要な糧と成りうるだろう。

目を閉じて耳をすませば
潮騒が心のくもりを
潮騒が心のよごれを
潮騒が心の涙をぬぐってくれる
そして僕達には明日がある
そして僕達には夢がある

I cross my fingers for you to success.
And See You Soon

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

西 本 重 徳

RYLAセミナーに参加してみて充実した時間を過ごせたように思いました。自分の知らなかった事や、自分と違う考え方の人々と、じっくり話し合えて、良いチャンスをいただいたと思いました。“愛”という漠然としたテーマですが3人の先生がたの講演を聞いて愛の大切さをしみじみ考えさせられました。その中で“この世に雑用はない”という事を言われて、なるほどそのとおりだ

と思いました。これは自分でも実行できそうな事なので実行して行きたいと思いました。

そして一番良かった事は、いろんな人と出会い仲間になれた事でした。このセミナーが終ってからも情報交換など連絡を取りたいと思いました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

細　川　雅　永

私は農学部林学科を卒業し、今医学部で学び医者になろうとしている者です。そして、自分自身の信仰を持っているものです。

このような経歴を持つ私にとって今回の講演のテーマ「愛」は本当にピッタリしたものでした。今まで私の心の中にあった思いをよりいっそう確かなものにしてくれ、将来への指標と希望と決意を与えてくれました。本当にすばらしいものでした。

また、いろいろな友人を持つ場を与えられ、日ごろなかなか接することのできない経験談を聞くことができました。本当に楽しい思いをすることができました。ありがとうございました。

このRYLAに参加できたことを感謝し、この経験をこれからの人生にいかしていこうと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

都　築　省　司

RYLAセミナーの講演の中で、一番、渡辺和子先生の話を楽しみにして来ました。全部はむずかしくて理解はできなかったけど、１つの印象に残った言葉は、目を大きく世界を広くひろげ悼む愛という言葉が印象に残りました。今までは狭い心で物などを見て来たけど、少し考えが変わりました。すぐには出来ないと思うけど努力をし、これからの生活を少しずつ変えていきたいです。人

と接触するときは、少し違った接触をして渡辺和子先生のいう生き方に、少しでも近づいていきたいと思うし、そうなれるように努力していきたいです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

曽我部　　孜

今回のセミナーに参加して感じたことは、まず、素晴らしい瀬戸海の自然環境の中に、設備の整ったセンターにおいて、3泊4日の研修が受けられたことです。これまでになるまで、さぞや多くのロータリアンの方々がご苦労されたことでしょう。感謝します。

尚、設備もさることながら、多くのロータリアン、又、その夫人の方が運営にあたって行動を共にし、語りあい、色々と気配りをされて大変でしたでしょう。感謝します。

講義においては、先生方はいずれも愛をとかれ、身をもって実践されていることを伺ったとき、切々として愛なるものの実感が感じられ、今更ながら我が身をふりかえり、語るは易く、行うは難しの言葉を思い起し、今後青少年の指導にあっては、愛の気持ちを秘めて努力をしなければと思いを新たにしている次第です。

尚、多くの若者達と寝食を共にし、共に語ったことによって、彼等のたくましいエネルギーが吸収出来たことも、私にとって素晴らしい収穫でありました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

新　倉　美　香

前回来られた先輩方から、RYLAセミナーのお話をたくさん聞き、期待で胸をいっぱいにし、家を出ました。

普通は帰る頃に来て良かったと思うものなのでしょうけれど、私は初日から来て良かったとしみじみ思いました。“なんて自然がおいしい所なんだろ

う！”“なんて自由で伸び伸び出来る所なんだろう！”そして“なんて楽しくて良い仲間ばかりなんだろう！”と……。起床時間も消燈時間も定められていない、いつまでも好きな仲間と好きな話を好きなだけ語り合える毎日……。いつまでもこうしていたいとさえ思いました。

一番強く心に残るものは、恐らく初日の晩にみんなでやった“A班バージョンのバズセッションでしょう。眠気も吹っ飛ぶほど熱中し聞き入ることのできた語り合い……。まだ顔も名前もうら覚えの初日に、あんなにみんなの本音が聞けるなんて思ってもみなくて、そしてそんな話ができたことが嬉しくて嬉しくてたまりませんでした。どんな方法の自己紹介よりもみんなのことを深く知れたと思います。セミナーが終われば、みんな散り散りばらばらになりますが、いつまでも忘れないでしょう、いえ、絶対に忘れたくありません。

楽しくて素敵な4日間を送らせて頂きまして本当にみなさん、どうもありがとうございました。また、どこかでお会いできる日を楽しみにしています。本当に本当にありがとうございました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

近　藤　博　美

この場所に私がいてもよいのだろうか。そんな疑問的な気持ちが私の心に浮かんできました。

周りの皆の顔はリーダーとしての責任感を背負い、意欲に燃えていて、私に恐怖心をいだかせました。しかし、1日、2日とたっていくうちに年齢だとか性別だとか関係なく話し合いをすることができることに気づきました。それがバズセッションです。

まだ、学生なので社会の考え方など理解できないのですが、小さい脳をフル回転させて生まれて初めて真剣に話し合いに参加しました。

話し合いで、青少年リーダーとしての条件、理想、役割、さまざまなことが討論され、出てきました。

これら3つの中に含まれていたのが講演のテーマであった愛であり、人の傷を手当てしてやる思いやりの心でありました。私は愛について深く考えたことがなく、愛というと恋愛の愛することしか思い浮かびませんでした。愛というのは非常に広い意味であり、他人のことを認めることが愛することだということも理解しました。

このように、4日間で今まで考えたこともないことにふれ、まったく知らない人に触れてよかったと思います。

このことを、現在短大で活動していることにだけでなく、1年後、又は2年後私が進もうと思っている社会福祉の仕事、例えば、老人ホームや障害者施設など、普通の青少年よりも微力である弱い人たちの世話をする者としていっそう役立てていきたい。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

松　田　洋　子

朝、キャビンのドアを開けた時、鳥のさえずり、羽ばたき、そして、波のうち寄せる音が心地よく体に入ってきます。家にいれば朝一番の忙しい時間です。その雑用（？）から解放されて、今回「愛」をテーマに3人の先生方からご自身の体験を通してのお話をお伺いすることができました。期待していた以上のすばらしい講演でした。特に渡辺先生のお話しには魂をゆさぶられるように体中が熱くなり、私も何かやらなくてはという気持ちがわいてきて、心臓はドキドキしっぱなしでした。

お話しにあった“時間に愛を持って使いなさい”の一言に、この言葉を聞くためにライラに参加したような気持ちになりました。

岩村先生、福岡先生のお話に私たちの忘れたもの、失ったものを日々自分に問いかけることも大事なことだと思います。今のこの気持ちを忘れないで小さなことから実践してゆきたいと思います。それから「私たちを見て下さい」と言われたロータリーの方たちの姿に私も少しでも近づきたいと思うし、若い人

たちがロータリアンの方のようになれば未来は明るくなるような気もします。

今回出会った仲間と年令の差こそありましたが、夜を徹しての語らい、すばらしい講演、キャンプファイヤー、人間味あふれるロータリアンとのふれあいなど、余島での短いけれど心ある生活をこれからの活動に、家庭生活に生かしてゆきたいと思います。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

森　　里　子

小豆島に着いてほっと息をつく間もなく、銀波園を横目に見ながら、小さな船に乗り込む時、私は初めて、自分の目的地を知った。目的地と言っても確固たる主旨を持って余島を訪れるという目的ではなく、ただ余島に到着する義務感に追われるようにたどり着いた目的地である。1日2日と過ぎていくうちに何となく感じていたものの、3日の晩に初めてRYLAセミナーの主旨をバズセッションで明らかにされて私は力が抜けた。私が一番年下であり、人生経験に勝てないというハンディがあるにしても、さすがリーダーとなる人達だけあって皆さん、何としっかりしたポリシーを持っていることだろうか。私は皆さんの怖い程の気迫を持ったディスカッションに圧倒され、自らも選んだのであるが、無口に徹するという立場に追いやられた。私が日頃、女子大生という立場に甘え、どれだけチャランポランにそしていい加減に生きているかを思い知らされた。それに追いうちをかけるように心打たれたのが、諸先生方の講演である。その中でも特に、同性のひいき目ではないが渡辺先生のお話はとてつもなく講演という固苦しい時間を異常に素敵に思えさせてくれた。先生のお肌やお声の美しさもさることながら、きれいな言い回し、巧みな話術によって嘘のように流れるお話は私に強烈な印象を残した。はかないようなせつないような、だけどもっと聞いていたいという感情を私は初めて持った。

私はこのRYLAセミナーで何てラッキーな何て素敵な経験をしたのだろうと改めて、納得するのである。

関　　福生

まず初めにRYLAセミナーを実施された皆様方の御労苦に厚くお礼申し上げます。

この研修会への参加については、正直言いましてあまり気乗りしていなかったのですが、島を離れる今の気持ちは、当初と全く逆のものになっています。日常の生活の中に埋没してしまっているなかで、ともすれば見失いがちになっていたものを3泊4日の非日常のなかで取り戻すことができたような気がしています。まず第1には、人と人とのふれあいのあたたかさを再確認できたこと。仕事の中では、立場であるとか、利害関係など、純粋な気持ちをさらけだしてのつきあいを阻害する要因が数多く、素顔で接することが難しい面があるのですが、今回は、全くの初対面の若者たちと夜の眠りをけずって語り合う中で普段は見られない自分を改めて感じることができたと思います。第2には、諸先生の講演を聴くことができ、自分の生き方を根本から見つめ直すことができたこと。特に渡辺先生がおっしゃられた「愛」の持つ意味、意義そして責任の重さ。生きていく上で常に自問自答し、行動していかなければいけないと考えさせられました。

今回、共に生活した仲間達とのふれあいを途切れさせることなく永くあたためていきたい、そして、この研修の中で得ることができた糧をこれからの活動のなかに少しでも活かしていきたいと考えています。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

龍見　　智

今回私がこのRYLAセミナーに参加した理由の1つは、メインテーマが「愛」であったからです。私は「愛」と「多くの出会い」を求めて、このセミナーにやってきたのです。

私はキリスト教信仰の高校に入学し、キリスト教と出会いました。毎朝の礼拝、週に一度の聖書の時間を通して語られた「愛」は、共に生きる為になくて

はならないものであると私は強く感じました。自分を愛するように隣り人を愛すること、これが今求められている愛であると―。私がこのように感じるのはキリスト教との出会いがあったからです。もしこの出会いがなければ、今の私は存在しなかったかもしれません。

今回のRYLAにおいても私は多くの大切な出会いをしました。今まで全く未知であった者同士が4日間寝食を共にし、講義を聞きそのテーマについて語り様々な意見を出し合い、自己の向上に努めました。私も皆の意見を聞きながら、少し自己を高めることができたように感じています。出会いは素晴らしいことです。人は出会いによって自己を向上させるきっかけをつかむことができると信じるからです。私はこれからも「出会い」を大切にしていきたいと考えています。今回RYLAに参加できたことを深く感謝します。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

向　井　夕可里

私は、この余島での、RYLAセミナーに参加し、すごく自分という一人の人間を見ることができ、とてもよかったと思います。

今回のテーマが「愛」ということで、生命、心、自然と3つの講演を聞き、それぞれいろんなお話があったのですが、その中で渡辺先生の話された、人としての愛の話の中で、他人が傷をおっていたなら、その人の傷に包帯の巻ける人間であってほしい。それにより、その人を愛することができると言われました。

私は人をいつくしみ、その人の傷みを自分のものとして受け入れられる心の目ということを、自分自身もっとやしなわないといけないということをすごく感じました。

私はそんなためにも、もっと多くの出会いを大切にし、その出会いによって、愛が生まれてくるのではないかと思います。

最後になりましたが、ガバナー、ロータリアンの皆様、ありがとうございま

した。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

藤　原　真理子

私がこのセミナーに参加し、一番心に残ったことは、渡辺先生のお話の中にあった“自分自身を愛する”ということです。今まで「自分を大切にしなさい」ということをよく聞きましたが、特に気にとめていませんでした。しかし、先生のお話を聞き、自分自身を大切に思うことで、どれだけ気持ちが生き生きしてくるかということを知りました。私は弱い人間なので、自分の欠点から目をそらしたくなります。なるべく欠点にふれたくないのです。しかし、自分を愛するということは、欠点から目をそらさず、それを認め改善していけるたくましさを必要とすると感じました。そして、愛とは感情の高ぶりだけでなく、またステキな対象だけに向けられるものでもない、価値なきものにもそそがれるものであるということも新しい発見でした。

現在個性化ということがさけばれています。そんな中で、他人と比べることのできない自分の価値、他人ではない自分をみつけ大切にしていきたいと思います。自分を愛すことのできる人は、他人をも同じように愛することができるのだから……。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

嘉　納　　洋

美事に咲いて皆様を迎えた余島の桜、カウンセラー11年目にして始めての事でした。何か良い事あるのかなと思いたくなりました。が、初めのグループ分けと、講演が1日に2つ、そしてバズセッションとフォーラムが2日に分けられたプログラムをみて、一寸心配になりました。蓋をあけてみて、心に泌みる講義、頼もしい若もの達の心と行動、そして御天気までも快晴と加勢してくれ

て、初めの心配は杞憂でした。

どの年もどの年も、それぞれに特徴があって色々な事を感じ、考え、若いエネルギーを頂き、個々に老若男女との滅多に得られぬ出会いに喜び感謝のライラです。が、11年目の今年、少し前に感じた若ものへの一喜一憂の“憂”のなかったのは何だったのでしょう。ライラの意図するものが行さわたって相応の受講生が集まって来られたのか、世の老人全体の自立心を思いやりの心が高まって来ているのでしょうか。いづれにしても今年は全体に生き生きとした素晴らしい方達との出会いでした。そして特に楽なカウンセラーをさせて下さったAグループの皆さんは、ライラを終ってもほのぼのとしたあたたかい心地良さを憶えさせて下さる不思議な素敵な集まりでした、有難う。矢張りとても良い事がありました。

いつもの事ながら、この様な若人との出会いの場を下さったロータリーの皆様にも心から感謝致します。

Bグループ

松　島　誠　治

このセミナーに参加するようになった経緯は皆と同じくたわいもない事によるものであったが、私は当初より幾つか感じて帰りたいと思っていた事が幾つかあった。

細かな事をあげるときりがないが大枠として“人との出会い”—それによる自らの向上—それを通して人の御役に少しでも立てたら—これは私がアクトをしている最大の理由であるが今回は他地区のアクターのみならず様々な分野で活躍されている同世代の人々、ロータリアンの方々と寝食を共にする機会を得たセミナーはこの「大枠の目的」に達する過程を考える上で更に有意義なものになったと思う次第である。

唯少し気になった事は（前々から気にはなったいたのであるが…）いわゆるGeneration Gapによる考え方の相違の広がり—それに伴う組織運営の変化—しかし今回のセミナーはこんな範囲のうちのもっと—もっと人にとって一番大切なBaelの部分を教えてくれたようなのである。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

田　中　元　久

この４日間、とっても貴重な時間だったというのが今私の率直な気持ちです。

講演では愛、自然を学びました。また、バズセッションでは様々な人たちの様々な意見を聞かせていただき、その中から多くのことを学びとったような気がします。その中でも自分自身に一番残ったことは人との出会いでした。みんなの顔、みんなでうたった歌、夜のバカさわぎ、一生忘れることがないと思います。

最後に一言。

みんな　ありがとう!!

田　中　祐　爾

大変感激したのが本音です。多くの事をこの4日間で考えました。あまりにも多い事なので今でも混乱していますが、いくつかの疑問点が解決しました。また多くの疑問点がでてきたのも確かです。考える事よりも行動することか難しい事もわかりました。でもすべての根底となる考えは、今回のテーマである「愛」になると思います。はっきり言ってこのセミナーに参加するまで愛が何であるかよくわかりませんでした。しかし、渡辺先生の講演や、その後で話しあいで言葉では表わせないが、愛が少しみえました。しかし、愛もわかるには、考えてわかるものではないと思います。行動して動くことで、本当にわかるものだと思う。今は、何か行動したいと考えています。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

河　田　　興

体力、気力ともに充実した3泊4日を終えた。自分自身のいたらなさとか、自分の当面の課題の"Self centrol"ということ以外に自らに課す課題が増えた。他の人に対するアプローチを数多く経験して多くの反発、共感を得たことが重要である。

渡辺氏のほほえみに、自らのほほえみを重ねたいと思う。かわいい顔してもの申すより語らずにして顔に出す。そんな人間となりたい。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

真　砂　雅　基

ロータリアンは熱い！（RYLA初日）

そして、やっぱりロータリアンは熱い！でも今の俺はもっと熱い！

松　本　和　孝

この度のRYLAセミナーに参加する事は、正直言って、あまり乗り気ではありませんでしたが、今は何かに感謝したい気持ちで一杯です。それは何より、良き人々に出会えた事が、私にとって大変意義深きものとする事ができたからです。

私にとってそれが全てであります。美辞麗句はこのセミナーに限っては、不必要であると思います。

有難うございました。

追伸　私は言葉を重視しません。「恥と汗はかくためにある」実践こそ、私にとって理想のリーダーであります。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

入　江　琢　也

第11回目のRYLAセミナーに参加させていただいた。初日の夜のキャビンタイムから班員が心を聞いて自分の意見などを率直に言えるふんいきになったと思う。

フォーラムでは残念ながらＢ班からの意見が少なかった。（私も、もっともっと意見を述べればよかったのですが。）しかし、あのキャビンで酒を飲みながら語り合ったことや、ハメをはずした事全てが私に説得力をもって語りかけてきたと思います。Ｂ班の人、そしてRYLAセミナーに参加した人全て心が熱かったと思います。このセミナーが終わればみなそれぞれ違った職場、学校へ帰って行きます。その中でここで感じたこと学んだことを生かして欲しいと思います。もちろん私もそうするつもりです。この熱き心をいつまでも大切にしてゆきたいと思います。どうも有難うございました。

高　見　智　幸

このライラセミナーに参加してみて私の思ったことは、人と人とのふれあいの場から、いろいろな心と心のつながりが生まれてくるのだなと改めて強く感じました。私たちの町では毎年２名づつこのセミナーに参加されて頂いておりますが、ぜひ来年も私たちの町から、１人でも多く参加できるようにしたいと考えております。人は、いろいろな考えをもっています。その一つ一つを尊重しあってお金ではとうてい買うことのできない「心」をどうやってつかんでいくか、常に考え行動していきたいと思います。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

川　口　雅　浩

三泊四日の間、海と緑と鳥たちにかこまれたすばらしい自然の中で、多くの人たち、いろいろな話に出会うという貴重な体験をさせていただいたことに深く感謝します。今後の自分の仕事において、人生において、この経験は必ず役立ってくると思います。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

田　中　貴　文

この集に来たのは、上からの命令があったので来た感じでした。

でも、講演を聞いて、表現はまだできないけれど、すばらしい感動をあたえられた気がします。

たしかによい経験だと思いました。

尾　垣　陽　子

いい天気と、おいしい食事、すばらしい環境にめぐまれて、寝不足…を除いては、私の体調は絶好調でした。いつもの生活とは全く違う４日間をこの余島で過ごし新しい経験をすることができました。このRYLAセミナーに参加させていただけなければ一生会わなかったかもしれない人々の出会いがあり改めて出会いの素晴らしさを感じました。毎晩遅くまでの宴会…いえ語り合いで多くの人生のドラマを見ること聞くことができ、テレビドラマよりもずっとずっと感激しました。このRYLAセミナーに参加しての感想を文字であるいは言葉で表現することは、とても難しいです。しかし何かが心に残り、これからの日常生活の中できっとじわじわとあらわすことができるようになり、またわいてくるものなのではないかと思います。すべての出会いに感謝しています。このセミナーに参加できて本当によかったです。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

青　木　栄　子

４月１日、不安でていっぱいだった私を、優しく迎えてくれたのは、この余島の丘に、暖かい青空のもとで咲く、満開の桜でした。

余島の美しい自然、ガバナーやロータリアンの先生方が、私にとって思っていた以上に親しみやすいものに感じました。

今の私には、この４日間に感じたこと、見たこと、聞いたことを、一枚の原稿用紙にまとめて書くことができません。

岩村先生や渡辺先生の講義はすばらしいお話でしたし、何といっても、キャビンでのたわいのない話や、手をたたきあって夜おそくまで皆んなの笑い声と笑顔の中で一時をすごせた事を、本当にうれしく思います。

この思いを言葉にできないことを大変もどかしく感じますが、この様な体験をさせて頂いたこと、今は本当に来てよかったという思い出いっぱいです。どうもありがとうございました。皆さん、いつまでもお元気で……。

来　田　千佳子

とにかく来てかったなと思っています。講演はもちろんですが、班での話し合いや、キャンプファイヤーなどから多くのことを学ぶことができたことを、たいへん感謝しています。

私事になってしまいますが、第2日目の夜、私の不注意から右足首をねんざしてしまい、多くの方にたいへんな迷惑をかけてしまったことを反省しております。ただ、ねんざをしたことからも多くのことを学ぶことができました。同じ班の方はもちろん、私が右足をひきずって歩いておりますと、すれ違う方が、「大丈夫ですか。」とか「荷物を持ちましょうか。」などと声をかけてくれました。ねんざをしてから、荷物は必ず誰かが持ってくれており、歩く時も私の歩調に合わせていただき、どれほどのお礼を述べても足りないと思っております。昨夜も星を見に浜へ行こうということになり、私もまた迷惑をかけながらついていってしまいました。いやがらずに肩をかしてくれたカウンセラーの先生をはじめみなさんにたいへんに感謝しております。

今回のライラでみなさんからいただいた優しさのおかえしができなかったことが残念です。私がいただいた優しさをこれからのRACの活動や、その他でかえしていければ幸いだと思っています。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

藤　原　紀代子

YOSIMA!このような島があるなんて今日迄知らずに渡りました。桜が満開、海と緑に囲まれ磯の香りが満杯、聞こえるのは小鳥のさえずりと浜辺にうち寄せる波の音、かつてこんな静かなひと時を持った事があるだろうか。愛についてこんなに激論を交わした事があるだろうか！じつは3日前に急に決まったライラセミナー参加の私ですが、まず頭に浮かんだのは年令差です。でもキャビンでの討論、若者達の率直な心に触れ本音を聞かされ、また素晴らしい講師の先生方の講演が拝聴できた機会に恵まれた事、感謝にたえません。産婦人科

ナースとして、一つの生命の誕生の重さを再認識し、この命がこれからの長い将来素晴らしい愛に囲まれ育てられる事を祈ってやみません。また若い看護婦を指導する上で、自分の置かれた立場、場所、条件の中で真の看護を共にめざして行きたいと思っております。医療ではなく、真の看護の少ない現在の病院の姿勢を改めて考えてみたいと思います。本当にありがとうございました。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

田　村　宰　子

全体のテーマ「愛」バズセッションのテーマ「青少年リーダーの在り方」ということでしたが、私がこのRYLAセミナーに参加して、いま一度考えなければならないことがあるような気がしました。

「愛」単に男女間のことだけではないのです。親子・兄弟・友人・自然等に対する思いもそのうちのひとつなのです。ノートルダム清心女子大学長の渡辺先生の講演の中にもありました。愛することと好きになること、それは違うということが、とても印象深く心に残っています。「好き」は感情的なもの「愛する」は、その人全てが受け入れられること、そして責任が伴うことということも言われました。この4日間で素敵な出会いをしました。初めの自身のなかった私も、自分の心をさらけ出して話していくうちに、ただ「好き」だけでなく、メンバー皆を「愛する」気持ちを持たなければいけないのではないかと思えました。

「青少年リーダーの在り方」というのは、さきに述べた「愛」があって考えられるといってよいと思います。皆を愛して初めて、リーダー的行動も起こせるのではないかと思っています。

この4日間を通して、バズセッションの時に限らず、三晩通して、アルコールを口にしながら語りあったこと、それはとてもよかったし、うれしかったという気持ちでいっぱいです。最初は、私がここにいるのは場違いなのではないかと思っていました。けれど、このセミナーが終了しようとしているいま、ま

たこのセミナーで語りあいたい、馬鹿騒ぎもしたいと思っています。何となく、これからのことに少しでも自身がつき、勇気を持たせてくれたと思って、このセミナーに心から感謝しています。この4日間本当にありがとうございました。またお会いできたらいいですね。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

古　谷　純　子

よい天気に恵まれて、よき人々に囲まれて美しい愛あふるる余島でのびのびと自分を十分に発散出来た4日間は私にとりまして幸わせな日々でした。特に講演の三先生はどなたもすばらしく私に先生方の内からほとばしるような光をあたえていただきました。頭ではなく心、言葉ではなく行動、今はまだ私の中で混然としていますが、長い時をかけて私の中でこなされて私になってくれたらと思っています。青少年とはいい難い年ではありますが、今の若い方々の率直な姿に接する事が出来、楽しい時間を持てました。

もし可能ならば、ここに参加する人々に、早くからアンケートをとり、大きな主題を皆からの意見で集め決定し、準備をしてから集まれば、もっともっと深い所での意見の交換が出来るのではと思います。

実り多い日々をありがとうございました。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

北　代　玲　子

再び、ライラに、余島に来れた事を感謝致します。

今、私の心は、ふるえっぱなしです。土や木々や空気や海・空・太陽…そして、人の心…いろんな物を感じて、ふるえがとまりません。私が今、ここにいるのも自然の法則なんだと思えてきました。

“愛”私の一生のテーマ…そして、宇宙の愛を全身で、全細胞で、いつでも

どこでも呼吸をする様に感じられる事。そこに少しでも近ずく為に、今ここに、ライラに存在している様だ。「心の中に愛する力を養う…普段見えてない事をみる。普段あたり前だと思ってた事をありがたいものだと感じる事。」講演で、ある先生がおっしゃった時、涙が出る程、嬉しかった。今まで、私のしてきた事は、こういう事だったのか。まちがってなかった…心の底から実感した。

私は、今、何かにむけて、確実に追し出されている。それをまた、はっきりと今、感じている。何か総合的な統合へむけているような…。論理じゃない…実践だ！それを自覚した。自分自身を信じて…。

今、心の中に“無”を感じる。率直にすべてのものが吸収されてゆく私を感じている。心が、ヒフが、内臓が、躍動している。まわりの空気があたたかい。すべての思考よ、原点に帰れ!!海、この広い海、海を汚してはならない。すべての自然界を平和に！宇宙の愛を感じて、宇宙共同体になりたい。

B班…すばらしい人々に出会えて、友達になれて感謝しています。この3泊4日は、ただの3泊4日じゃない。時を越えた重みの日々。B班の皆さん、ありがとう。本当にありがとう。

❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀ ❀

林　　美枝

私は、人前で自分の意見を発表したりするのがすごく苦手でこのRYLAセミナーに参加しないかといわれた時はすごく悩みました。正直に言ってくる前はイヤだイヤだと思っていました。しかし、そのイヤな思いは1日目でどこかにふっとんでしまったみたいです。若い人もある程度年をとってらっしゃる方もみなさん本当に話しやすくて楽しい人ばかりでした。人との出会いって素晴らしいなぁと思いました。

私がびっくりしたのは、皆さん遊ぶときはものすごく幼い子の様にはしゃぎ回るのに話し合いとかになると180度変わって1人1人自分の意見を持っていてそれを皆の前で堂々と発表することができるということです。それと人の意

見について本当に真剣に考えてくれて、自分の時はこうだったとか、そのためにはこうすればいいんじゃないかなと意見を出した人がなっとくする様にもっていってくれることです。素晴らしいことだと思います。ですから消極的だった私もどんどん意見を出すことができました。バズセッションでは本当に勉強になったと思います。

講演でもむずかしいなと思ったのもありますが、胸にキュンとくるものがあって涙が出た時も何回かありました。感動するものはたくさんあったけれどその中でこれからの私の課題にしようと思ったのは、「明るく過ごしても暗く過ごしても同じ24時間。どうせ過ごすなら明るく過ごしていこう。」ということです。物事をするにしても機械的にやるのではなく心をこめてしていこうということ。これからその課題を頭においてがんばっていこうと思います。

最後にこのRYLAセミナーに参加させて下さった馬原先生に心から感謝したいと思います。

講演をして下さった先生方を始めお世話して下さった皆さん本当にありがとうございました。

Ｃグループ

上　平　　等

C班で自己紹介しましたが、俺がRYLAセミナーに参加したのは、参加人数2名の内1名しか決まっていなく“突然”参加する様に言われて来ました。

セミナーでのスケジュールを見、あまり乗りきはしなかった。講義だの、テーマがどうなど来る途中も不安で心配でした。皆の中に解け込めるだろうかと。その心配も一日で終わっていた。

（俺？）RYLAセミナーに参加した事は俺にとってほんとうにプラスになりました。

岩村先生を初め、渡辺先生、福岡先生、自分の知らない事がたくさん聞き感無量です。

今回のテーマ、＝愛＝、すごく興味があり中でも渡辺先生の一言一言が自分の胸に刻み込まれている又、キャビンタイムの時誰一人として知らなかった人達と楽しく話し解け込む事ができ感動の一言です。

今までこの様な研修には参加したくなかった自分が何かそんをしてきた様にさえ思う様になって来ています。今一度自分、上平等を見つめなおそうと思います。

RYLAに関するスタッフの方また参加している皆んな、ありがとうございます。

貴重な3泊4日の研修でした。まだまだ未熟者ではあるが以前の自分より少し成長した様に思います。

出逢いをありがとう。愛をありがとう。

この3泊4日、自分の人生の中でこの経験をいかし強く生きて行こうと思う。

最後に一言、

ありがとう

皆さん「ごたいせつに」

以上

井　村　　聡

この3泊4日のセミナーを通して色々な事を勉強させていただきました。最近よく思う事に「人間としての器」があります。今の状況をよくわきまえて、より多くの人達と語り合い、人間性を見る事において、視野が広がり自分自身の器が広がっていくと思います。器が大きい人間は包容力が大きく、人を安心させられると思うんです。このセミナーにおいて様々な方に出合いました。様々な事を語り合いました。理解できなかった事も多くあります。これらすべての事を自分のこやしにして器を大きくしていきたいと思います。

このセミナーに参加する機会をあたえて下さった方々に感謝しています。そして、自分だけでなく、後に続くべき人達に伝えていきたいと思います。今後も機会があればこのようなセミナーに参加していきますので、よろしくお願いします。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

森　本　晃　子

月並みな言葉は言うまい……と決心してましたが、閉講式、記念植樹を終えて今、やっぱり、ありがとうございました。みんなに会えて良かった！、と思わず書いてしまいました。4日間本当に短かかった！。私のすべての毎日から離れて余島という星にやって来た4日間、この星での一日一日、一刻一刻、本当に走馬灯の様に感激です。（また月並な言葉……でも飾らず、てらわず思えました）波の音を聞き、鳥の声を聞き、おいしく食事をいただき、テレビ、新聞よりのニュースも聞かず、心とむきあえた4日間、今人生のUターン時点の私に大きな思い出をつくってくれました。今週過した日々の実践を確かめの人生だとこれからの人生に目標を定めました。そのスタートに大きなバラの花にたとえられる4日間であった事を思います。この4日間共にして下さった島全体の時を共に過ごせた皆様にありがとう！

清　水　　智

3泊4日の、このRYLAセミナーに参加できたことにとてもよろこびをかんじています。各県からまたあっちこっちの、サークルから集まってきて、何も自分以外しらないもの同しが、自分達を話し、またひとつのテーマにむかって、問題をのべ、かたりあえる時間があったことはとてもよかったです。それに青少年リーダーというものを自分は、したてともないし、また参加することもなかっただけに、サークルをしている人々の、なやみや問題点、くろうばなしなど、これから、何をしたいか、何をすべきか、なんとなくわかってきました。もし何らかの形で、このようなサークルに参加できれば、もっとその人たちの気持ちがわかるのだと思います。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

小　瀬　木　理

様々な人生をおくっている人が、様々な考え方を持ち寄って、出逢い、語らい、心を交えてゆく。このセミナーの四日間という時間はこのことだけを考えてみても本当に意義深いものだと思います。

昨日まで全く知らなかった者同志が、夜を徹して語り合い、普段では聴けないような素晴らしい講義を受ける。その全てが毎日の生活の中ではとても考えられない貴重な体験でした。

今回このセミナーに集まった人は20才の学生から50才近いロータリアンの方々まで幅広いものと聞いています。地域も年齢も性別も違う人々の集まりです。しかしどの人にも共通していることがありました。そしてその事に入島以来自分の心はくり返し感動していました。それは“今回参加したどの人の瞳も等しく輝いていた”という事実です。講義をまるで臨むように見つめる視線、口角に泡して語り合う目……。その全ての人の瞳はたえず光っていました。そしてその光は熱くあくまで透明でした。これが僕のような人間にはおどろきでした。

今回のセミナーをどう受けとめるかは全く参加した本人しだいだと思います。僕はこのセミナーを“本当の自分を見つける場所”ととらえました。そしてこの四日間を通じて人の瞳の熱っぽさにふれ、もう一方で自己の汚なさ、おろかさ、卑少さを見つけたような気がします。このセミナーに集まった人、全てが自分に見せてくれた瞳の輝きを忘れることなく、漫然とした心しか持っていなかった今までの自分を少しずつでも再形成してゆきたいと思います。

こんな絞切り型の文章しか書けない自分を許して下さい。本当に、全ての人の瞳、全ての人の一言一言に激しく感動した四日間でした。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

藤　原　正　規

三泊四日のRYLAセミナーも、もう終ろうとしています。はじめは三人の先生方の講演などきっと退屈なものだろう、講演の時間は居寝りをしてしまうだろうと思っていましたが、いざ話を聞きはじめると先生方の実体験に基づいた話に自然と引き込まれてしまいました。

知り合いが一人しかいなくて来るまでは不安なことばかりでしたが夜を徹しての酒をくみ交わしての話し合い、三度の講演、キャンプファイヤー、レクリエーションなどを通して他の場所では出会えなかったであろう素晴らしい友人や、経験できなかったであろう貴重なことを得たと思います。

特に夜の話し合いでは、大学生活では絶対に話し合えない真剣な事を話し合うことができて最高でした。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

松　本　一　朗

最初にこのライフセミナーに私を派遣して下さった、赤穂RC並びにこのセミナーを主催し主管して頂きましたライフセミナー運営委員会の皆様に感謝いた

します。

私はこのライラセミナーに参加できてほんとうに良かったと思います。

余島キャンプのすばらしい自然の中で聞いた岩村先生、渡辺先生、福岡先生の講演は時間を忘れさせてくれるほど、興味深い物であり、私の頭の中をリフレッシュさせてくれるものでしたし、人生をおくる中で多くの課題や教訓をあたえてくれるものでした。

毎夜のキャビンタイムは私に多くの出合をくれました。

今回のライラーでの経験を血とし、肉として、私のRC活動の中で、実践してゆくには、少し時間が必要だと思いますが、今ロータリアンとしてすぐ実行しようと思うことは、地域で活動している青年に１人でも多く参加してもらえるよう努力することです。

最後になりましたが、４日間私達の身近な所で、色々な話をし、お世話をして下さった、篠原さん、林さん「ありがとうございました。」

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

川　本　康　司

以前よりRYLAのことをいろいろと聞いて自分なりに考えていた以上にすばらしいセミナーでした。

偶然にも今年このセミナーに集まったメンバーが、初めて、会った日にすぐうちとけられる、といったすばらしさ、また CABIN TIME で自分たちの本音をぶつけることができ、またそれに対して本気で答えてくれるという経験は自分にとって価値のある物だったと思います。

もし、もう一度来ることが出来たら、と思いました。

田　中　康　夫

私は、このセミナーに参加して大変良かったと思いました。それは自分にはなかった、物の見かた、考えかた、感じかたが「愛」というメインテーマから少しかもしれませんが学びとったような気がします。

また皆さんと行動、討論したことと合わせて忘れずにいたいと思っています。

最後にやっぱりアルコールが足りなかったと切実に思うしだいです。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

行　定　洋　嗣

初めに、このRYLAセミナーの企画運営をしていただいた皆さんと、私にこの機会を与えてくださった皆さんに感謝いたします。

このセミナーは、これまでに参加した種々の研修会とはプログラムや内容が異なっていました。開講式の時に三宅ガバナーが「皆さんはリーダーとして必要な技術は身につけている。このセミナーでは心を学んでほしい。」と言われましたが、確かに私は、日々の生活の中で思いやりの心を忘れてしまうことが多いようです。３人の先生の講演は人間の生き方の理想像を示してくれたと思います。少しでも、それに近づく努力をしていこうと今、思っています。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

岩　熊　隆　之

仕事を休んでまでセミナーにと、思っていましたが“愛”というテーマで中味のある講演を受けることができ、自分自身を見つめ直し、また、多くの方々と出合い大変プラスになりました。

私は、福祉関係の仕事をしていますが『みんなで助け合い、共に生きる社会』を中心に仕事に活動にがんばっていきたいと思っています。

最後に、この研修で私は“アルコール中毒”になりました。

長　崎　亀四郎

すばらしい自然に出会い、すばらしい講師に出会い、すばらしい仲間に出会ったRYLAセミナー

このすばらしい出会いをいつまでも大切にしたいと思います。

このセミナーで得たものはたくさんあります。まず、講師の先生方のスケールの大きさに感動しました。

３人の先生方は、それぞれ違った体験の中で愛について語られました。その中で一番印象に残ったことは、マザーテレサの人類愛に対する考え方です。私達は何事も現実的に考えがちでありますが、これだけ大きな視野にたって愛を注ぐことが出来るならば、本当にすばらしいことだと思いました。

また、キャビンタイムの想い出は忘れることが出来ません。夜を徹して語った仲間達、その一人ひとりのパーソナリティは、すばらしいものでした。また、会えることを楽しみにしています。

このセミナーの感動をいつまでも忘れることなく、教えていただいた事を少しでもこれからの生活に役立てていきたいと考えています。

最後になりましたが、セミナーをお世話いただいたロータリアンの皆様方、また、ご推せんいただいた鳴門ロータリークラブに心から感謝申し上げます。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

渡　辺　正　広

私がこのRYLAセミナーに来たのはある３月の日会社の社長からこういうセミナーがあるので参加してみないかというのがきっかけでした。

集合場所が４月１日の2:00に小豆島の銀波園ということで何もあとは教えてくれませんでした。それで一人だけでとても不安な気持ちでこの島にやってきました。１日目他のセミナー生達との出逢い、そして先生方達の紹介このセミナーの目的、計画そんな中で一日が過ぎていきました。まず一日目から多くの人と出逢いました。一人の不安が消えました。二日目の講演でテーマ愛につ

いての深さを知りました。現在の自分がその講演で子供の頃に戻った気持ちになりました。そしてキャンプ及び毎日の夜のつどい私は初めて出逢った人間達がこんなにも仲良く協力できるものだろうか、こんなにも相手に対し優しく出来るものだろうかと感じました。3泊4日長いものだと思っていたセミナーがまるで1泊2日の旅行の様に終ってしまいました。私は今仕事におわれいそがしい毎日の中こんな貴重な体験が出来とても良かったと思います。

毎日朝までそれも今まで全然知らなかった人達と愛について話し合った事について今感動しています。私はこの貴重な体験を戻っても忘れる事なく今の生活に折り込み頑張っていきたいと思います。また出逢った人たちとも今後大切な友人としてつきあっていきたいと思います。最後にこの計画及び企画をたててくれたスタッフの人たち、カウンセラーの人達に感謝してこの研修を終えたいと思います。

本当にありがとうございました。

以上

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

橋　口　由　紀

私は今就職浪人しています。今までにもいろいろなつまづきがありましたが、この就職浪人というものは、私に大きな挫折感を与えました。次々に就職先の決まっていく友だちを見て焦り迷い、自分の目標を見失いそうになりました。今、私の人生にはぽっかりと穴があいているのです。私はそれを認めるのが恐ろしくて、目をそむけ、気付かないふりをして通りすぎようとしていました。しかしこれは、主体性がなく自分で真剣に自分という人間を考えることのなかった私に与えられた、自分自身を見つめなおす良い機会なのだから慌てずにじっくりと、とりくんでいきたいと思います。自分の傷から逃げずに真正面から立ち向かい、この傷をバネに大きく成長したい。そして人の傷の痛みを共に受けとめられる人間になりたいと思う。この時期にこのような貴重な体験がも

てたことを幸せに思います。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

下　山　裕　子

新しい仲間との出会いとふれあいが、このRYLAセミナーで得た、一番大切なもののように思います。

わずか3泊4日で、それも年齢層の違う初対面の人達と、何ができるのか。表面的な、無理やり造ったようなものに終るのではないか。ここへ来るまでは、そんな思いでいました。

しかし、年齢も、生活も、経験も違う。そんな人達と語ることは、不可能だろうかと、今尋ねられたら、私は違うと応えます。年齢や経験が違う人と話してこそ、自分にとって、又その話す相手にとってもプラスになることが多いのではないか、そう思います。

また、すばらしいお話を3人の先生方にうかがい、自分の視野を広げるという点でも、そこから自分の考えをつくっていくという点でも役に立ちました。

人を愛することは、自分にとってプラスになる人だけを愛することではない、そういうお話もありました。しかし、私は、すべての人が、自分のプラスになる、すべての経験が自分のプラスになる、そう思っています。

今後、さらに様々な経験を積み、自分の考えを形成していきたいと思います。

また、自分の考えを形成し、それが最高、至高の考え方である、それのみが真であると自分の考えを過信することなく、他の意見をも尊重していきたいと思います。

「人との出会い、ふれ合い、自分発見」をテーマに、これから自分を磨いていきたいと考えています。

岩　国　志　保

こう書くと大げさかも知れませんが、私は今後自己の生き方そのものを変えていけるような気がします。いつの間にか、自分をよく見せようとする姿勢をつくって、所請「優等生」であろうとしてきた、そんな今までの自分を、初めて真剣に見つめ直すことが出来ました。当セミナーで様々な地域、職業、年齢の人々と出会い、意見を交えることによって成し得た、本当に貴重な体験です。

講演会で聴いた先生方の貴い御経験談も、私の乏しい人生経験にとって大いにプラスであったことは事実です。しかし、それ以上に身近な先輩方、否このセミナーでの「仲間」との討論の機会が、私の目を覚まさせてくれました。

教職を目指す私のそばに、教育分野に携わる仲間がいる。今まで周りとの衝突を避けて無難に過ごしてきた私に、本音の意見を求めてくれる仲間がいる。ほんの三日前までは全く知らなかった人と“腹を割って”話す。親友に対してさえ打ち明けられないことを話せる仲間がいる。私にとってこれほど有難い財産はないと思います。

これからは、私が周りの人々に影響を与えられる、自分をさらけ出せるようになりたい。今痛切にそれを願っています。

RYLAセミナーで得たものを生かして、次の人々に分かち合う努力を続けていく決意です。

P. S　C班のみなさんまた会いましょうね。

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

藤　木　磨夕美

最初RYLAに参加するまではただ他の団体や職種・年令の違った人たちとの出会いを求めるためでした。今までこのようなさまざまな青少年活動研修に参加していて講義の楽しさ・素晴らしさをこれほどまでに実感したことがありません。自分の現在・過去そして未来で悩み、越えていかなければならないものに、自分だけでなく全ての人がぶつかり、苦しさ、つらさを経験し、それに

よって飾らない真の人の心・ふれあいが得られることがより実感として心に残ったように思います。自分で悩んで自分なりに解決して来たこと・友によってアドバイスを受け話しあいながら何か形にない新しい心の形を見つけて来たことを今まで幾度か与えられた自分が本当に恵まれていたと思います。よく“喜び・苦しみをわかちあった友”といいますがなかなかそのことを体験できる人はいないと思います。それにはやはり自分から『勇気』を出し、人にぶつかり、自分が納得できるまで本音で話を交わすことだと思います。今までにも何度か“一体自分は何をやっているんだろう”“こんなことを辞めてしまえば本当に楽になるのに”と考えたことがあります。でもそこでそのつまづいた穴というのを見ないふりをすることで自分自身に負けることになる。だから自分だけで前進できなければすぐ側にいてくれる友にうちあけ、自分のあまえ、見えているのに隠そうとしている心について話をします。よく『君は強いからだいじょうぶ』と言われます。でも１人ではどうしても生きていけないと思います。強さというのは勇気だと自分は信じています。これからも自分を見失なわないように勇気をだして生きようと思っています。何か話しにもまとまりなくきれいごとを書いたようになりましたが、これだけはみんなに言いたいと思います。

「これからの私を見ていてください。」

❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖ ❖

林　　眞紀

すばらしいＣ班でした。あかるい青空、満開の桜、つつじと余島のあたゝかさに囲まれ皆さんの心が全開したのではと思える四日間でした。よい仲間に出会えその喜びがキャビン一杯にひろがりしあわせな気分にひたれました。シスターのお話のように一人一人が自分を愛し、おかれたところで咲き、しあわせな人生を送られることと祈ってやみません。

豊かな四日間をありがとうございました。

第11回ＲＹＬＡセミナー運営委員会

顧　　問　今井鎮雄（268地区パストガバナー　神戸西）
　　梶浦暲一（267地区パストガバナー　松　山）
　　森　　滋郎（268地区青少年活動委員会諮問委員）
　　萩原　　茂（267地区青少年活動委員会諮問委員）

R.I. 第268地区

深川純一（伊　　丹）　　篠原慶弘（姫　路）
村田伸一（明石南）　　三木且視（龍　野）
下岡節三（川西猪名川）　　安平和彦（姫　路）
井奥寛泰（姫路南）

R.I. 第267地区

谷口修平（松山西）　　吉本　　功（高知東）
平地保治（小豆島）　　吉原哲男（高　松）
元廣武志（徳島北）

カウンセラー

両地区のロータリアン及びロータリアン夫人

第268地区　　第267地区

東　　敬三（神戸東灘）　　菊沢建明（伊　予）
三木　　明（姫　　路）　　篠原成行（北　条）
嘉納　　洋　　関　　淑子（高　知）
林　　真紀　　沼野正子（坂　出）

あ　と　が　き

ライラ委員長　平　地　保　治

第11回桜の花の満開の中で、成功裡に全プログラムを終了できたことは感謝に耐えません。ライラをやってよかったの一言です。ありがとうございました。

奉仕は、自己研鑽に基づく心の向上が基本であり、協調、友愛、平等の精神であります。

テーマは、「愛」にしようと三宅ガバナー、青少年委員長江藤氏を中心に決まりました。いつもながら、ＰＧ梶浦、谷口氏のご尽力により、岩村先生、渡辺先生、そして福岡先生の快諾を頂きました。

青少年委員長の江藤さんには、各ロータリークラブをまわり、ライラについての大切なことをスピーチされ、多くの参加者を迎えました。うれしく思うとともに、頭が下がります。奉仕は実践において生きてくることを教えてくれました。

そして、ご指導とご助言をいただき、第11回ライラセミナーのディーンとしてお願いし、心の暖かさにふれることができ、うれしく思います。

事務局の水谷さん、そして委員の皆様、カウンセラーの皆様のご指導に厚くお礼申し上げます。

報告書ができあがりましたので、お届けします。参加されたみなさんは、３泊４日の中から愛と熱意を十二分に受け止め感激したことを、それぞれの場において分かちあってくれることを期待しています。

「来年もぜひ参加させてください。」と熱い握手やお便りをいただく時、その友情に対して感激一杯です。

来年もまた会いましょう。

ありがとうございました。